

実践教育による
「社会人力」育成プログラム

文部科学省平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」選定

中間報告書

University

Momoyama Gakuin Un
established on Showa-



桃山学院大学
St. Andrew's University

実践教育による 「社会人力」育成プログラム

文部科学省平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」選定

中間報告書

目次

目次	1
1. ごあいさつ	2
2. 事業概要	4
2-1 取組の概要	4
2-2 取組の趣旨・目的・達成目標	5
2-3 取組の具体的内容	7
2-4 取組の実施体制	9
2-5 取組の評価体制・方法	14
3. 各実践科目の取組内容	15
3-1 平成22～23年度実施科目	15
3-2 平成23年度実施科目	30
4. e-ポートフォリオ（manaba folio）	54
4-1 運用授業科目	54
4-2 システムの構成	54
5. シンポジウム開催	58
5-1 第1回シンポジウム「社会人力を育成する」	58
5-2 第2回シンポジウム「『つながり』をつくる」	60
5-3 第3回シンポジウム「これからを生きる就業力」	77
5-4 第4回シンポジウム「実践演習コンペティション」	103
6. 視察報告	117
7. 外部・内部評価（平成22年度、平成23年度）	121
7-1 外部評価	121
7-2 内部評価	122
8. 巻末資料	125
9. 連携機関一覧	142

1. ごあいさつ



学 長

明 石 吉 三

(全学就業力G P委員長)

—自ら考え、積極的に行動する「世界の市民」の育成を目指して—

本報告書は平成22年度文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」（就業力G P）に選定されました本学の「実践教育による「社会人材」育成プログラム」の取組について、2010年度（平成22年度）と2011年度（平成23年度）の2年間の活動報告を記したものです。

現在の日本は東日本大震災への対応、円高・株価の下落、加速する高齢化社会への対応、所得格差、地球環境問題等々、幾多の難問に直面しています。このような状況に、私たちはいかに対応していけばよいのでしょうか。答えが容易に見出せるはずもありません。少なくともいえることは、私たち一人ひとりが、この状況をしっかり認識し、改善に向け努力し続けることでしょう。そのためには従来の座学だけではなく、実践教育が必要です。本学の取組は、自ら考え、積極的に行動する「世界の市民」の育成を目指して活動をいたしました。

就業力G Pは当初5か年が予定されておりましたが、国の方針により2011年度（平成23年度）末で廃止されました。しかしながら、本学の取組の2年間の活動は4回のシンポジウムの開催、11の実践教育の実施と充実したものとなりました。これもひとえに、実践教育に携わった教職員、地域の皆様、関係団体及び他大学関係者の皆様のご支援のおかげと深く御礼申し上げます。

本取組で実施しました実践教育は引き続き行ってまいりますので、今後ともますますのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



経営学部長

松尾 順介（就業力G P推進委員長）

—実践教育を通じて、社会人力を身につける—

2010年度（平成22年度）「大学生の就業力育成支援事業」（就業力G P）においては、学長の強力なリーダーシップのもと、全学的かつ体系的な取組を実施し、学生の社会的・職業的自立を図るための教育改革の推進が強く要請されました。これは単に文部科学省からの要請だけではなく、大学のステークホルダーからの要請であるとともに、社会からの要請であるといえます。

急速に変化する経済や社会においては、最新流行のビジネスモデルもすぐに陳腐化し、新たなモデルが模索されます。この厳しい現実、私たちの教え子は身を投じ、社会人としてタフに生きねばなりません。そのタフさを身につけるため、経営学部では実践教育を導入・拡充することで、「社会人力」を育成することを企画しました。

元々、経営学部に入學する学生は、ゼロから経営学を学ぶこととなります。というのは、ほとんどの学生たちがいずれ就職し、企業で働くにもかかわらず、中学・高校の授業では、企業経営に関する知識があまり教えられていないのが実情だからです。したがって、大学での勉強の度合いによって、入学偏差値に関係なく、学生たちは企業経営や経営学の知識を身につけることができます。しかし、知識を沢山蓄えたからといって、良い経営者、良い社会人になれるというものではありません。そこが経営学の難しいところです。

数年前から経営学部では、企業経営の勉強をより現実的で、活力のあるものにするため、教室で学ぶ座学と実践的な取組とを相互に関連付けながら企業経営を学ぶ仕組みを構築しようと努力してまいりました。そのためには、次の3つの要件が重要だと考えました。第一は学生たちがグループワークを行うこと。第二は教育支援の情報ネットワークを取り入れること。第三は学外の企業や諸機関との連携を築くことです。これらの要件を満たすことは容易ではありませんが、経営学部では、教員が努力を重ねながら、実践教育プログラムを構築・実施して参りました。また、それによって、学生の「社会人力」を育成し、就業力の一層の向上を目指してきました。その努力の結果、我々の取組は、実践教育による「社会人力」育成プログラムとして、就業力G Pに選定されるに至りました。同G Pでは、変化の激しい時代に柔軟かつ的確に対応できる能力を「社会人力」と捉えました。具体的には①問題発見および思考力、②協力・コミュニケーション力、③改善・実行力をその要素と定義しました。さらに、「社会人力」育成には、実践教育が極めて有効であると提案し、「環境ビジネス実践」、「地域ビジネス実践」、「福祉ビジネス実践」、「経営分析実践」、「農業ビジネス実践」、「図書館経営論」、「博物館ビジネス実践」、「映像ビジネス実践」、「伝統芸能ビジネス実践」、「法務・税務ビジネス実践」、「地域ビジネス論」などの実践的な科目を導入・拡充しました。これらの科目では、履修生は自ら思考し、判断し、実行する経験を蓄積しており、これらの経験の蓄積は就職活動にも生かされています。

残念ながら、「就業力G P」は2011年度（平成23年度）で廃止となりましたが、このような機会をご提供いただいた文部科学省ならびに関係機関の皆様には厚く御礼申し上げます。

経営学部は、これからも実践教育の拡充を進め、学生の「社会人力」の向上に努力していく所存です。今後とも変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2. 事業概要

2-1 取組の概要

本取組は、実践教育を積極的に取り入れた教職協働プログラムを構築・実施することで、学生の「社会人力」を育成し、就業力の一層の向上を目指すものである。本学では、変化の激しい時代に柔軟かつ的確に対応できる能力を「社会人力」と捉え、①問題発見および思考力、②協力・コミュニケーション力、③改善・実行力を、その要素と考える。具体的には、多様な情報を読み解く力、柔軟に発想する力、その結果を表現・伝達する力、専門知識を学習し活用する力、様々な集団の中でコミュニケーションを図り、時にはリーダーシップを発揮する力、英語を中心とした語学力等々である。

このような「社会人力」を身につけるためには、画一的かつ知識集約型の学習ではなく、多種多様な現実と向き合い、刺激を受けることが不可欠であり、そのためには実践教育が極めて有効であると考え。この実践教育を推進するに当たり、本学では地元企業や環境NPO法人など学外の地域ネットワークを活用するとともに、学内の組織連携をいっそう強化し、学生を全学的に支援する体制の整備を目指している。

さらに、本取組においては導入を計画する学生ポータルシステムを積極的に活用する。本学では従来、学部と事務組織あるいは事務組織間の連携を図り学生の就業力向上に努めてきたが、教職協働で学生ポータルシステムを活用することで、個々の学生の実情に即したきめ細かい助言や指導をさらに充実することができると考えている。

本取組の骨子は次のとおりである。すなわち、学部教育では1年次の「大学生生活入門セミナー」、2年次の「基礎演習」、3・4年次の「演習」をコアに、専任教員によるきめ細かい指導を行っている。また、「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」「業界・職種研究入門」「職業を考える」「インターンシップ」「企業人に学ぶ」「起業家育成入門」等のキャリア科目を用意しているが、本取組ではさらに①環境ビジネス実践、②地域ビジネス実践という極めて実践的な教育科目を新設するとともに、上記の演習でも積極的に実践教育を導入する。

環境ビジネス実践では、環境問題に取り組むNPO法人や地域の農業の現場でインターンシップを行う。地域ビジネス実践では、婦人服・アクセサリーなどを販売する店舗を学生だけで企画・経営する。また、各演習においては、その専門分野の特性に応じて実践教育を導入する。さらに、南大阪地域大学コンソーシアムと連携する地域企業へのインターンシップ派遣を通じた実践教育も拡充する。これら授業科目や演習での学生の取組は、演習などにてプレゼンテーションや論文作成としてまとめるとともに、学内外の発表大会や合同ゼミでも成果を発表し、さらにはビジュアルコンテンツとして学内サーバ上に蓄積、学生ポータルシステムやeラーニングでの活用に供する。具体的には、①既に蓄積されている個別学生の情報との接合によって、きめ細かなキャリア形成支援

を実施、②ビジュアルコンテンツを基礎教育へ利用、③教員によるFDの資料として利用などを計画している。本取組は、学部と、教務課、キャリアセンター、情報センター、学生支援課、国際センター、エクステンション・センターなど全学各部局との有機的かつ機動的な支援協力体制のいっそうの強化にも繋がると考えている。最後に本取組では、卒業後の個々の学生に対しても、社会人力がどの程度身につき、かつ個々の職場で発揮されているかをフォローアップする仕組みを導入・実施する。その際にも、学生ポータルシステムや卒業生との連携を活用する。

2-2 取組の趣旨・目的・達成目標

2-2-1 趣旨

本学では、様々なキャリア形成支援および就職支援を行っている。結果、2009年度の就職率は求職登録者に対して93.2%である。この数字は、最近の厳しい就職状況の中、近隣の他大学と比較しても良好な数値であるといえる。しかし、本学はこの数値に満足するものではない。さらに、就職はあくまでも社会への窓口に過ぎず、重要なことは、社会の変化に柔軟かつ的確に適応できる能力を養成し、変化の激しい時代を生き抜く力を身につけさせることであるとの認識の下、ここに以下の課題を挙げる。

第一に、教育内容については、「座学」中心で、実践教育が乏しいことである。知識習得や理論研究を中心とした「座学」の重要性を否定するものではないが、従来の教育は、変化する現実直面して、そこから学ぶ姿勢に乏しかったと言わざるを得ない。

第二に、経営学部の学習内容は、企業経営、市場動向、情報分析、簿記会計など多岐にわたり、ややもすれば、散漫なものになる恐れがある。しかし、旧来の履修体系は、必ずしも学習の中心軸を意識させるものではなく、体系的とは言えない面がある。そのため、経営学部生は、明確な学習目標を意識しにくかったと思われる。

第三に、個々の学生の実情に即した指導が必ずしも十分ではない。個別の学生の情報について、各部局や指導教員が分散的に保有せざるを得ないため、個々の学生の情報ポートフォリオが欠如しており、その実情を客観的かつ総合的に把握できない。今後は、情報ポートフォリオを構築し、それに基づいたきめ細やかな指導を行う必要がある。

第四に、全学の連携を従来にも増して強化する必要がある。学生のキャリア形成支援や就職支援は、キャリアセンター、エクステンション・センターだけでなく、教務課、学生支援課、情報センターなどの各部局、さらに教員との連携も重要である。しかし、本学も、一般に指摘されるような縦割り組織の弊害から無縁ではなく、各部局の取組について、情報共有や相互連携に課題を残している。そこで、教職員間の連携も含めた、全学連携をいっそう強化・充実する必要がある。

第五に、本学の導入・実施する、キャリア形成支援および就職支援は、広範かつ多岐にわたるものであり、他大学と比較しても質量ともに充実したものであるが、体系的な指導・支援が行われているとはいえない。そこで、体系的な指導・支援が必要である。

2-2-2 目的

上記の5つの課題に対して、以下のように課題解決目標を設定している。

第一の課題については、本事業の中心となる実践教育の導入・拡充が挙げられる。ただし、本学では、むやみに実践教育を実施することで、学生たちに様々な取り組みを強制することを企図していない。あくまでも、「社会人力」を育成するという体系的かつ大局的な見地に立ち、基礎的な能力のうえに、実践教育を実施することを重視している。

第二の課題については、4つのコース制と2つのアドバンスト・プログラムを設定し、体系的な履修を促すとともに、学習の中心軸を意識させ、学習目標の設定を容易にするよう工夫している。

第三の課題については、学生ポータルシステム（e-ポートフォリオ）導入に向け作業中であり、2010年秋のテスト運用、2011年春の本格稼働を目指している。これにより、課題克服の基盤が構築されると思われる。

第四および第五の課題については、本事業によって大幅な改善が期待される。本事業の基盤として、全学連携の強化が必須であると認識しているからである。

2-2-3 達成目標

経営学部では、「環境ビジネス実践」と「地域ビジネス実践」を実践教育の正課授業科目として学則に明記している。両科目とも1クラスでスタートするが就業力育成を目指すために、両科目、2クラスを設置し、履修率のアップを目指す。これにより、各年次生の4分の1（80名程度）が履修できる。そして、上記科目を履修した学生にたいして、卒業後に「就業満足度」の調査を行い、その結果を学部とその連携機関へのフィードバックにより、内容の充実を図る。就業満足度を測るために、次の枠組みを用意する。

- a. 本学の卒業生ネットワークを通じて、本取組に参加した学生の追跡調査を行い、アンケートなどの手法で、就業満足度を定量的に計測する。
- b. 経営学部で部分的に実施している卒業生ゼミで、本取組に参加した学生について、ソフトな情報を収集する。
- c. 上記 a.および b.によって得られた情報を、学生ポータルシステム（e-ポートフォリオ）で継続的に管理するとともに、統計的手法によって分析する。その結果を次の取組に反映させる。

2-3 取組の具体的内容

2-3-1 取組内容

本取組の始点は、入学時に全員が受験する適性検査「自己発見レポート」であり、これによって将来のキャリアデザインに関する関心をもつように促す。

1年次の「大学生活入門セミナー」において基礎教育を行うとともに、キャリア形成に対する意識向上を図る。ここではいわゆる就活を意識させることよりも、「社会人力」の基礎的要素（表現力やコミュニケーション能力）を身につけさせることを重視する。2年次の「基礎演習」（同）は、3・4年次の演習への橋渡しを行うものであるが、ここもより高度な「社会人力」（専門知識の取得能力など）育成について、担当教員の専門性や個性を生かしながら取り組む。さらに、2年次でも適性検査を実施し、フォローガイダンスを行っている。さらに、1、2年次においては、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」など、キャリア形成についての意識を高めさせる科目を設置している。3・4年次では、「演習」をコアに、専任教員によるきめ細かい指導を行っている。演習は、各担当者の専門性に基づき担当者の創意工夫によって「社会人力」育成を試みているが、本取組ではさらに以下の取組を導入・実施する。①環境ビジネス実践：この講義では、環境問題に取り組むNPO法人でのインターンシップでは、環境ビジネスの現場を体験し、担当者から現状や課題について講義を聴き、地球環境問題に関し、温暖化、風力・太陽光発電事業などに関する調査・研究・データブックも作成し、さらにはNPO法人主催の環境セミナーや地域の環境イベントの企画・運営も行わせる。地域の農業現場でのインターンシップも行い、その収穫物販売の実践も行う。②地域ビジネス実践：婦人服とアクセサリーなどを販売する店舗を学生自身に企画・経営させる。具体的には、企画、市場調査、広告、仕入れ、販売、会計などの方法・スキルなどについて、本学教員、企業と市役所産業部の担当者らが指導する。なお、本学所在の和泉市の地場特産品の商品化についても構想する。また、各演習において、その専門分野の特性に応じて、実践教育を導入する。具体的には、地域の障害者自立支援コミュニティスペースの活性化を課題とした取組、地域金融機関の社会的責任のあり方を構想する取組などが挙げられる。さらに、南大阪地域大学コンソーシアムと連携する地域企業へのインターンシップ派遣を通じた実践教育も拡充する。

以上のすべての取組に関する個々の学生の情報は、学生ポータルシステム（e-ポートフォリオ）によって統合管理し、それぞれの取組にフィードバックしていく。これによって、個々の学生の特性や実情に応じた、きめ細かな指導が可能となる。これら授業科目や演習での学生の取組は、演習などにてプレゼンテーションや論文作成としてまとめるとともに、学内外の発表大会や合同ゼミでも成果を発表し、さらにはビジュアルコンテンツとして学内サーバ上に蓄積、学生ポータルシステムやeラーニングでの活用供

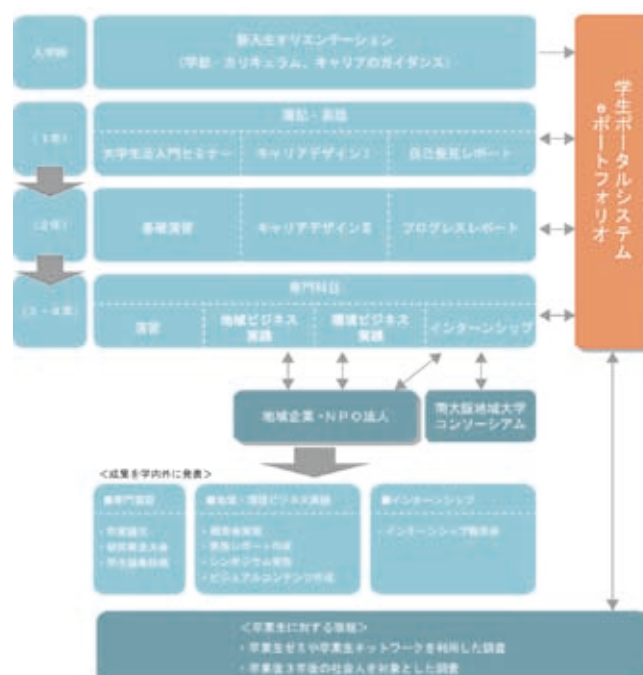
する。具体的には、①すでに蓄積されている個別学生の情報と重ね合わせることで、きめ細かなキャリア形成支援を実施、②ビジュアルコンテンツを基礎教育へ利用、③教員によるFDの資料として利用、などを計画している。

最後に、このプロセスで育成された「社会人力」を卒業後にどの程度発揮しているかを検証していくために、卒業生ゼミや卒業生ネットワークを通じた、アンケート調査やインタビュー調査を行い、絶えずフィードバックを行う。

2-3-2 取組の全体スケジュール及び各年次の実施計画

1年目は、科目の実施（経営学特講として試行的に実施）、学生ポータルシステムの構築、学内の連携体制構築、学外連携体制の構築（プログラム内容作成）、実施・評価のための連携構築（NPO法人、企業、自治体、農家）、報告会開催、報告書作成、シンポジウム開催などに取り組む。なお、学生自身と学外連携機関による評価の他、新たに学内評価委員会を設置し評価する。次年度の科目の説明会と広報を行う。2～4年目は、正課目の実施（2年目から正課目として拡充・実施）、学生ポータルシステム（e-ポートフォリオ）のカスタマイズ・拡充、連携体制の拡充（商店街、商工会議所などの追加）、報告会開催、報告書作成、より発展したシンポジウムの開催などに取り組み、1年目と同様の調査を実施するとともに、学外連携機関を含めた拡大評価委員会を設置する。5年目は、2～4年目の内容に加え、最終年度として卒業生に対する調査を実施する。具体的には、本取組が「社会人力」育成にどのように貢献したかについて、社会人1～3年目となる実践科目を履修した卒業生100名程度への調査を実施し、取組を総括する。

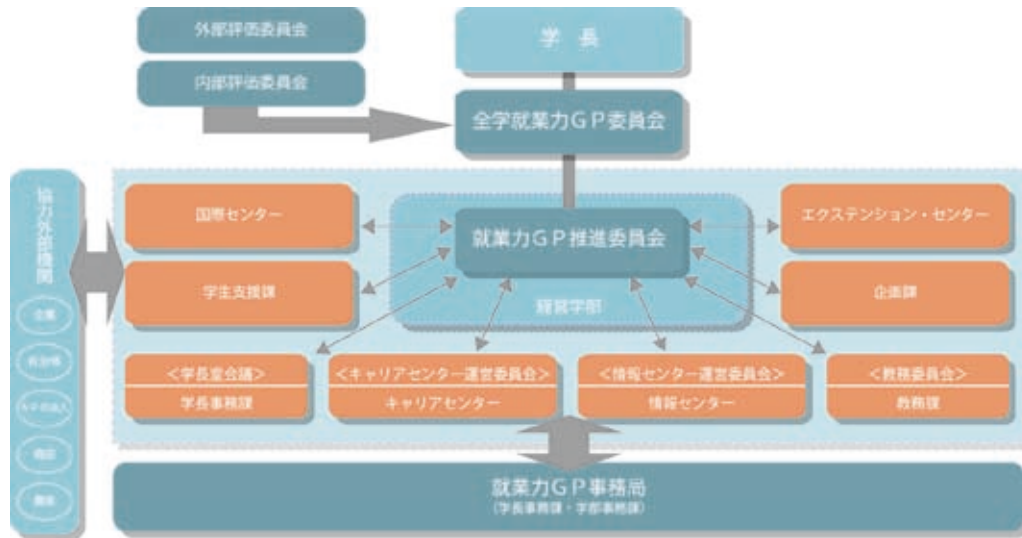
図1 取組概要



2-4 取組の実施体制

学部教育では1年次の「大学生活入門セミナー」、2年次の「基礎演習」、3・4年次の「演習」において、専任教員によるきめ細かい指導とオフィスアワーを行っているが、特にキャリアセンターとの連携は密であり、上記授業にキャリアセンターの職員が適宜赴き、職業観育成に向けたアドバイスや講義を行っている。また、2年次には、将来の進路選択に向けて自分の価値観・職業観・キャリア観などを探る一助として自己プログレスレポート(ベネッセコーポレーション)を、キャリアセンターの仲介の下、実施している。実際の就職活動を前に、3年生が戸惑うのがエントリーシートや履歴書の書き方であるため、本学では、①キャリアセンター職員による個別指導、②エントリーシート作成講座、③就職ガイダンスなどを行っているが、さらに演習担当教員がキャリアセンターと協力して熱心にこれを指導している。大学新卒者用の履歴書は、「研究課題」や「勉学以外に大学で力を入れてきたこと」などを記載するため、学生と演習担当教員とキャリアセンター担当者との協働は不可欠である。また、長期化する就職活動の中、学生の状況を把握し、モチベーションが低下しないように助言や指導ができるよう、キャリアセンターから個々の演習担当者に対し適宜内定状況が報告されている。教員と学生が密接に関わり合う演習においては上記のとおりであるが、それ以外にも「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」「業界・職種研究入門」「働くことの法知識」、「企業人に学ぶ」「職業を考える」「生活設計」「インターンシップ」「起業家育成入門」などのキャリア科目については、キャリアセンターが原案を提示し、教務委員会、学部教授会での審議を経て開講している。また、これらの科目運営に際しては、エクステンション・センター、学生支援課、ボランティアセンター、国際センター、外国語教育センターなどの関連所管に意見や協力を求めている。さらに、従来のキャリア科目に加え、「環境ビジネス実践」や「地域ビジネス実践」といった科目を追加し、3・4年次の各演習においても実践教育を導入する。これらの教育には、南大阪地域大学コンソーシアムやテクノステージ和泉、大阪府立産業技術総合研究所といった連携機関、学生ポータルシステムを最大限に活用する。そのため新たに、上記の諸組織に情報センター、学長事務課などを加えた全学的組織連携をもって本事業に取り組む。

図2 実施体制図



2-4-1 全学就業力G P委員会

委員長	明石 吉三	学長（事業代表者）
委員	今木 秀和	学長室長
委員	松尾 順介	経営学部長
委員	櫻井 悟	大学統括部長
委員	樋高 博則	教学事務部長
委員	福島 太郎	研究情報事務部長

会議	日程	議題
第1回	2012年 1月23日（月）	①文部科学省メール<【重要なお知らせ】大学生の就業力育成支援事業の来年度予算案について ②大学生の就業力育成支援事業に関する協議会の開催について ③大学生の就業力育成支援事業に関する協議会(報告) ④大学生の就業力育成支援事業に関する協議会配付資料 ⑤大学生の就業力育成支援事業採択高の取組状況表 ⑥第1回就業力G P関西Bブロック連絡会の開催通知
第2回	2012年 2月8日（月）	①2011年度第1回全学就業力G P委員会議事録（案） ②20120125 第1回就業力G P関西ブロック連絡会の概要 ③「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」 関西Bブロック 提案プログラム等調査票

2-4-2 就業力G P推進委員会

委員長	松尾 順介	経営学部長
-----	-------	-------

委員	牧野	丹奈子	経営学部教授
委員	信夫	千佳子	経営学部教授
委員	正亀	芳造	経営学部教授
委員	高田	里恵子	経営学部教授
委員	朴	大栄	経営学部教授
委員	山本	順一	経営学部教授
委員	井上	敏	経営学部教授
委員	横田	千尋	学長事務課（就業力G P事務局）
委員	森田	政恒	学部事務課
委員	森田	洋	情報センター事務課
委員	相島	淳子	就業力G P事務局

<2010 年度>

会議	日程	議題
第 1 回	2010 年 11 月 19 日（金）	①就業力 GP 事業について、学内各所管への説明会 ②和泉市役所からの企画提案 ③富士通株式会社からの企画提案
第 2 回	2010 年 12 月 15 日（水）	①e-ポートフォリオ（manaba folio）の仕様確認
第 3 回	2011 年 1 月 19 日（水）	①事業（実践教育による「社会人力」育成プログラム）実施計画について ②事業 Web サイトの設置について ③平成 23 年度大学生の就業力育成支援事業補助金調書の作成について ④その他
第 4 回	2011 年 2 月 4 日（金）	①平成 23 年度補助金調書の作成について ②manaba folio の稼働について ③「実践教育による「社会人力」育成プログラム」の Web サイトの作成について ④その他
第 5 回	2011 年 3 月 9 日（水）	①平成 23 年度補助金調書の作成について ②manaba folio の稼働について ③「実践教育による「社会人力」育成プログラム」の Web サイトの作成について ④その他

<2011 年度>

会議	日程	議題
第 1 回	2011 年 4 月 20 日（水）	①月別事業実施計画の実績・成果報告について ②演習－農業ビジネス実践について ③週休 2 日制度の導入に伴う T-208 教室の管理について ④manaba folio の利用について

会議	日程	議題
		⑤その他
第2回	2011年 5月25日(水)	①2011年度第1回就業力GP推進委員会議事録について ②4月事業実施計画の実績・成果報告について ③農業ビジネス実践プログラムについて ④アジア映画祭について ⑤manaba folio (GPコース)の利用について ⑥就業力近畿地域会議の参加について ⑦就業力GP事務局だよりの発行について ⑧就業力GP Webサイトのリニューアルについて ⑨5月～7月の実践プログラムスケジュールについて ⑩平成23年度交付補助金の増額について
第3回	2011年 6月22日(水)	①2011年度第2回就業力GP推進委員会議事録について ②4・5月事業実施計画の実績・成果報告について ③農業ビジネス実践プログラム(7月2日)について ④上方・芸能、映像実践の映画祭について ⑤ポートフォリオ、LMSの先端事例研究セミナー ～manabaの運用実績と学習効果～について ⑥就業力近畿地域会議について ⑦「GP-LINK」の創刊について ⑧情報センター運営委員会からmanaba folioについて ⑨その他 ⑩次回の開催について
第4回	2011年 7月6日(水)	①2011年度第3回就業力GP推進委員会議事録について ②農業ビジネス実践プログラム実施報告 ③上方芸能イベント、映像ビジネス実践の映画祭実施報告 ④manabaのバージョンアップ、個人情報掲載注意コメントについて ⑤「GP-LINK」2号について
第5回	2011年 9月20日(水)	①2011年度第4回就業力GP推進委員会議事録について ②平成23年度補足書・交付決定について ③予算について(補正予算・会計検査院の調査について) ④実践科目の実施・成果報告(福祉ビジネス実践・環境ビジネス実践・経営分析論・博物館ビジネス実践・税務法務ビジネス実践)※実施報告書の作成について ⑤シンポジウム開催について ⑥中間報告書について(見本誌・目次案) ⑦外部評価委員について ⑧manaba(評価コレクションのまとめて返信機能) ⑨「GP-LINK」3号について
第6回	2011年 10月26日(水)	①2011年度第5回就業力GP推進委員会議事録について ②第3回シンポジウムについて ③第4回シンポジウムの開催について ④manaba folio 教員への講習について ⑤GP-LINK vol.3について

会議	日程	議題
		⑥ 9～10月の活動報告について ⑦ その他
第7回	2012年 1月25日(水)	① 2011年度第6回就業力G P推進委員会議事録について ② 第3回シンポジウムについて ③ 第4回シンポジウムについて ④ 大学生の就業力育成支援事業に関する協議会の開催について ⑤ 第1回全学就業力G P委員会 ⑥ その他

図3 パーパレス会議の様子



2-4-3 就業力G P事務局

- 横田 千尋 学長事務課 参事
- 森田 政恒 学部事務課
- 森田 洋 情報センター事務課
- 相島 淳子 就業力G P事務局

2-4-4 就業力G P実習室

図4 実習室の様子





2-5 取組の評価体制・方法

①評価体制

学部と、キャリアセンターなどの関連所管で構成する評価委員会を設置し、取組目的である「社会人力」の育成という点から評価を行う。評価に際しては、学生や連携機関担当者からの評価も加味する。また、評価結果は学長へ報告するとともに、次年度の活動にフィードバックする。2年目以降は、取組に参加した学生の就職状況も踏まえつつ、本取組の効果検定を行う。最終年度には、連携機関担当者も加えた拡大評価委員会を設置し、本取組の客観的・包括的な評価を行う。

②評価方法

本取組により、学生に「社会人力」がどのように育成されているかということの評価するため、以下の調査を実施する。まず、教員が、実践科目の受講前と受講終了後に学生に対してインタビュー調査を実施し、この結果から、本取組が学生の「社会人力」育成に貢献したかどうかを評価する。次に、実践科目の毎回の講義に関する活動記録および感想を各受講生に記録させ、その内容から、本取組が学生の「社会人力」育成に貢献したかどうかを評価する。第三に、取組に参加した学生の就職活動状況・結果についても追跡調査し、本取組のキャリア形成に対する影響を評価する。最後に、各取組の進捗状況に応じて、連携機関への聞き取り調査およびアンケート調査を行う。

3. 各実践科目の取組内容

3-1 平成 22～23 年度実施科目

① 環境ビジネス実践

<取組内容>

環境NPO法人CASAでのインターンシップにより、現場を体験するとともに、NPO法人の運営に対する理解も深める。インターンシップは、①温暖化等の問題に関する調査・研究②自然エネルギー（風力・太陽光発電事業）に関する調査・研究③同NPO法人の現地調査への参加などを行い、締め括りとして実習成果発表会を行う。

<連携機関・団体等>

- ◆ 特定非営利活動法人地球環境と大気汚染を考える全国市民会議（CASA）

<年間スケジュール>

年	月	内容
2010 年度 (平成 22 年度)	4 月	● 履修者確定
	5 月	● 受入先との調整（受け入れ日程など）
	7 月	● インターンシップ事前ガイダンス
	8 月	● インターンシップ実施（～9月）
	10 月	● 報告会実施
	12 月	● 今年度取組内容の改善検討、提携機関との打合せ
	1 月	● 次年度履修予定者対象説明会開催
	3 月	● 提携機関との最終調整
2011 年度 (平成 23 年度)	4 月	● 履修者確定
	5 月	● 受入先との調整開始
	7 月	● インターンシップ事前ガイダンス ● セミナー「原発問題と再生可能なエネルギーを探る（日本経済研究センター）」参加 ● 法政大学でのインタビュー調査
	8 月	● インターンシップ実施
	9 月	● インターンシップ実施 ● 報告プレゼンテーション実施 ● セミナー「大震災後の日本-過去の危機から学ぶもの」参加

年	月	内容
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度取組内容の改善検討 ● 提携機関との打合せ ● 「固定価格買い取り制度に係るワークショップ ● (自然エネルギー財団(JREF)と環境エネルギー政策研究所(ISEP))」参加
	1月	<ul style="list-style-type: none"> ● 次年度履修予定者対象説明会開催
	3月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「自然エネルギー財団シンポジウム」参加 ● 「スマートイノベーション戦略会議(日本経済新聞社主催)」参加 ● 提携機関との調整 ● 履修希望者の選考

図5 インターンシップの様子



図6 報告プレゼンテーション



<担当教員によるコメント>

インターンシップを実施するに際し、事前ガイダンスと講義を行った。ここでは、インターンシップ受入側（NPO法人・CASA）の担当者が環境問題の現状を講義するとともに、CASAの概要と取り組みを説明し、履修学生に対して、インターンシップでの課題を提示し、参加者のグループ分けを行った。このインターンシップにおいて、履修学生は次の成果を得た。①身近で実践的なテーマ設定のもとに、現場に足を運ぶなど、活動的な取り組みを行うことによって、履修学生は意欲的に課題に取り組むことができた。②グループワークを導入したことで、コミュニケーション能力やリーダーシップの重要性を認識するとともに、それを踏まえた取り組み方を工夫するようになった。③環境NPOの活動に長年携わってこられた方が指導して下さったことによって、現状や実態に根ざした助言や回答を得ることができ、履修学生の関心や認識を深めることができた。④受入先NPOのスタッフが、親身になってきめこまやかな指導をして下さったことで、短期間であるにも関わらず、内容の濃いインターンシップ体験を得ることができた。

② 地域ビジネス実践

<取組内容>

提携企業の講師より、店舗経営のノウハウ（企画、市場調査、広告、仕入れ、販売、在庫管理、組織運営、情報利用など）を実践的に学び、学内で期間限定の店舗を学生たちだけで経営する。店舗では、地元、和泉市の特産品も取り扱うことで、地場産業に関する知識も実践的に修得する。終了後には実習成果発表会を行う。

<連携機関・団体等>

- ◆ 株式会社玉屋
- ◆ 和泉市環境産業部商工観光課

<年間スケジュール>

年	月	内容
2010 年度 (平成 22 年度)	6 月	● 外部の連携機関（企業、市役所）と講義内容の調整
	9 月	● 全体の計画説明とグループ分け、市場調査の調査票作成
	10 月	● 学生・高校生と地域住民に行うアンケート票・インタビュー調査票原案作成、地場産業・婦人服業界の現状（講師：企業より招聘）、アンケート票・インタビュー調査票の修正 ● 市場調査実践－アンケート&インタビュー調査実施&まとめ、売上計画作成 ● 市場調査分析、店舗企画、商品企画、広報企画（講師：企業より招聘） ● 広報実践－学生・高校生と地域住民に対する広報の実践
	11 月	● 商品仕入れ・会計検討、接客サービス研修（講師：企業より招聘） ● 課題 4：店舗運営（桃山学院大学大学祭にて） 店舗名「bell&beast」、11 月 19～21 日の 3 日間営業、約 200 名の来客 ● 報告会準備
	12 月	● 体験報告会実施 ● 来年度の講義について外部の連携機関と調整
	1 月	● 次年度履修予定者対象説明会開催
2011 年度 (平成 23 年度)	6 月	● 外部の連携機関と講義内容の調整
	7 月	● 連携先企業との調整
	9 月	● 全体の計画説明とグループ分け ● 市場調査の調査票作成（企業よりゲスト講師招聘）
	10 月	● 地場産業、婦人服業界の現状を学習（講師：企業より招聘） ● 学生による市場調査実施&とりまとめ ● 店舗企画、商品企画（構成）、売上げ目標設定（企業よりゲスト講師招聘）、広報企画・実践（企業よりゲスト講師招聘）、商品仕入れ（於：アパレル本社および地場産業）

年	月	内容
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ● 広報実践（学内、地域、他大学など） ● 接客サービス検討（企業よりゲスト講師招聘）、店舗設計（企業よりゲスト講師招聘） ● 会計実践（企業よりゲスト講師招聘） ● 店舗運営（桃山学院大学大学祭にて） 店舗名「MODE ME」、11月18～20日の3日営業 ● 報告会準備
	12月	● 体験報告会実施
	1月	● 次年度履修予定者対象説明会開催

図7 アンケート用紙とアンケートに利用した商品写真

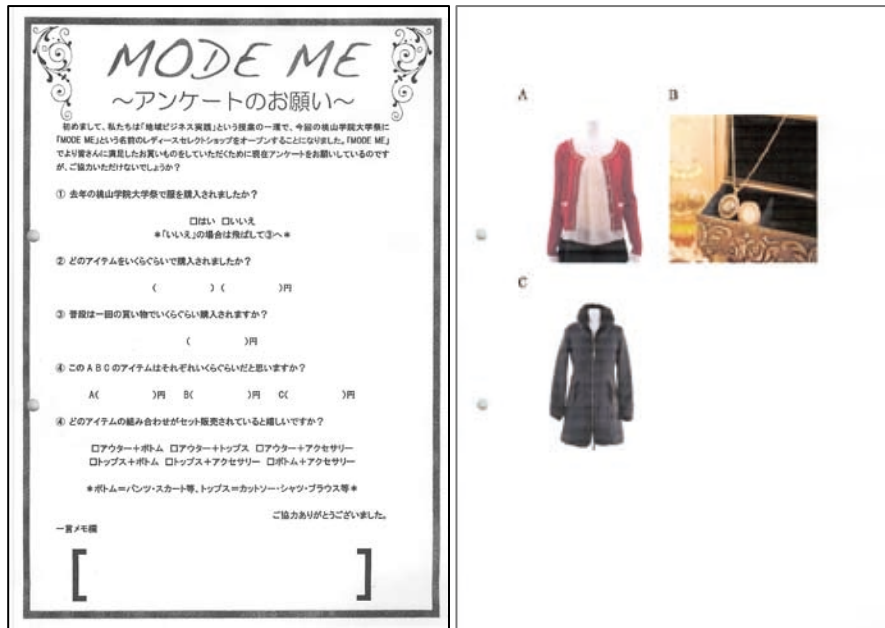


図8 アンケート調査



図9 仕入れ作業



図10 人工パールの仕入れ



図11 接客ロールプレイング



図 12 開店準備



図 13 営業開始



図14 「Mode me」スタッフ (2011年度)



図15 体験報告会



<担当教員によるコメント>

本授業のねらいは、大きく2つありました。

第一は、「生きた経営学」を学ぶことです。つまり、店舗経営を実践的に学ぶことによって、マーケティング、経営情報、会計などの分野の知識を体感しながら修得してもらうということです。店舗経営が終わった後に、学生達から「マーケティング論に興味を持った」、「簿記をしっかりと学びたい」という声が聞かれました。経営学への関心を高めてくれたと思います。

第二は、「社会人材」を身につけることです。結果的に、この授業を通じて特に向上した力は「コミュニケーション力」と「考える力」でした。たとえば、指導して下さった企業の方々との打ち合わせ、近所の主婦の方々とのロールプレイング、地場産業の方々との交渉等、緊張感を伴う場面は学生達のコミュニケーション力を大いに伸ばすことになりました。また、店舗経営の一連のプロセスを全て学生達だけで行ったので、当事者意識が芽生え、自分たちでいろいろ考える力が伸びました。

以上の教育効果は座学の講義形式では得難いと考えられるため、今後もこのような実践的な授業を発展させたいと考えております。

③ 福祉ビジネス実践

<取組内容>

地元、和泉市の福祉ビジネスを実践する。たとえば、和泉市の障がい者団体が経営し、障がい者の就労訓練の場でもある喫茶店オアシスの経営コンサルティングに取り組む。売上げの向上を追及するだけではなく、地域の様々な人々（障がいのある人もない人も、大人も子供も、全ての住民）が交流し憩う場となれるように、日々、学生が企画し実践している。

<連携機関・団体等>

- ◆ 和泉障がい者ふれあいプラザオアシス
- ◆ 和泉市青少年リーダー会
- ◆ 和泉市北池田中学校吹奏学部

<年間スケジュール>

年	月	内容
2010 年度 (平成 22 年度)	4 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 履修者確定 ● 受入先へのヒアリング
	5 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 喫茶オアシス経営改善案作成 ● 改善案を関係者に寄贈
	6 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学生、地域住民、喫茶オアシス利用者を対象とする、認知度・意識調査実施 ● 結果分析、報告書作成
	7 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 報告書【オアシスに関する意識調査、利用実態調査】を、喫茶オアシス関係者に寄贈 ● 喫茶オアシスの認知度向上を目指した第 1 回イベントの企画、準備、プログラム作成、協力機関宛依頼 ※協力期間：桃山学院大学吹奏学部、桃山学院大学聖歌隊、和泉市青少年リーダー会等
	9 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第 1 回イベント開催 音楽コンサート「夕涼みコンサート in オアシス」
	10 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第 2 回イベントの企画案作成 ● 経営改善案作成 ● 報告書作成
	11 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 喫茶オアシスと打ち合わせ ● 経営改善案の方針決定 ● 次年度履修予定者対象説明会開催
	12 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域のコミュニティカフェ見学「カフェ WITH (和歌山市)」 ● コミュニティカフェ実施主体による出張講義

年	月	内容
	1月	<ul style="list-style-type: none"> ● 和泉市関係機関との会議 ● 地域のコミュニティカフェ見学 Joy's café（大阪府豊中市）、すけっちぶっく（大阪府堺市西区）、コミュニティカフェ・ラテール（大阪府枚方市）
	2月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第2回イベント準備、経営改善案報告書作成
	3月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「第二回シンポジウム“つながりをつくる”」開催（3月15日開催、参加者65名）
2011年度 （平成23年度）	4月	<ul style="list-style-type: none"> ● 履修者確定 ● 喫茶オアシスとの打合せ ● イベント協力機関との打合せ ● 大学・地域・福祉機関への広報活動 ● 第2回イベント開催 「東日本大震災チャリティコンサート in オアシス」
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ● イベントの効果考察 ● 喫茶オアシスとの打合せ
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ● イベント企画・実施 ● 喫茶オアシスとの打合せ ● イベント協力機関との打合せ ● 大学・地域への広報活動、交流
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ● イベント企画・実施 ● 喫茶オアシスとの打合せ ● イベント協力機関との打合せ ● 大学・地域への広報活動、交流 ● イベント効果・新企画などの報告書作成
	8月	<ul style="list-style-type: none"> ● 喫茶オアシスとの打合せ ● 第3回イベント開催 「絵はがき教室 in オアシス」
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ● イベント協力機関との打合せ ● 第4回イベント開催 「第三回オアシスコンサート～音楽から始まるつながり～」
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ● 喫茶オアシスとの打合せ
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ● 次年度履修予定者説明会開催
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ● イベント企画、交流
	1月	<ul style="list-style-type: none"> ● 後期（12月末まで）活動の総括と翌年活動の計画 ● 喫茶オアシスとの打合せ ● 経営改善に関する報告書作成 ● 第四回シンポジウム準備
	2月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第四回シンポジウム準備 ● 第四回シンポジウム用報告資料作成

年	月	内容
	3月	<ul style="list-style-type: none"> ● 次年度活動の準備 ● 次年度履修予定者も加えた勉強会 ● 第四回シンポジウム実施

図 16 東日本大震災チャリティコンサート

チラシ



図 17 バッジとメッセージカード

(募金のお礼)



図 18 東日本大震災チャリティコンサート in オアシス



図 19 喫茶オアシスとの打合せ



図 20 新メニュー「夏カレー」試作会



図 21 大学事務局との予算折衝体験



図 22 喫茶オアシスとの打合せ（オアシスサポーターカード制作）



図 23 絵はがき教室 in オアシス チラシ



図 24 「絵はがき教室 in オアシス」



図 25 オアシスコンサート チラシ



図 26 第三回オアシスコンサート~音楽から始まるつながり~



<担当教員によるコメント>

近年、ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスなど、利益最大化を第一の目的としないビジネスがあらわれてきています。本取り組みでは、地元の福祉ビジネス（障がい者の方の就労訓練施設でもある喫茶店）の経営を、実際にサポートすることによって、コミュニティビジネスの意義や課題を勉強しました。学生達は、事業性と社会性を両立させることが如何に難しいかということを実感してくれたと思います。この取り組みにおいて、学生達と何度も話し合ったのは、「何のために働くのか」と

いうことでした。「お金のため」と答える学生もいましたし、「社会のため」と答える学生もいました。「自分らしさを成長させるため」と答える学生もいました。答えはさまざまでしたが、この取り組みを通じて、「何のために働くのか」という意識を各学生が育ててくれたと思います。

3-2 平成 23 年度実施科目

④ 経営分析論

<取組内容>

大阪府と和泉市が地域産業活性化のため造成した「テクノステージ和泉」には、多数の優良中小企業が集積し、本学では、これらの企業と地域、産学官の連携を進めてきた。本取組では、学生が提携企業の財務分析や経営者との意見交換を経て経営上の課題を示すなど、協力を一層進展させる。

<連携機関・団体等>

- ◆ テクノステージ和泉まちづくり協議会
- ◆ 和泉市役所環境産業部商工観光課
- ◆ 和泉市商工会議所

<年間スケジュール>

年	月	内容
2011 年度 (平成 23 年度)	4 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 履修者確定 ● 連携候補企業へのヒアリング (テクノロール(株)見学会実施)
	5 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 連携候補企業へのヒアリング (株)共成見学会実施)
	6 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 連携先企業の確定と調整 ● 公認会計士による実践講義
	7 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 経営分析実践
	8 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 経営分析実践
	9 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 経営分析実践
	10 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 経営分析実践
	11 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 経営分析実践 ● 連携企業訪問：テクノロール株式会社
	12 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 経営分析実践 ● 連携企業訪問：株式会社共成
	1 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 経営分析実践 ● 報告書作成
	2 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 報告書作成

年	月	内容
	3月	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度活動内容の反省と次年度履修内容の検討 ● 第四回シンポジウム実施

図 27 テクノロール株式会社 見学会



図 28 株式会社共成 見学会



図 29 公認会計士による講義



<担当教員によるコメント>

実践授業としての経営分析は、大手上市企業であれば有価証券報告書を通じて分析のためのデータ収集が容易です。反面、産学連携が難しく、別世界の企業の経営分析に陥りがちです。本経営分析実践では、近隣工業団地であるテクノステージ和泉の中小企業2社と連携し、実際の決算報告書を基に経営分析を行いました。

まずは、分析対象とした会社の業態を知るために、工場見学など会社訪問を行い、経営者から会社の特徴、現状、今後の経営上の課題などの説明を受け、直接、会社側との意見交換を行うとともに、学生自ら経営分析と会社から提示された課題への回答をまとめ、最終的に、経営者側を招いてプレゼンテーションを行いました。

本授業は、会社経営者との意見交換を行うことにより、経営者の生の声を聞くとともに、学生自らが経営にかかわる感覚で実践を積むことができました。特に、経営分析が単なる指標計算ではなく、会社業態と関連させて分析できたことが収穫であったと考えます。

また、会社経営は継続することから経営分析は時々刻々変化します。そのため、初年度は3年生中心で活動し、4年生になると3年生の指導にあたるという継続学習をしてきましたが、指導力、教育力も身につくなど、望ましい成果が表れてきています。

⑤ 農業ビジネス実践

<取組内容>

地元、和泉市には、広大な農地がある一方、未利用の大規模開拓農地の存在等、農業活性化が重要な課題となっている。本学も、教育の立場より農商工連携の面等で活性化に一定の役割を担ってきた。今回の本取組でも、実践面はもちろん、農業活性化をテーマに農業ビジネスを幅広く学ぶ。

<連携機関・団体等>

- ◆ (財)大阪府みどり公社
- ◆ テクノステージ和泉まちづくり協議会
- ◆ 和泉市役所環境産業部商工観光課
- ◆ 和泉市商工会議所
- ◆ 農業法人いずみの里

<年間スケジュール>

年	月	内容
2011年度 (平成23年度)	4月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第一回農業ビジネス実践プログラム連絡会議実施 ● 内容検討(～3月)
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 連携機関との意見交換会開催 ● 田植えの体験作業実施
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ● 農業体験(シイタケの原木管理作業、野菜の収穫・出荷作業)実施
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ● 提携可能会社との交渉
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ● (有)いずみの里訪問 ● 学内協力機関との交渉
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ● (有)いずみの里(連携企業)訪問
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ● (有)いずみの里(連携企業)訪問 ● 提携可能会社・学内機関との交渉・調整
	1月	<ul style="list-style-type: none"> ● ネット販売企画 ● 学内機関との交渉・調整
	2月	<ul style="list-style-type: none"> ● 報告書作成
	3月	<ul style="list-style-type: none"> ● H24年度からの実施内容調整 ● 第四回シンポジウム実施

図 30 連携機関との意見交換会



図 31 田植えの体験



図 32 シイタケの原木管理作業体験



図 33 いずみの里訪問



図 34 ネット販売企画



<担当教員によるコメント>

農業ビジネス実践は、和泉市農家の主婦の皆さんが経営する農業法人と連携し、米粉パンやジャム、お味噌など、和泉農産加工物の販売をお手伝いするという形でビジネス実践学習を行ってきました。

本農業法人の製品は健康志向もあって人気が出てきており、大阪産（もん）商品としての普及にも力を入れ、大阪府知事表彰を受けられています。しかし、和泉・泉南地域を超えた販売には限界がありました。学生は、この限界を克服するために、ネット販売ならびに学内販売の2チームを作り、産学連携を進めてきました。ネット販売では、一般に使われるメール連絡が本農業法人では必ずしも利用可能ではないなど、想定外の問題がいくつか出てきました。その度に、現地を訪問し、意見交換をした結果、販売方法の改善を検討するなど、フットワークの軽さ、チームワークによって、個々の問題を解決する方法を学ぶことができました。

本農業ビジネス実践でも、3年生中心で活動し、4年生になると3年生の指導にあたるという継続学習をしてきましたが、指導力、教育力も身につくなど、望ましい成果が表れてきています。

⑥ 図書館経営論

<取組内容>

図書館について、その役割、制度といった基礎的な知識の説明に加え、近年、大きな課題となっている地域固有の条例や要綱、行政等の逼迫した財政等にも触れる。現場の司書も招聘し、公共的文化ビジネスとしての公立図書館事業の現状と課題を、住民参加の文脈のなかで考え、学ぶ。

<連携機関・団体等>

- ◆ 大阪府立図書館
- ◆ 堺市立図書館
- ◆ 和泉市立図書館
- ◆ 図書館関連業企業
- ◆ 図書館ボランティア

<年間スケジュール>

年	月	内容
2011年度 (平成23年度)	4月	● 履修者確定
	5月	● 地元公立図書館等へのヒアリング
	6月	● 地元公立図書館にて事前実習
	7月	● 実習事前ガイダンス
	8月	● インターンシップの実施（堺市立図書館）
	12月	● 公立図書館の経営評価
	1月	● 地元和泉市立図書館の指定管理者受託企業(TRC)から資料の提供を受け、指定管理者制度について検討
	3月	● 今年度活動内容の反省と次年度履修内容の検討

<担当教員によるコメント>

国立国会図書館関西館、大阪府立図書館、堺市立図書館の現場に勤務する司書をゲスト講師として迎え、座学を超えた図書館の具体的な運営の実態を講義していただき、履修学生と相互対話の機会がもてたことにより、学生たちが公共図書館をいままで以上に身近に感じてもらったことが大きい。ゲスト講師の出講の前の授業でそれぞれの図書館の制度的位置づけや特徴を講義し、後の授業でそれぞれの図書館の問題点と課題を振り返ることも行い、実践的授業の効果を高めようと努めた結果、司書課程履修学生の中で夏期の図書館実習を内容とするインターンシップに参加する学生もあらわれた。今後

の課題としては、ゲスト講師の授業を効果的に配置することにとどまらず、授業期間中に図書館の見学や実習を取り入れることができればさらに効果が高まるものと思われる。

⑦ 博物館ビジネス実践

<取組内容>

和泉市の久保惣記念美術館及びいずみの国歴史館と本学は、従来、博物館実習や関連講義で連携してきた。本取組では、学芸員、教員による博物館運営の事前講義、久保惣記念美術館でのインターンシップを経て、実習成果報告会にて学生が新たな集客案、館内外活動案の企画を発表する。

<連携機関・団体等>

- ◆ 和泉市久保惣記念美術館
- ◆ 和泉市いずみの国歴史館

<年間スケジュール>

年	月	内容
2011年度 (平成23年度)	4月	● 履修者確定
	5月	● 和泉市久保惣記念美術館へのヒアリング
	7月	● 和泉市久保惣記念美術館との打合せ ● 履修学生に対する事前ガイダンス実施
	8月	● 和泉市久保惣記念美術館館長による講義 「和泉市久保惣記念美術館経営の現状」 (講師-河田館長、科目担当者)
	11月	● ゲスト講師による講義 (㈱海遊館、大阪府文化財センター)
	12月	● 履修学生による和泉市久保惣記念美術館の経営分析
	1月	● 和泉市久保惣記念美術館の経営分析の履修学生間での再検討
	2月	● 和泉市久保惣記念美術館の経営に対する履修学生からの研究発表と提案
	3月	● 今年度活動内容の反省と次年度履修内容の検討

図 35 和泉市久保惣記念美術館館長による講義



図 36 ゲスト講師による講義（株式会社海遊館）



図 37 ゲスト講師による講義（大阪府文化財センター）



<担当教員によるコメント>

本受講生の4年次生は従来よりNPO法人への就職を希望しており、アルバイトやボランティアを通じてNPO法人と関わりをもっていたが、今回の実践科目を受講したことで、さらにNPO法人の分野について、より広く、かつ多様であることが認識でき、本人の将来像をより具体的に考えられたようであった。3年次生の受講生は文芸作品を書くのを趣味としており、将来も文筆業を目指すとのことであったが、博物館におけるビジネスという社会の一般的な感覚からは意外な組み合わせの視点の本実践科目には大変興味を抱いてくれたようで、熱心に受講してくれた。受講生全体としては博物館を市民の目線からどのように利用しやすいものに変えていくか、というビジネスを進めていく上で重要な考え方を取得できたと思われる。

また和泉市久保惣記念美術館は以前より本学の博物館学芸員課程における講義・実習科目への協力をいただいていたが、今回の実践教育科目をきっかけに本学エクステンションセンター主催の授業科目へも学芸員の方々のご協力をいただけるようになった。今後も多方面でのご協力をいただける旨、お話をいただいております、今後一層の博学連携が進められることが期待できる。

⑧ 映像ビジネス実践

<取組内容>

大阪市等の行政、経済界、在阪放送局が一体となり支援する OSAKA ASIAN BEST の中核事業、大阪アジア映画祭と連携し、学内でアジアの映画を自主上映し、シンポジウムを開催する。今後は、同映画祭の企画・運営に参加し、広報活動やイベント運営等に携わることを検討している。

<連携機関・団体等>

- ◆ NPOコミュニティシネマ大阪
- ◆ 大阪アジア映画祭実行委員会

<年間スケジュール>

年	月	内容
2011年度 (平成23年度)	4月	● NPOコミュニティシネマ大阪及び大阪アジア映画祭実行委員会と連携し、大阪アジア映画祭のプレ企画の開催を検討
	5月	● プレ企画（ミニアジア映画祭－6月実施予定）のコンテンツ選定
	6月	● 映画祭「今だからこそ考えてみませんか？～原子力発電と代替エネルギー～」開催
	7月	● 映画祭「映画で読み解く、中国の今」開催
	3月	● 提携期間との調整 ● 第四回シンポジウム実施

図 38 イベント企画ミーティング



図 39 映画祭「今だからこそ考えてみませんか?～原子力発電と代替エネルギー～」 チラシ



図 40 映画祭「今だからこそ考えてみませんか?～原子力発電と代替エネルギー～」



図 41 映画祭「映画で読み解く、中国の今」チラシ・アンケート

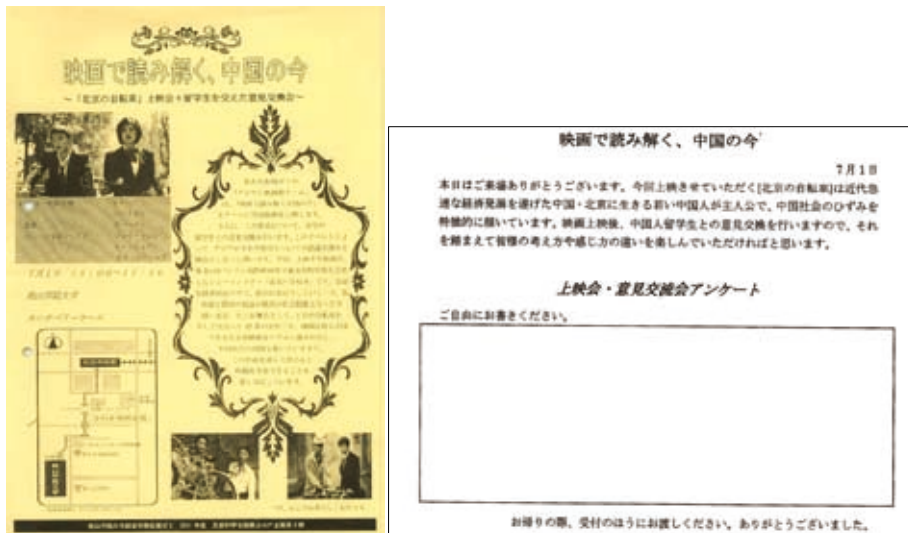


図 42 映画祭「映画で読み解く、中国の今」



<担当教員によるコメント>

この取組では、アジア映画祭と環境イベントの2つの取り組みを実施した。まず、アジア映画祭においては、①予想以上に人数を集めることができたが、その要因としては、多数の先生から様々な協力をいただいたことが大きく影響しており、参加学生の努力だけでは人集めが難しいことを実感することができた。中国は身近な国であり、この映画も学生にとって親近感のもてる内容であると予想していたが、多数の学生を集めることは必ずしも容易ではないという認識を得ることができた。②事前にイベントスケジュールを周到に計画し、リハーサル等も行ったが、予定時間を超過するなど、実際のイベントは必ずしも計画通り進まず、スケジュール通りに進行させることの難しさを認識することができた。③シンポジウムでは、映像を通じて感じたことを自分なりに受け止め、専門家や留学生を含む多数の人に理解してもらうように説明することの難しさを体得することができた。④アジアの留学生と意見交換することで、同じ映像に対しても多様な見方があり、文化や国民性の違いを実感することができた。

次に、環境イベントにおいては①予想以上に多数の参加者を集めることができ、環境問題や環境ビジネスが極めて学生や社会人のなかで極めて関心の高いテーマであることを認識することができた。特に、原子力発電の問題、福島原発事故の影響、自然エネルギーの可能性等については、質問も多く関心の高さがうかがわれ、参加学生自身の学習意欲が刺激された。②事前にイベントスケジュールを周到に計画し、リハーサル等も行ったが、予定時間を超過するなど、実際のイベントは必ずしも計画通り進まず、スケジ

ユール通りに進行させることの難しさを認識することができた。③環境問題には、専門的な内容が多く含まれているため、このようなテーマを、一般の学生にわかりやすく説明することの難しさを知ることができた。

⑨ 伝統芸能ビジネス実践

<取組内容>

上方演芸の中心地・法善寺横丁にあるトリイホールは、小規模ながらも上方演芸の拠点である。本取組では、上方演芸に対する造詣が深い同社社長の鳥居学氏ら上方伝統芸能の担い手より現状・課題等を学んだうえで、伝統芸能の普及・振興策を探るとともに、学内で芸能祭を自主運営する。

<連携機関・団体等>

- ◆ 株式会社鳥居ビル
- ◆ トリイホール

<年間スケジュール>

年	月	内容
2011年度 (平成23年度)	4月	● トリイホールと連携し、伝統芸能に関する企画開催を検討
	5月	● 企画の内容選定
	6月	● 伝統芸能企画「笑って体感☆上方芸能」開催
	3月	● 提携機関との調整 ● 第四回シンポジウム実施

図 43 伝統芸能企画「笑って体感☆上方芸能」チラシ



図 44 伝統芸能企画「笑って体感☆上方芸能」



<担当教員によるコメント>

この取り組みにおいては、上方芸能イベントを実施した。その成果としては、①予想に反して、必ずしも多数の人数を集めることができなかつた。その要因としては、単に広報の不十分さだけでなく、学生にとって上方芸能が身近なものでないことが大きく影響していることを実感できた。お笑いに代表されるような上方芸能は、関西に根付いていると考えられがちだが、学生にとっては、必ずしも親近感のもてる内容ではなかつた。このような背景から、多数の学生を集めることは必ずしも容易ではないという認識を得ることができた。②事前にイベントスケジュールを周到に計画し、リハーサル等も行ったが、予定時間を超過するなど、実際のイベントは必ずしも計画通り進まず、スケジュール通りに進行させることの難しさを認識することができた。③質疑応答においては、聴衆の関心をひくような質問を工夫し、的確な応答を引き出すことは容易でないことを実感することができた。④上方芸能の担い手の方々とは、学生はほとんど日常的に接す

ることがないのが実状であるが、本イベントを通じて交流が進み、多様な職業観や人生観に接することができた。

⑩ 法務・税務ビジネス実践

<取組内容>

弁護士法人淀屋橋・山上合同は、大阪でも有数の大手弁護士法人であり、会社法務を専門とする著名な弁護士が多数所属している。本取組では、これらの弁護士の指導の下でインターンシップを実施することで、会社法務・税務等を実践的に学ぶ。

<連携機関・団体等>

- ◆ 弁護士法人淀屋橋・山上合同・四宮章夫弁護士

<年間スケジュール>

年	月	内容
2011年度 (平成23年度)	4月	● インターンシップ先との打合せ
	5月	● インターンシップの募集案内
	6月	● インターンシップ参加者の選考、確定
	7月	● インターンシップ事前ガイダンス
	8月	● インターンシップ実施
	9月	● インターンシップ実施

<担当教員によるコメント>

履修学生にとって、法律事務所の業務をイメージすることは難しい。そこで、インターンシップを行う前に、事前ガイダンスを実施した。インターンシップ受入側である淀屋橋・山上合同の担当弁護士が法務ビジネスの現状を講義するとともに、同法律事務所の現況や概要を説明し、インターンシップでの課題を提示し、参加者のグループ分けと日程調整を行った。履修生は本インターンシップで、次の成果を得た。①法律事務所の業務について、裁判所の法廷などの現場体験を通じて、実践的に認識を深めることができた。②将来のキャリアとして、法律事務所等のバックオフィス業務について関心をもつきっかけとなった。③普段学生が接しないような案件や課題に取り組むことによって、学生の体験の幅を広げることができた。④法律知識や法的手続きについて知識や認識を深めることができた。

⑪ 地域ビジネス論

<取組内容>

政府関係者から地域の課題や再生策を学んだ上で、工業、商業、娯楽文化などの分野で活躍している方々から、その現状、課題および可能性について学ぶ。これによって、地域で活躍できる人材の育成を目指す。

<連携機関・団体等>

- ◆ 内閣府地域再生統合本部
- ◆ 和泉市
- ◆ 地元企業
- ◆ N P O

<年間スケジュール>

年	月	内容
2011年度 (平成23年度)	4月	● 履修者確定
	6月	● 連携先との調整開始
	7月	● 連携機関との打合せ
	9月	● 講義会誌
	10月	● 講義
	11月	● 講義
	12月	● 講義
	1月	● 講義 ● 次年度履修予定者対象説明会開催
	3月	● 提携機関との調整 ● 履修希望者の選考

講義スケジュール

講義	日程	所属	氏名
第1回	2011年 10月7日(金)	内閣官房 地域活性化統合事務局	大滝 昌平
第2回	2011年 10月14日(金)	コープ自然派	大川 智恵子
第3回	2011年 10月21日(金)	NPOコミュニティシネマ シネ・ヌーヴォ	景山 理
第4回	2011年 10月28日(金)	トリイホール	鳥居 学
第5回	2011年 11月4日(金)	グリップインターナショナル	桑田 隆晴
第6回	2011年 11月11日(金)	泉州羊毛工業	今井 康隆
第7回	2011年	関西トランスウェイ	池辺 義博

講義	日程	所属	氏名
	11月25日(金)		
第8回	2011年 12月2日(金)	HAYA English Academy	角田 愛
第9回	2011年 12月9日(金)	タッブルーツオフィス	丸亀 法幸
第10回	2011年 1月6日(金)	さをりの森	城 祐司
第11回	2011年 1月13日(金)	マドック	瀧本 教正
第12回	2011年 1月20日(金)	経済産業省 立地環境整備課	中村 吉明

図 45 第1回 閣官房地域活性化統合事務局 大滝 昌平氏



図 46 第2回 コープ自然派 大川 智恵子氏



図 47 第3回 NPOコミュニティシネマシネ・ヌーヴォ 景山 理氏



図 48 第4回 トライホール 鳥居 学氏



図 49 第5回 グリップインターナショナル 桑田 隆晴氏



図 50 第6回 泉州羊毛工業 今井 康隆氏



図 51 第7回 関西トランスウェイ 池辺 義博氏



図 52 第 8 回 HAYA English Academy 角田 愛氏



図 53 第 9 回 タップルーツオフィス 丸亀 法幸氏



図 54 第 10 回 さをりの森 城 祐司氏



図 55 第 11 回 マドック 瀧本 教正氏



図 56 第 1 2 回 経済産業省立地環境整備課 中村 吉明氏



<担当教員によるコメント>

本講義科目において得られた成果は以下である。①地域ビジネスの現場や政策に携わっている方々の講義を聞くことによって、普段学生が知りえない地域ビジネスの現状や課題、さらに将来展望について関心を広げるきっかけを得た。②将来のキャリアとして、地域ビジネスに関連する企業や組織の業務について関心をもつきっかけとなった。③授業終了後、実際に講師の所属する企業や組織を訪問し、企業の活動内容やその魅力についてインタビュー調査を行い、より認識を深めようとした履修者も現れた。④当該企業や組織の業務や活動等に共感し、その取り組みを大学において実践しようとする履修者も現れた。さらに、講義の締めくくりとして、1月20日に履修者全員によるプレゼンテーションを行った。なお、このプレゼンテーションは、実践的な課題を設定した上で、グループワークによって行われた。プレゼンテーションを行った後、相互に批評するとともに、担当者と質疑応答した。これによって次の成果を得た。①グループワークを導入したことで、コミュニケーション能力やリーダーシップの重要性を認識するとともに、それを踏まえた取り組み方を工夫した。②課題の内容を実践的なテーマとすることによって、学生の自由な発想を引き出し、創意工夫を促すことができた。③課題を設定したプレゼンテーションを行うことで、担当者にとっても、この科目の成果を確認し、次の課題等を認識する材料を得ることができた。

4. e-ポートフォリオ (manaba folio)

経営学部では、学生の一人一人にデータを蓄積できるスペース（ポートフォリオスペース）を提供するために、manaba folio を導入しています。学習の成果をポートフォリオに貯め、本人がふり返り、学生同士で評価しあうことを実現します。

manaba folio は、学生が自ら貯めて構築していくポートフォリオ機能を中心として、それを補完する各種機能があり、講義のフォローや学生指導、就職指導など、目的に応じて幅広く利用することができます。

学生のポートフォリオには毎年設定した目標や自己評価が蓄積されているため、経年的な変化を確認することが可能であり、各自が設定した目標に加えて、授業や実践科目での成果物が貯まっているため、学生が自己評価をする際にも活用できます。

4-1 運用授業科目

- 大学生生活入門セミナー
- 基礎演習
- 演習3
- 演習4
- 環境ビジネス実践
- 地域ビジネス論
- 経営学特講－メディアビジネス実践

4-2 システムの構成

manaba folio は、以下の2つの主な機能で構成されています。

マイポートフォリオ



マイポートフォリオは一人ひとりに提供されるデータ置き場です。授業で提出したレポートや実習での活動報告、課題はもちろん、就職活動用に調べた資料やサークルの写真など、なんでも貯めましょう。貯めたファイルは、友人同士でお互いに関覧、コメントをすることができます。ファイルごとに公開範囲も設定できるため様々な活用ができます。

マイコース



マイコースは、ゼミや授業、取り組みごとのコミュニティです。主な機能は3つあります。

■ レポート

教員からのレポート課題に対して、回答を提出することができます。提

出した回答はマイポートフォリオに、自動的に蓄積されます。

■ 掲示板

教員への質問、情報共有やディスカッションができます。ファイルを共有することもできます。携帯電話から他の人が書いたコメントを読んだり、返信を書くことができます。

■ コレクション一覧

レポート機能を使って提出した他の人が提出したレポートを一覧で見ることができます。


図 57 ログインページ



図 58 マイページ画面 (参考)



図 59 manaba folio マニュアル



manaba folio

桃山学院大学
経営学部 実践学習推進委員会

manaba folioの利用方法について


manaba folioとは？

授業やゼミで授業資料や課題を配布するmanaba folioは、一部の授業で利用します。授業資料の配布や課題の提出、manaba folioを利用した学習履歴の確認、授業資料のダウンロードが可能です。manaba folioの利用方法については、授業開始の案内をご覧ください。

manaba folioの機能

マイポートフォリオ

マイポートフォリオは一人ひとりに提供されるデータ蓄積機能です。授業で提出したレポートや高度での活動報告、評価ももちろん、授業活動で提出した資料やワークの成果物など、なんでも持ち帰ることができます。評価の履歴も、本人限定で見ることができ、コメントもすることができます。ファイルごとに公開範囲を設定することも可能です。



マイコース

マイコースは、ゼミや授業、教習組みごとのマイコミュニティです。主な機能は3つあります。

■ 掲示板
教習組ごとの掲示板に対して、回答を提出することができます。提出した回答はマイポートフォリオに、自動的に登録されます。


■ 通知
教習組に質問をした時、コース内で、質問回答やフィードバックができます。ファイル共有することもできます。授業開始から教習組の人が書いたコメントを読み取り、返信をすることができます。

■ コメント機能
レポート提出を促して提出した教習組の人が提出したレポートを一覧で見ることができます。

マイコミュニティ


マイコミュニティは教習組や学生が自由に立ち上げることができるコミュニティです。同じ目標や課題を持つ学習の場では、情報や意見の交換ができます。**※注意**、この機能は利用できません。

■ 1. 教習組のコミュニティ
■ 2. 教習組のコミュニティ
■ 3. 教習組のコミュニティ
■ 4. 教習組のコミュニティ



その他の便利機能

■ 通知
マイページや掲示板など、あなごころにメッセージが届きます。通知にはメッセージをマイコミュニティのように取り付けて、あとから見直すことができます。



■ 検索
教習組上の「検索」機能を使うと、入力したキーワードでmanaba folioの検索ページを検索することができます。

manaba folioのログイン方法

インターネット上でアクセスするmanaba folioサイトへアクセスし、ログイン画面を表示します。


<パソコン 向け> <https://manafolio.atn.myo.ac.jp/>
<携帯電話向け> <https://manafolioamb.myo.ac.jp/1553/>

本学ホームページ「教育力GAPページ」から、簡単にアクセスすることができます。

①IDとパスワードを入力して、「ログイン」をクリックします。


ID・学籍番号(千号)
学籍パスワード・学籍番号(千号)

ID: 000000000000**
SP: 000000
学籍パスワード: 00000000



※IDとパスワードが一致しない場合は、確認してから再度入力してください。

②ログインに成功すると、マイページが表示されます。



■ マイページ
自分の現在のマイページの状態を確認することができます。

■ マイページ
自分の現在のマイページの状態を確認することができます。

■ マイページ
自分の現在のマイページの状態を確認することができます。

■ マイページ
自分の現在のマイページの状態を確認することができます。

■ マイページ
自分の現在のマイページの状態を確認することができます。

■ マイページ
自分の現在のマイページの状態を確認することができます。

■ マイページ
自分の現在のマイページの状態を確認することができます。

■ マイページ
自分の現在のマイページの状態を確認することができます。


■ マイページ
自分の現在のマイページの状態を確認することができます。

■ マイページ
自分の現在のマイページの状態を確認することができます。

■ マイページ
自分の現在のマイページの状態を確認することができます。

manaba folioの初期設定

manaba folioにログインしたら、まず自分の設定を確認しよう。



①パスワード変更
現在のパスワードと新しいパスワードに変更しましょう。

②リマインダ設定
教習組からのメッセージやレポート提出期限などをメールで受け取ることができます。
※携帯番号やパソコンメールアドレスなど、必要なアドレスを登録してください。
※登録したメールアドレスは、誰にも公開されません。
メールアドレスを変更した場合は、必ず登録内容も変更しましょう。

リマインダを設定すると、教習組からの大事なお知らせがメールに届くようになります。メールで確認できるようにしてください。

③プロフィール編集
あなたの自己紹介を書き換えよう。

manaba folioのマニュアル

manaba folioも十分に活用するために、マイページより「マニュアル」のマクロンロードが可能です。このマニュアルは、詳しい使い方、利用上の注意を解説しています。

このダウンロード（ダウンロード）ボタンをクリックすると、レポートの出し方が各々のユーザーの方針など、個人情報が変わります。

課題の提出方法

教員から課題が提出も受ける場合があります。前に添付ファイルのレポートを提出する手順を説明します。

- ① 「マイコース」をクリックして、コース一覧画面を開きます。
- ② コース一覧画面から、課題提出の指定があるコース名をクリックし、コースページが開きます。

- ③ 「レポート」をクリックし、レポート一覧を開きます。

- ④ 該当のレポートタイトルをクリックして、課題の内容を確認します。

- ⑤ 該当ファイル欄から課題のフォーマットをダウンロードします。
- ⑥ デダウンロードした課題のフォーマットに内容を書き込みます。
- ⑦ 「ファイル」を選択してクリックし、内容を保存したファイルを選択し「アップロード」をクリックします。
- ⑧ 「提出ボタン」をクリックして、課題が送信されることを確認してください。

レポート提出画面

項目	説明
課題	課題の提出方法、提出期限、提出場所、提出方法、提出内容、提出回数、提出回数制限、提出回数制限解除、提出回数制限解除方法、提出回数制限解除条件、提出回数制限解除ボタン、提出回数制限解除ボタン説明、提出回数制限解除ボタン説明2
提出方法	課題の提出方法、提出期限、提出場所、提出方法、提出内容、提出回数、提出回数制限、提出回数制限解除、提出回数制限解除方法、提出回数制限解除条件、提出回数制限解除ボタン、提出回数制限解除ボタン説明、提出回数制限解除ボタン説明2
提出内容	課題の提出内容、提出期限、提出場所、提出方法、提出内容、提出回数、提出回数制限、提出回数制限解除、提出回数制限解除方法、提出回数制限解除条件、提出回数制限解除ボタン、提出回数制限解除ボタン説明、提出回数制限解除ボタン説明2
提出回数	課題の提出回数、提出期限、提出場所、提出方法、提出内容、提出回数、提出回数制限、提出回数制限解除、提出回数制限解除方法、提出回数制限解除条件、提出回数制限解除ボタン、提出回数制限解除ボタン説明、提出回数制限解除ボタン説明2

アップロード

ダウンロード

課題フォーマット

提出

5. シンポジウム開催

5-1 第1回シンポジウム「社会人力を育成する」

日時	2011年3月9日(水) 15:20開始
場所	桃山学院大学 聖ペテロ館5階 第2会議室
主催	桃山学院大学 全学就業力GP委員会
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 開会の挨拶 桃山学院大学学長 明石 吉三 ◆ 「地域ビジネス実践」について 株式会社玉屋取締役営業支援本部長 植田 茂和氏 ◆ 「環境ビジネス実践」について 地球環境と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)事務局 中村 庄和氏 ◆ 「福祉ビジネス実践」について 特定非営利活動法人チャレンジド・ネットいずみ理事長 山口 達雄氏 ◆ 閉会の挨拶 桃山学院大学経営学部長 松尾 順介
司会	牧野 丹奈子(経営学部教授)

図 60 第1回シンポジウム 「社会人力を育成する」 チラシ

日時/2011年3月9日(水)
[15:20開始]
場所/桃山学院大学聖ペテロ館5階 第2会議室
主催/桃山学院大学 全学就業力GP委員会
TEL.0725-54-3131

大学生の就業力育成支援事業(就業力GP)

実践教育による「社会人力」育成プログラム
第1回シンポジウム
社会人力を育成する
2011年3月9日(水) [15:20開始]
場所/桃山学院大学聖ペテロ館5階 第2会議室

司会/桃山学院大学経営学部教授 牧野 丹奈子

15:20~15:30	開会の挨拶 ■ 桃山学院大学学長 明石 吉三
15:30~15:50	「地域ビジネス実践」について ■ 株式会社玉屋取締役営業支援本部長 植田 茂和氏
15:50~16:10	「環境ビジネス実践」について ■ 特定非営利活動法人 地球環境と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)事務局 中村 庄和氏
16:10~16:30	「福祉ビジネス実践」(質疑)について ■ 特定非営利活動法人チャレンジド・ネットいずみ理事長 山口 達雄氏
16:30	閉会の挨拶 ■ 桃山学院大学経営学部長 松尾 順介

[お問い合わせ] 学芸事務課 TEL.0725-54-3131

図 61 第 1 回シンポジウム 社会人力を育成する

◆開会の挨拶

明石 吉三 (桃山学院大学学長)



◆「地域ビジネス実践」について

植田 茂和氏 (株式会社玉屋取締役営業支援本部長)



◆「環境ビジネス実践」について

中村 庄和氏

(地球環境と大気汚染を考える全国市民会議事務局)



◆「福祉ビジネス実践」について

山口 達雄氏

(特定非営利活動法人チャレンジド・ネットいずみ理事
長)



◆司会

牧野 丹奈子 (桃山学院大学経営学部教授)



◆閉会の挨拶

松尾 順介 (桃山学院大学経営学部長)



5-2 第2回シンポジウム「『つながり』をつくる」

日時	2011年3月15日(火) 13:00開始
場所	桃山学院大学 2号館 2-301 (ハイビジョンシアター)
主催	桃山学院大学 全学就業力GP委員会
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 開会の挨拶 桃山学院大学学長 明石 吉三 ◆ 大学発、まちづくりカフェ“With”の挑戦 和歌山大学経済学部教授 足立 基浩氏 ◆ 喫茶オアシスの現状とビジョン いずみ障害者ふれあいプラザオアシス店長 成田 元氏 ◆ 喫茶オアシスについての意見交換会 ◆ 休憩 ◆ 仕事を通じて学ぶ人とのつながり 株式会社玉屋取締役営業支援本部長 植田 茂和氏 ◆ 閉会の挨拶 桃山学院大学経営学教授 牧野 丹奈子
司会	立花 直也 (桃山学院大学経営学部3年次生)

図 62 第2回シンポジウム 「『つながり』をつくる」 チラシ

大学生の就業力育成支援事業(就業力GP)
実践教育による「社会人力」育成プログラム
第2回シンポジウム
「つながり」をつくる

平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」に採択された経営学部同僚教育の一環として、一層、人のつながりをビジネスによって作り出す～そのような内容のシンポジウム「つながりをつくる」を3月15日(火)に桃山学院大学で開催します。まちづくりビジネス、福祉ビジネス等の現場のリーダーの方からお話を聞いて、地域住民や学生たちも交えて意見交換する機会です。

日時/2011年3月15日(火)
[13:00開始]
場所/桃山学院大学 2号館 2-301
(ハイビジョンシアター)

桃山学院大学 全学就業力GP委員会
〒591 8501 伊丹市 伊丹 TEL. 0725-54-3131

大学生の就業力育成支援事業(就業力GP)
実践教育による「社会人力」育成プログラム
第2回シンポジウム
「つながり」をつくる

2011年3月15日(火)[13:00開始] 場所/桃山学院大学 2号館 2-301 (ハイビジョンシアター)

委員会/主催 委員(桃山学院大学経営学部3年次生)

プログラム

13:00~13:10	開会の挨拶 桃山学院大学学長 明石 吉三
13:10~14:10	大学発、まちづくりカフェ“With”の挑戦 和歌山大学経済学部教授 足立基浩氏
14:10~15:10	喫茶オアシスの現状とビジョン いずみ障害者ふれあいプラザオアシス店長 成田 元氏
15:10~15:40	喫茶オアシスについての意見交換会
15:40~15:55	休憩
15:55~16:55	仕事を通じて学ぶ人とのつながり 株式会社玉屋取締役営業支援本部長 植田 茂和氏
16:55~17:00	閉会の挨拶 桃山学院大学経営学教授 牧野 丹奈子

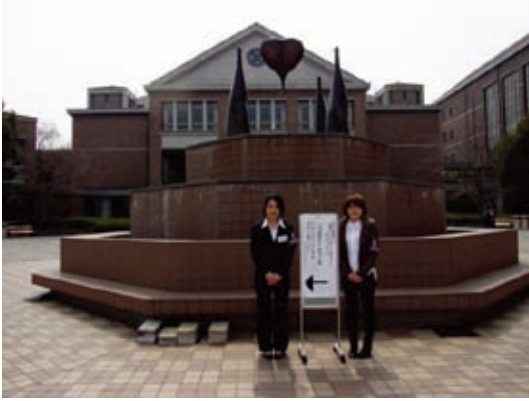
参加お申込み方法 ☎0725-54-3203

〒591 8501 桃山学院大学経営学部同僚教育センター (伊丹) TEL. 0725-54-3131

氏名	姓	名	フリガナ
〒	〒	〒	〒
TEL	-	TEL	-
E-MAIL			

図 63 第2回シンポジウム「つながり」をつくる

◆会場案内



◆会場案内



◆受付



◆打ち合わせ



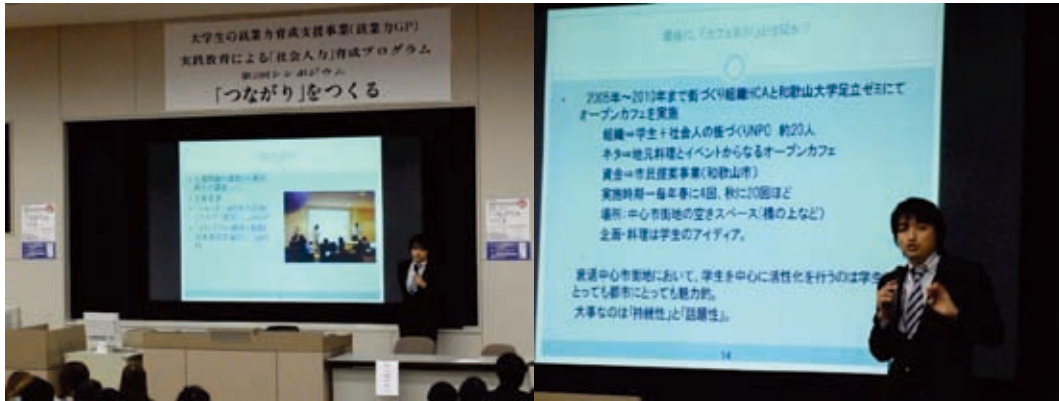
◆開会の挨拶

明石 吉三 (桃山学院大学学長)



◆大学発、まちづくりカフェ“With”の挑戦

足立 基浩氏（和歌山大学経済学部教授）



◆質疑応答



◆司会

立花 直也（桃山学院大学経営学部3年次生）



◆喫茶オアシスの現状とビジョン

成田 元氏（いずみ障害者ふれあいプラザオアシス店長）



◆喫茶オアシスについての意見交換会



◆仕事を通じて学ぶ人とのつながり

植田 茂和氏（株式会社玉屋取締役営業支援本部長）



◆仕事を通じて学ぶ人とのつながり

植田 茂和氏（株式会社玉屋取締役営業支援本部長）



◆閉会の挨拶

牧野 丹奈子（桃山学院大学経営学教授）



◆各報告で使用された資料

平成23年3月15日
大学発。まちづくりカフェ「With」の挑戦



和歌山大学経済学部 教授
早川 基徳

まちづくりカフェ「With」とは何か？

- 2005年～2010年まで街づくり組織HCAと和歌山大学足立ゼミにてオープンカフェを実施

衰退中心市街地において、学生を中心にカフェを行い、都市の回遊性を回復させたい…、というのがねらい。

活性化を行うのは学生にとっても都市にとっても魅力的。

自己紹介

- 土地問題の調査から都市再生の調査へ…。
- 主要著書：
 - 「シャッター通り再生計画(ミネルヴァ書房)」、2000円
 - 「まちづくりの個性と価値(日本経済評論社)」、3400円



Withの説明の前に…。

- Withを支える大人集団、HCAの会とは？

本日の内容

- I. はじめに
- II. 街づくりカフェとは…。
- III. まちづくりカフェWithを支えるNPO集団 HCAの会
- IV. まちづくりカフェWithの展開
- V. まとめ

HC(ヒューマンカレッジ)講座

- 和歌山県教育委員会と和歌山大学生涯学習教育研究センター(当時)が2001年より共催で実施した「生涯学習街づくり講座」。
- この会の趣旨は男女共同参画の実現を目指し、地域の課題を解決しうる力を育てるための学習機会を提供することにある。
- 本講座は開催後3年間で約150人の卒業生を輩出した。
- まちづくり講座「ヒューマンカレッジ2001年～2002年」
- 「エンパワーメントカレッジ(名称変更)2003年」

2001年 HC講座スタート

- HC(ヒューマンカレッジ)という試み
- この講座は、「住み続けたい街づくり」をテーマに、2001年6月16日から、スタートした。
- 調査テーマは「中心市街地の活性化」のみに絞り込み、ソフト班、ハード班に分けてアンケート調査(配布枚数210部、回収率95%)などで実態の把握、今後の政策提言などを行った。

7

2003年度は「エンパワーメントカレッジ」として継続

- 「エンパワーメント(力をつける)カレッジ」として実施。
- 今回のテーマは「住民のコラボレーションが織りなす豊かなまちづくり・ひとづくり」である。
- この年の応募者は多く、行政関係者の受講者が若干増加した。テーマは「交通手段からみた住み続けたいまちづくり(コミュニティバスに乗って街へ飛び出そう)」と「持続可能なまちづくりを考える」「アクティブシニアが美しく健康に楽しく生きる」の三チームであった。

10

講座での成果・・・

- 近年注目を集めている「高齢者」をターゲットとしたマーケティングについては、約4割が賛成すると同時に同じく4割が「どちらともいえない」「反対」であった。
- 中心市街地の魅力のひとつである「河川」については市街地を流れる内川の浄化についてはほぼ100%が賛成であった。下水道の整備についても「進めなくても良い」はわずか3.5%で、下水道整備率が低い和歌山ではニーズが非常に高い点が伺える。
- さらに、「地産地消」に関する調査も実施したが、約7割が、例えば国産材を利用したまちづくりに関しても賛成が多数であった。

8

2001年—2003年の成果

- 市民が主体的に、そして継続的に学習。
- 「わからない」、「まどまらない」、「エゴになる」の解消
- 話し合うことの重要性を認識・・・



そして、講座終了後も継続へ・・・

11

2002年度のHC

- 2002年度から2003年度にかけては第2期ヒューマンカレッジがスタートした。
- 「住み続けたいまちづくり」を中心テーマに「人に優しいまちづくり(集いに関する研究)」「探検、発見、ほっとけん」「市民参加条例」の3班にわかれてこれを行うこととなったが、前年度のように統一テーマをもとにアンケート調査を行うなどの方式を採用しなかった。

9

その後・・・HCAの会

- ヒューマンカレッジは終了しても継続して勉強しよう・・・
- 人数:12人
- 会議:1月に1度
- 会費:年会費:1000円
- NPO法人形式をとらずに任意団体。
- それぞれのやりたいことを実現させる、「この指とまれ」方式。

12

事業内容(2004年以降)

- 県中央部の旧美里町(現在、紀美野町)を中心に活動をするメンバーが2004年十月に旧美里町の雨山の郷(公園)で手作りのまちづくりイベント(特産品の販売展示会、バンド演奏など)を実施。



- 2005年からはオープンカフェ事業を実施(現在に至る)。

13

場所「おかへい」
歩行圏(1000と2000)

16

最後に、「カフェWith」とは何か？

- 2005年～2010年まで街づくり組織HCAと和歌山大学足立ゼミにてオープンカフェを実施
組織⇒学生+社会人の街づくりNPO 約20人
ネタ⇒地元料理とイベントからなるオープンカフェ
資金⇒市民提案事業(和歌山市)
実施時期⇒毎年春に4回、秋に2回ほど
場所⇒中心市街地の空きスペース(橋の上など)
企画・料理は学生のアイデア。

衰退中心市街地において、学生を中心に活性化を行うのは学生にとっても都市にとっても魅力的。
大事なのは「持続性」と「話題性」。

14

カフェの企画はプレゼンから
(市民公募型・市民の底力事業平成17年6月、応募風景)

17

地域資源・人を巻き込んだカフェ With

- これまでの主な企画
- 音楽、地産地消料理、絵画展、物産販売、会議・・・
- 国際ショナルカフェ、物産カフェ、沖縄カフェ、クイズカフェ、クリスマスカフェ、NHKとの協働カフェ、野村證券カフェ、紀陽銀行カフェ、花王石鹸カフェ・・・

15

オープンカフェ2005年(雑賀橋) 10日間 集客1200人



平成18年10月各週末(第3週、国際ショナルカフェ)



豊後日(10月30日)、応募に駆けつけてくれた星林高校授業部生徒50人

18



裁判官カフェ



25

2008年カフェ

コードネーム：移動遊園地 郵便局前、京橋、和歌山城



26

効果検証 ～広範囲から中心市街地へ～



26

京橋の上でナイトカフェ..



29

2007年 19ドリームのポイント

- ボランティアによるカフェ経営では全国的に珍しい例。
- 集客は、ほぼ安定しており、学生企画なども好評。
- ポイント) 衰退が激しい街では、家賃は収益が出てから確定させるというやり方→これならば、店舗が埋まる..
- 課題)
 - 1) サービスに課題(接客など)
 - 2) シラス井のごはんがやわらないなど
 - 3) ビジネスか街づくりか?
 - 4) 学生参加者がやや減少

27

2009年カフェ

コードネーム：レンタルカフェ



30

カフェWITHの日ごとのコンセプト(春・夏)6/7 プレカフェ

- ・しらす丼の復活。
- ・音楽イベント



31

カフェWITHの日ごとのコンセプト(本番)
11/8 国際コミュニティーカフェ

- ・花王の職員(市野さん)とイベント企画。
- ・2地点カフェで回遊性・滞留性を求める。



34

カフェWITHの日ごとのコンセプト(春・夏) 6/13 レトロカフェ

- ・昭和をモチーフにしたカフェ
- ・給食セットの販売
- ・昔の遊び体験



32

カフェWITHの日ごとのコンセプト(本番)
11/28 ちいきっずWITHカフェ

- ・和大付属小学生とカフェ運営。
- ・紀陽銀行とイベント企画。



35

カフェWITHの日ごとのコンセプト(春・夏)9/23 夕日を見る会※番所庭園

- ・毎年恒例雑賀崎での出張営業。
- ・観光学部の学生のお茶点イベント。



33

カフェWITHの日ごとのコンセプト(本番)
11/29 ええわっしょい紀ノ国

- ・紀北・紀中・紀南に分けて、地域の紹介。



36

カフェWITHの日ごとのコンセプト(本番)
12/6 心も街もあったカフェ

- 今年度最終回。
- 地元アーティスト“ウインズ”さんの出演。



37

2010年11月7日 子供ファッションコンテスト



40

2010年の試み

- 2010年は7月(2回)、10月からは本格スタート。
- 2週間に一度程度の割合でカフェを実施している。
- これまで、野村證券との共同カフェ、紀陽銀行との共同カフェなどを実現している。

38

10月30日 地域と連携カフェ(ぶらくり丁180年)



41

7月にもカフェを開催



39

地元小学校とのコラボレーション(11月27日)



42

生涯学習とは・・・

- 自らが主体的に学ぶ・・・学ぶことは楽しい。
- 一人からでもはじめる・・・
- 何かを実現する・・・
- 月に一度集まって会議を行う。
- そして、楽しむ・・・

- →WHCAの役割。

43

ご清聴ありがとうございました



44

喫茶オアシスの現状とビジョン

特定非営利活動法人チャレンジド・ネットいずみ
いずみ園がいずみふれあいプラザ「オアシス」

2011年3月15日(火)
実行者 いずみ園事務所の代表者「オアシス」
役員 西田 元

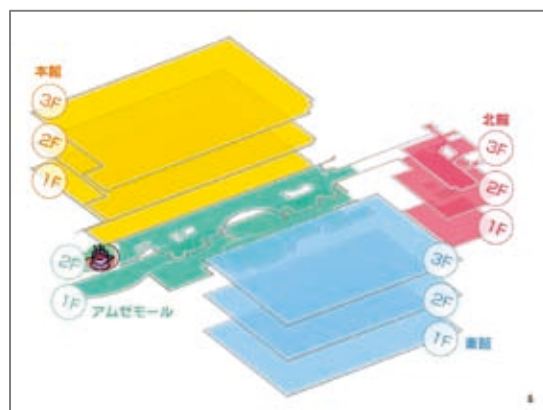
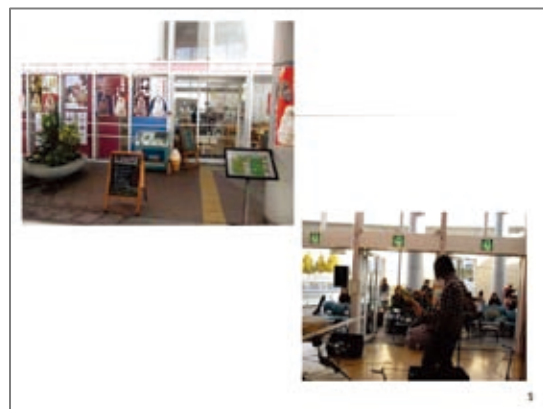
1



オアシスの概要

- 所在地: 〒594-0041
和泉市いぶき野5丁目1番7号
和泉中央駅南側
エコーいずみ アムゼモール 2F
- TEL・FAX : 0725-56-5743

2



オアシスの理念

- 「障がい者と健常者」「ボランティアをする人と受ける人」といった境目を取り除き、もっと自由に、もっと日常的に交流しあえる場、そして交流を深めることにより一人ひとりの個性を認め合い、互いに人間として尊重される豊かな社会づくりを目指す事。

7

設立趣旨

- 国際障害者年を境に、「ノーマライゼーション(障がいがあっても可能な限り同年齢の人と同じ生活をする権利)」という理念がしきりに叫ばれるようになりました。それにとまじり、障がいのある本人、そして家族の中で、「障がいがあっても、ほみられた街の慣れ親しんだ人たちの中で、普通に暮らし続けたい。」と願う方が増えてきました。
- 特に、障がいのある方の就労については、課題が山積みしており、「障がいのある人たちが働くことは当たり前だ」という当たり前の考え方は、「理想論」とされ、障害のある人たちは、地域での当たり前の生活を諦めなければならない現実になっています。

8

オアシスの歴史

- 1998年4月設立。
- 構成・・・和泉市の「和泉市障害者団体連絡会」と、「和泉障害者施設・作業所連絡会」とで誕生。
- 2008年4月に特定非営利活動法人チャレンジ・ネットいずみに経営移管される。

9

設立趣旨(つづき)

- どのような援助があれば、障がいのある方が一人の市民として、就労を通して社会参加し、生き甲斐を持って、自己実現に向けた生活を続けることが出来るのでしょうか。
- どのような援助があれば、この社会が、障がいのある方もかけがえない存在であることを受け止め、共に生きる社会になるのでしょうか。
- 以上2点の思いに応えるべく、活動を開始したいと思います。この課題は、今以上にたくさんの方々が活動に参加し、問題解決に向けて協働しなければ達成できない課題です。障がいのある方を、多くの市民の懐かしさや暖かさが、自然に包み込むような社会の実現を目指して、活動を始めます。

2004年10月1日
11

運営法人の概要

- 法人名 特定非営利活動法人チャレンジ・ネットいずみ
- 代表者 理事長 山口達雄
- 所在地 和泉市府中町一丁目8-3
- 設立 2004年(平成16年)10月
- 「和泉市障がい者団体連絡協議会」を母体として「和泉障がい者施設・作業所連絡会」と共に協力して設立された特定非営利活動法人

10

事業内容

- 泉州北障害者就業・生活支援センター
- 建物清掃(訓練)事業
- 第1号職場適応援助者事業(ジョブコーチ)
- いずみ障がい者ふれあいプラザ“オアシス”
- いずみのグループホーム
- いずみのヘルパーさん
- いずみの営業マン

12

①オアシスの役割と現状

- オアシス…二つの役割
 1. 障がい者福祉事業
 2. 収益事業

13

産経新聞に掲載された「夕涼みコンサート」の写真に掲載予定。

14

一般の店舗との違い

- 障がい者福祉としての地域での役割も考えていかないとけない。
- 収益を上げていかないとけない。

15

収益事業について

- 喫茶部門
- 物販部門
- 外販部門

16

障がい者福祉事業について

- 障がい者の就業訓練の場。
- 市民とのふれあいの場。
- 障がい者の居場所、社会参加の場。

17


喫茶部門の現状

オアシスの4年間の喫茶売上と客数

年度	売上(千円)	客数(人)
2009年度	5,112	13,078
2008年度	4,487	12,059
2007年度	3,815	10,585
2006年度	4,050	11,000
2005年度	3,792	10,253
2004年度	4,030	10,514
2003年度	3,887	10,948
2002年度	3,628	9,792
2001年度	3,796	10,018

5年前との比較…売上134.7% 客数130.5%


18



オアシスの今後の取り組み

- 地域活動支援の拠点作り
- 牧野ゼミとのコラボ
- リニューアル


20



②オアシスとしてのビジョン

- 障がい者福祉の啓発
 1. 店舗内の活性化
 2. 出て行く福祉
- 地域に愛される市民の喫茶店
＝コミュニティーカフェの実現＝
- ノーマライゼーションの実現
＝地域活動の活性化＝

20



③本日、話し合いたい事

- ビジョンの内容について
- ビジョンへの進み方、ポイント
- 福祉ビジネスの可能性について

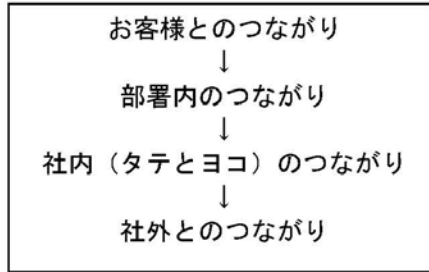
21

「仕事を通じて学ぶ人とのつながり」

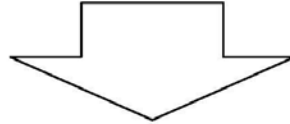
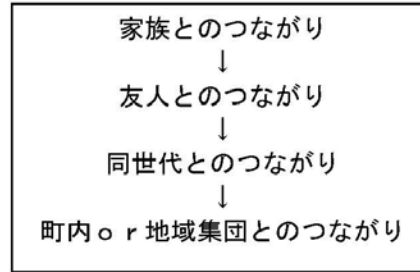
2011/3/15

株式会社玉屋 植田茂和

仕事



プライベート



社会とのつながり

**社会貢献
自己実現**

- お客様とのつながり
別紙
- 部署内のつながり
チームとしての成果を出すために・・・
上司としての立場 部下としての立場 同僚としての立場
- 社内（タテとヨコ）のつながり
業務の枠が広がる＝責任の拡大
－他部署と連携しないと成果が出せない－
- 社外とのつながり
業務で繋がっている取引先
同事業を行っている会社・人
自社をサポートしてくれる会社・人
自分をサポートしてくれる会社・人

5-3 第3回シンポジウム「これからを生きる就業力」

日時	2011年12月10日(土) 13:00開始
場所	桃山学院大学 聖ヨハネホール
主催	桃山学院大学 全学就業力GP委員会
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 開会の挨拶 桃山学院大学学長 明石 吉三 <第1部> ◆ 「就業力GPの実状」 桃山学院大学経営学部長 松尾 順介 ◆ 「大学生の就業力を高めるためにー自律性・社会性ー」 桃山学院大学経営学部教授 信夫 千佳子 ◆ 「社会人として求められる能力ーOBからの提言ー」 西日本電信電話株式会社 法人営業部 ソリューションビジネス部担当課長 山根 啓史氏 ◆ 「女性社員の働き方の変化ーOGからの提言ー」 株式会社日立製作所 関西支社 公共情報システム営業部 横井 達子氏 ◆ 「実践教育における産学連携ー経営者が求める人材とはー」 テクノロール株式会社 取締役会長 西脇 宏氏 <第2部> ◆ 「“人間教育”の危機ーわが子を自立させるため親ができることー」 財団法人日本総合研究所会長 多摩大学名誉学長 野田 一夫氏 <第3部> ◆ 情報交換会 ◆ 閉会の挨拶 桃山学院大学 学長室長 今木 秀和
司会	三森 さやか (日本コンベンションサービス)

図 64 第 3 回シンポジウム 「これから生きる就業力」 チラシ



図 65 シンポジウムを映像コンテンツへ



図 66 第 3 回シンポジウム これから生きる就業力

◆シンポジウムを運営する学生スタッフ



◆受付



◆学内広報



◆開場



◆会場の様子



◆司会

三森 さやか（日本コンベンションサービス）



◆開会の挨拶

明石 吉三（桃山学院大学学長）



◆「就業力GPの実状」

松尾 順介（桃山学院大学経営学部長）



◆「大学生の就業力を高めるために—自律性・社会性—」

信夫 千佳子（桃山学院大学経営学部教授）



◆「社会人として求められる能力—OBからの提言—」

山根 啓史氏

（西日本電信電話株式会社 法人営業部ソリューションビジネス部担当課長）



◆「女性社員の働き方の変化—OGからの提言—」

横井 達子氏

(株式会社日立製作所 関西支社公共情報システム営業部)



◆「実践教育における産学連携—経営者が求める人材とは—」

西脇 宏氏 (テクノロール株式会社 取締役会長)



◆休憩タイム



◆基調講演「“人間教育”の危機 -わが子を自立させるため親ができること-

野田 一夫氏

(財団法人日本総合研究所会長 多摩大学名誉学長)



◆情報交換会



◆閉会の挨拶

今木 秀和 (桃山学院大学 学長室長)



◆各報告で使用された資料

桃山学院大学
 St. Andrew's University
 文部科学省 平成22年度 大学生の就業力育成支援事業選定
 実践教育による「社会人力」育成プログラム
第3回シンポジウム
これからを生きる就業力
 日時/2011年12月10日(土)
 会場/聖ヨハネホール
 13:00~
 主催:全学就業力GP推進委員会

就業力GPの実状
 桃山学院大学 経営学部長
 松尾順介

桃山学院大学
 St. Andrew's University
 文部科学省 平成22年度 大学生の就業力育成支援事業選定
 実践教育による「社会人力」育成プログラム
第3回シンポジウム
これからを生きる就業力
 <挨拶>
 学長 明石吉三

実践教育による「社会人力」育成プログラム
 Momoyama Gakuin University
 established in 1863

桃山学院大学
 St. Andrew's University
第1部 13:00~14:40
 (休憩)
第2部 15:00~16:20
 (休憩)
第3部 16:30~18:00

実践教育による「社会人力」育成プログラム
 本プログラムは、大学生の就業力育成支援事業として選定された実践教育による「社会人力」育成プログラムです。

実践教育による「社会力」育成プログラム

文部科学省平成27年度「大学生の就業力育成支援事業」指定

ご挨拶



山口大学学長 伊藤誠平氏のご挨拶

自ら考え、積極的に行動する「世界の市民」の育成を目指して

山口大学は創立144年超の歴史を誇る、総合的な大学として、国際化、グローバル化を推進し、グローバル社会に対応する人材の育成に努めています。この実践教育、地域連携、社会貢献の推進により、社会の発展に貢献する人材の育成に努めています。また、社会の発展に貢献する人材の育成に努めています。



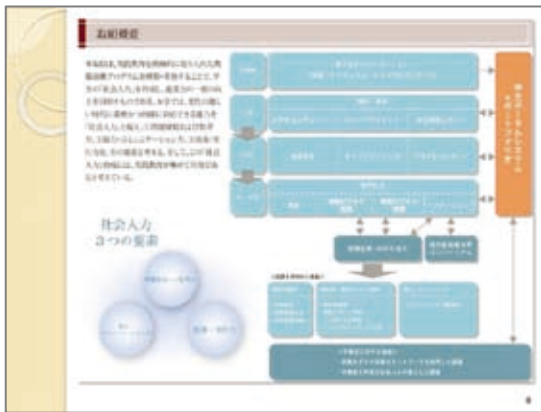
山口大学 学長 伊藤誠平 氏によるご挨拶

実践教育を通じて、社会力育成に努める

山口大学は、実践教育を通じて、社会力育成に努めています。また、社会の発展に貢献する人材の育成に努めています。

実践教育科目

<p>地域ビジネス実践</p> <p>地域ビジネス実践とは、地域の活性化や企業の成長を促進するための実践的な教育です。学生は、地域の企業や団体と連携し、実際にビジネス活動に参加することで、実践的なスキルを身につけます。</p> 	<p>地域文化実践</p> <p>地域文化実践とは、地域の文化や伝統を学ぶための実践的な教育です。学生は、地域の文化施設や団体と連携し、実際に文化活動に参加することで、実践的なスキルを身につけます。</p> 	<p>地域ボランティア実践</p> <p>地域ボランティア実践とは、地域の社会貢献や福祉活動に参加するための実践的な教育です。学生は、地域の福祉施設や団体と連携し、実際にボランティア活動に参加することで、実践的なスキルを身につけます。</p> 
<p>社会起業実践</p> <p>社会起業実践とは、社会課題の解決を目的とした実践的な教育です。学生は、社会起業家と連携し、実際に社会起業活動に参加することで、実践的なスキルを身につけます。</p> 	<p>国際交流実践</p> <p>国際交流実践とは、国際的な視野を養うための実践的な教育です。学生は、国際的な企業や団体と連携し、実際に国際交流活動に参加することで、実践的なスキルを身につけます。</p> 	<p>起業実践</p> <p>起業実践とは、起業のノウハウを学ぶための実践的な教育です。学生は、起業家と連携し、実際に起業活動に参加することで、実践的なスキルを身につけます。</p> 
<p>産学連携実践</p> <p>産学連携実践とは、産学連携を推進するための実践的な教育です。学生は、産学連携企業と連携し、実際に産学連携活動に参加することで、実践的なスキルを身につけます。</p> 	<p>国際化実践</p> <p>国際化実践とは、国際化を推進するための実践的な教育です。学生は、国際的な企業や団体と連携し、実際に国際化活動に参加することで、実践的なスキルを身につけます。</p> 	<p>社会貢献実践</p> <p>社会貢献実践とは、社会貢献を推進するための実践的な教育です。学生は、社会貢献企業や団体と連携し、実際に社会貢献活動に参加することで、実践的なスキルを身につけます。</p> 



マイポートフォリオ

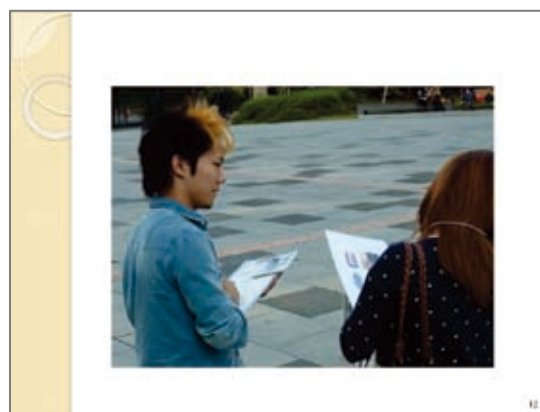
実践教育の成果を可視化するプラットフォームです。学生は、自分の実践教育の成果をポートフォリオとしてまとめ、就職活動や進学活動に活用できます。

マイポートフォリオ

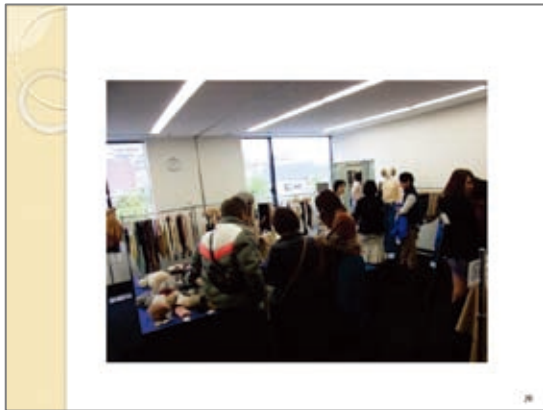
実践教育の成果を可視化するプラットフォームです。学生は、自分の実践教育の成果をポートフォリオとしてまとめ、就職活動や進学活動に活用できます。

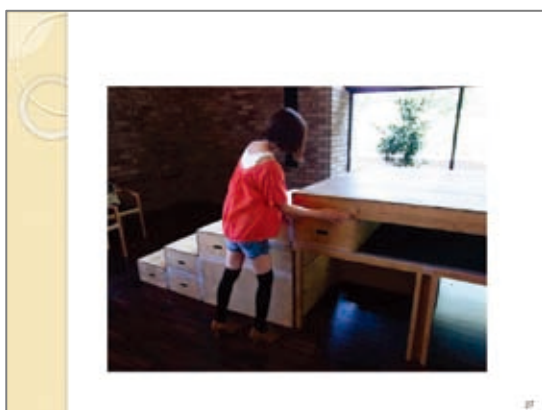
マイコース

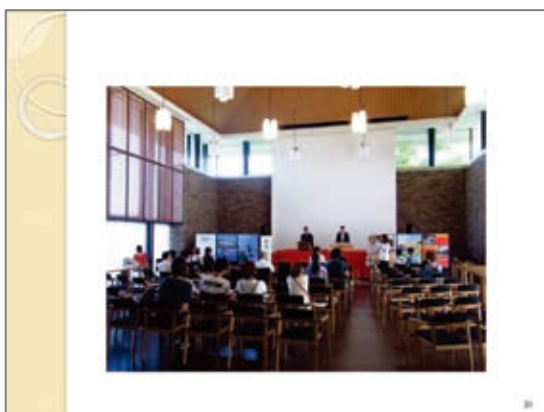
実践教育のコースを選択できます。学生は、自分の興味のある分野を選択し、実践的なスキルを身につけます。

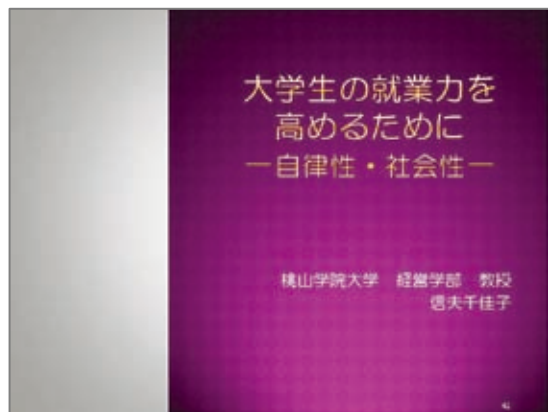












求人状況

有効求人倍率

2009年3月卒 2.14倍

2010年3月卒 1.62倍

2011年3月卒 1.28倍

2012年3月卒 1.23倍

出所)「第28回ワークス大卒求人倍率調査(2012年卒)」

株式会社リクルートワークス研究所

本学の2011年3月卒生の就職状況②
主な就職先(1)

- ・<建設業>きんでん、積水ハウス、前田建設工業
- ・<製造業>佐藤食品工業、神戸屋、アイリスオーヤマ、ニチベイ、レンゴー、新日本法規出版、キッセイ薬品工業、ファイザー、鳥居薬品、十川ゴム、ヨータイ、モリ工業、コマンシー、理想科学工業、シャープ、TCM、エクセディ、テルモ、エフビコ
- ・<卸売業>サンエー・インターナショナル、山善、メティセオ、小林産業、日伝、加賀電子、因幡電機産業、富士エレクトロニクス
- ・<小売業>ニッセン、コーナン商事、ファミリーマート、青山商事、ユニクロ、ユナイテッドアローズ、大阪いずみ市民生協、上新電機

本学 就職率

・2010年度 本学 90.5%
(企業・公務員・福祉団体などに就職が決まった者/就職希望者)

・2010年度 私立文系全国平均 90.0%
(企業・公務員・福祉団体などに就職が決まった者/就職希望者)

本学キャリアセンター資料より

本学の2011年3月卒生の就職状況②
主な就職先(2)

- ・<金融・保険業>三重銀行、南都銀行、紀陽銀行、大正銀行、みずほ銀行、ゆうちょ銀行、大阪東信金、尼崎信金、大阪市信金、堺市農協、SMBCフレンド証券、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、みずほ証券、岡三証券、明治安田生命、第一生命、日本興亜損保
- ・<不動産業>住友不動産販売、東急リハビリ
- ・<運輸・通信業>パナソニックロジスティクス、JR西日本、福山通運、郵便局

本学キャリアセンター資料より

業種別

製造業 1.53倍(昨年度:1.66倍)
流通業 3.94倍(昨年度:4.17倍)
金融業 0.19倍(昨年度:0.20倍)
サービス・情報業 0.47倍(昨年度:0.48倍)

規模別

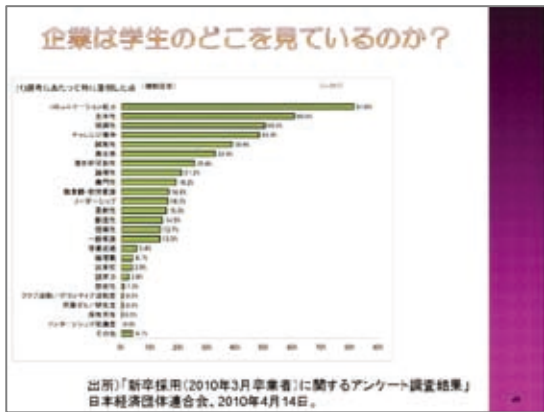
5000人以上 0.49倍(昨年度:0.47倍)
300人未満 3.35倍(昨年度:4.41倍)

出所)「第28回ワークス大学求人倍率調査(2012年卒)」
株式会社リクルートワークス研究所

脱書 その1

- ・皆と違う企業を見つけよう。





どのような学生が内定を獲得しやすいか？

- ◎ 成績優秀 + スポーツ・文化活動
 - ・ Y君 三菱電機
 - ・ M君 JA共済
 - ・ Uさん かんぽ生命
- ◎ 成績優秀 + 副ゼミ長 + アルバイト
 - ・ Iさん あいおい損保

・・・自律性

何が求められているか？

- ◎ 知識：基礎学力 + 専門知識
 - ⇒ 入社試験 (SPI、学力試験)
- ◎ コミュニケーション能力
 - ⇒ 面接 (個人面接 + グループ面接)

・・・社会性

提言 その3

◎ よく学びよく遊べ

提言 2

◎ 人は1人では、社会性を身につけられない。

資料)「家族の会話が多い学生は内定率が高い。」
(2010年5月10日、毎日新聞)

内定先(M君の場合)

- ◎ 富士通
- ◎ NTT
- ◎ NECシステムテクノロジー
- ◎ 伊藤忠テクノソリューション
- ◎ 新日鉄システムソリューションズ
- ◎ 上新電器
- ◎ TIS
- ◎ CSKホールディングス
- ◎ 富士通ビジネスシステムズ
- ◎ 富士通エフサス
- ◎ パナソニック
- ◎ キヤノンITソリューションズ

信夫ゼミの資料より

桃山学院大学経営学部では どのように取り組んでいるか

- 自分で、そして仲間とともに

Plan—Do—See
計画 実行 検討



See—Plan—Do—See—Plan—Do・・・
基礎学力テスト・希望業種との相性
(学内順位・偏差値、評定、今後の課題)



1年生・2年生のキャリア支援講座 (全ゼミ共通)



ゼミ教員とキャリアセンター職員が
協働で就職指導。



Do—See—Plan—Do—See—Plan—Do・・・
「勉強しましょう」



「自習勉強のサークルを立ち上げよう。」



「教え合えば、どんどん進む・・・」



ヒューマンスキルアップサークル
(自主勉強会・企業人との交流会)



「みんなと仲良くなれたし、
楽しくなってきたかも・・・」



「分からないところは、インターネットで
問い合わせよう、と・・・」



Sゼミ (レクリエーション)
(バレー、卓球、バトミントン・・・)



「今日は、リフレッシュ!スマッシュ!」



「今日のディスカッションはこれで終わります。
来週の発表の準備はできましたか?」
「毎週、宿題、宿題で、ひそ〜大変・・・」



専門ゼミ (企業経営コース・信夫ゼミ3年生)
毎週、企業のケースを取り上げながらマネジメントの
テーマをグループごとに発表しています。



Do- See-Plan-Do-See-Plan-Do・・・

**3年生秋学期・就職支援講座
(全ゼミ共通)**



Do- See-Plan-Do-See-Plan-Do・・・

1. 発表グループは、パワーポイントを作成し発表。
2. メンバーは、Manabaで質問メールを提出しておく。
3. 発表グループは、質問を調べて、応答する。

4. テーマについて、フリーディスカッション
「自発的に意見を。」
「はあ〜い!」

マナー講師による面接対策講座





「乾杯！」



Plan-Do-See を修得し、自律性と社会性を身に付け、求職、企業人になる予定です。

毎年、好評で、例年600人ぐらいご来場。今年は、1日閉だったためか、500人にとどかなかったけど、お習字コーナーは盛況でした。



書道部 (大学祭)



今年はこれで閉店！



Plan-Do-See-Plan-Do-See-Plan-Do・・・

書道部と同時開催の書道教室



カフェサークル(CAFÉ POSA)

紅茶・コーヒー好きの仲間集まれ！
(アルコールが苦手な人も！)



活動方針

- ・週一回のミーティング
- ・10日に1日カフェ経営
- ・展示場
- ・香合場
- ・文化祭

部活・サークル加入者

- 部活加入率
2010年 19.2%(1,344人)
- サークル加入率
2010年 39.9%(2,806人)
2011年 46.1%(3,315人)
- 総加入率
2010年 59.0%(4,150人)

型番 その5

- かわいい子には旅を！！



エクステンションセンター講座数

- 英語2講座
- 情報3講座
- 資格12講座
- 福祉4講座
- マナビアップ春4講座
- マナビアップ秋1講座
- まちなか商い塾4講座
- ビジネスプラン作成講座1講座

全31講座
2011年度現在

実践教育における産学連携 —経営者が求める人材とは— テクノロール株式会社の場合



本社第1工場(2000年建築)

第2工場(2004年建築)

第3工場(2007年建築)

留学・国際交流

世界22ヶ国・地域、55大学・1大学連合

- 長期留学プログラム 派遣学生 31名
- 短期研修/体験型プログラム 224名
- 交換留学生(受入) 77名

国際交流センター2010年度資料

各種印刷及び粘着性ゴムロール



DRUPA2008展示の各種印刷ロール

各種印刷用ゴムロール

各種粘着性ゴム取りロール

各種オフセット印刷機械(2008DRUPAより)



ハイデルベルグ機(ドイツ) マン・ローランド機(ドイツ)

小森コーポレーション機(日本) 三菱重工業機(日本製)

91

現在のライセンサーネットワーク

- (契約日順)
- Korea: Samhwa Rollers Co.,Ltd.
- Australia: Brissett Rollers Pty Ltd.
- New Zealand: Hammerking Rollers Ltd.
- Taiwan: Yi Tsai Enterprise Co.,Ltd.
- China: Shanghai SBJ Roller Co.,Ltd.
- Thailand: Bangkok Roller Co.,Ltd.
- Indonesia: PT Zentrum Graphics
- Canada,U.S.A: Graphic Printing Roller
- India:
- Malaysia:MSL Rubber Industries SDN.BHD.
- Germany, Netherland:Westland Gummi Werke GmbH

94

その他の展示風景



2010PPD展示会より 連続自動ゴミ取り装置

英国PRESSTER社機にトラスTRW搭載 自動ローラ洗浄装置

92

大阪府知事賞受賞



平成22年度大阪府発明実働功労者・新技術開発功労者・技術改善功労者並びに文部科学大臣表彰

昨年11月に発明実働功労賞を楢下社より受賞

平成16年11月に大阪 フロントティア賞を受賞

95

海外企業とのライセンサーネットワークの構築



韓国・三和ローラー ドイツ・ウエストランド社

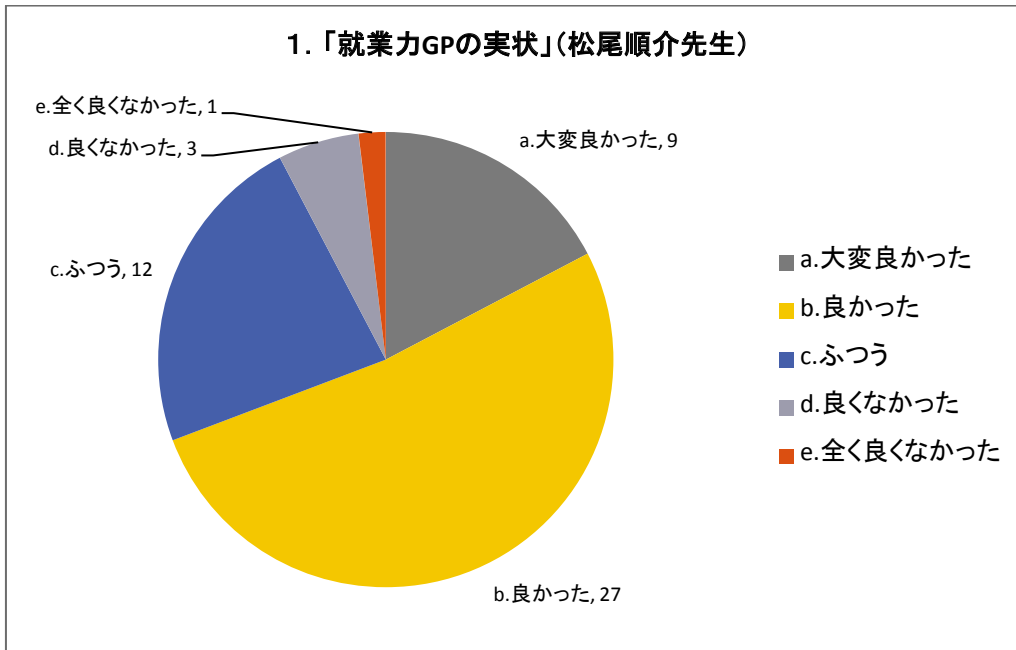
中国・上海S&I社 2011IGASに集まった各国代表

93

アンケート集計（回答者数 54 名）

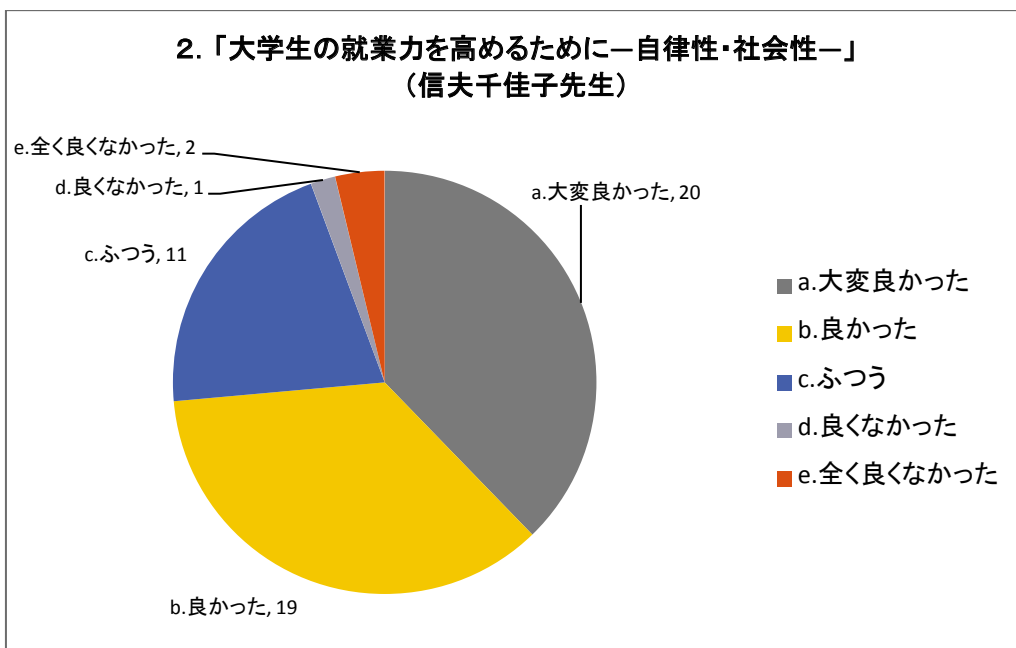
1. 「就業力 GP の実状」（松尾順介先生）

a.大変良かった	b.良かった	c.ふつう	d.良くなかった	e.全く良くなかった
9	27	12	3	1



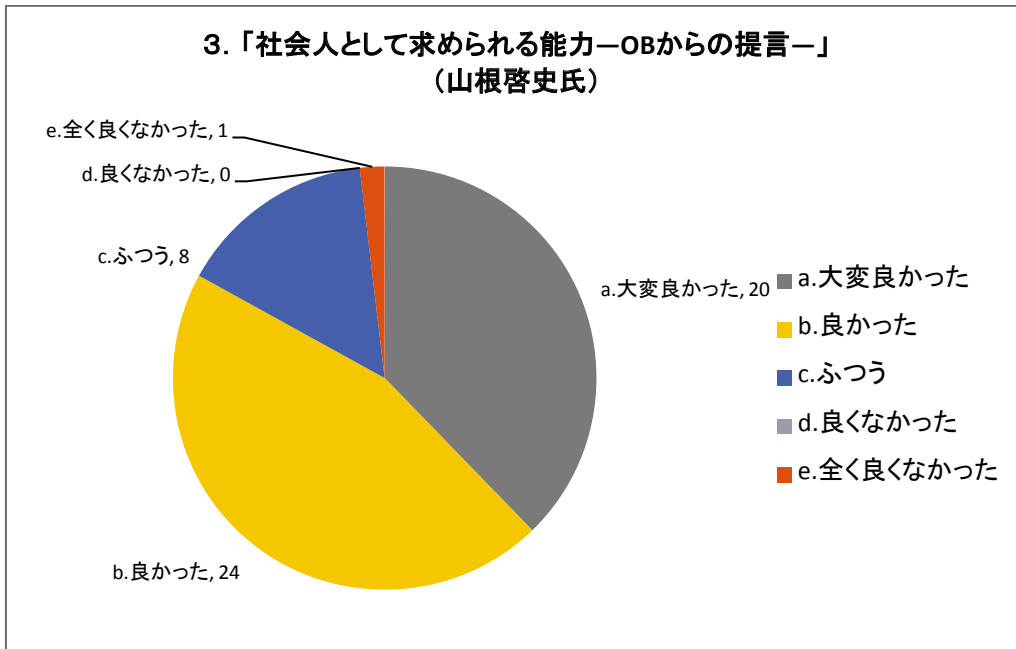
2. 「大学生の就業力を高めるために—自律性・社会性—」（信夫千佳子先生）

a.大変良かった	b.良かった	c.ふつう	d.良くなかった	e.全く良くなかった
20	19	11	1	2



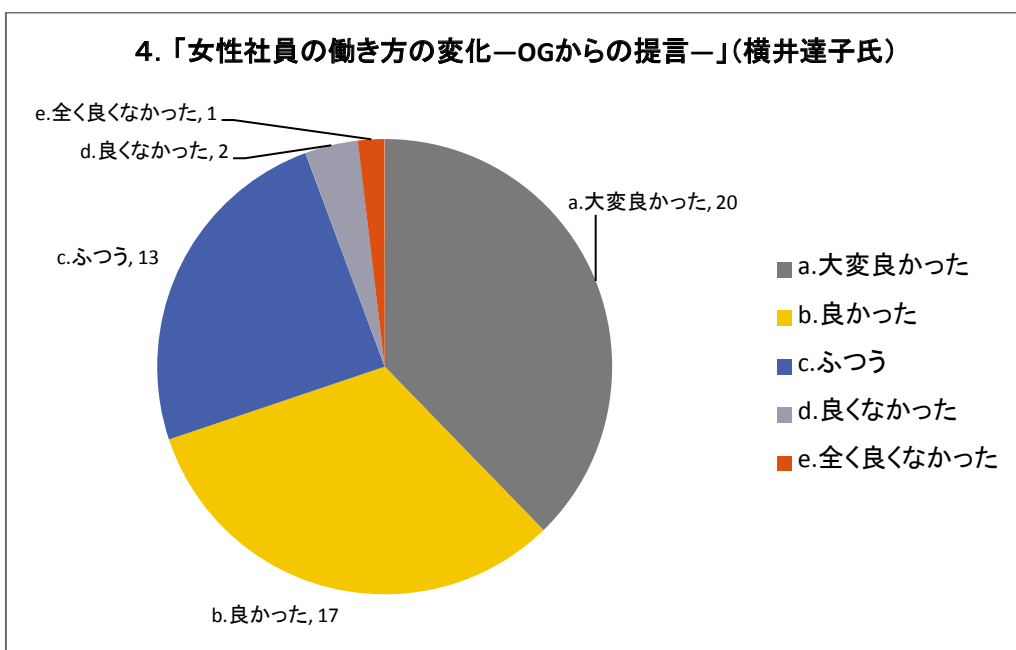
3. 「社会人として求められる能力—OBからの提言—」（山根啓史氏）

a.大変良かった	b.良かった	c.ふつう	d.良くなかった	e.全く良くなかった
20	24	8	0	1



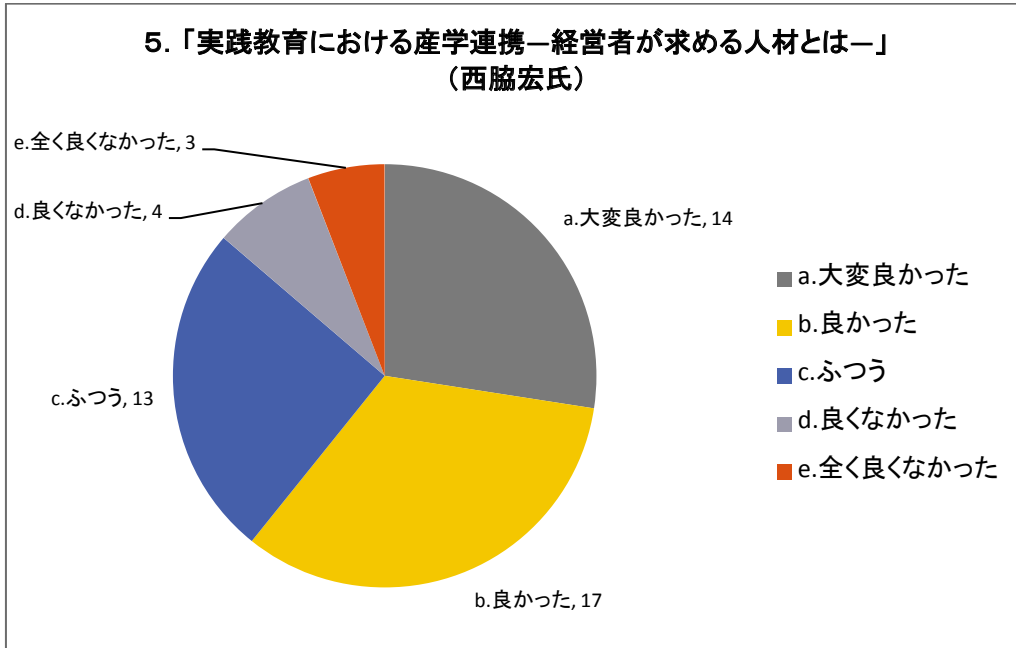
4. 「女性社員の働き方の変化—OGからの提言—」（横井達子氏）

a.大変良かった	b.良かった	c.ふつう	d.良くなかった	e.全く良くなかった
20	17	13	2	1



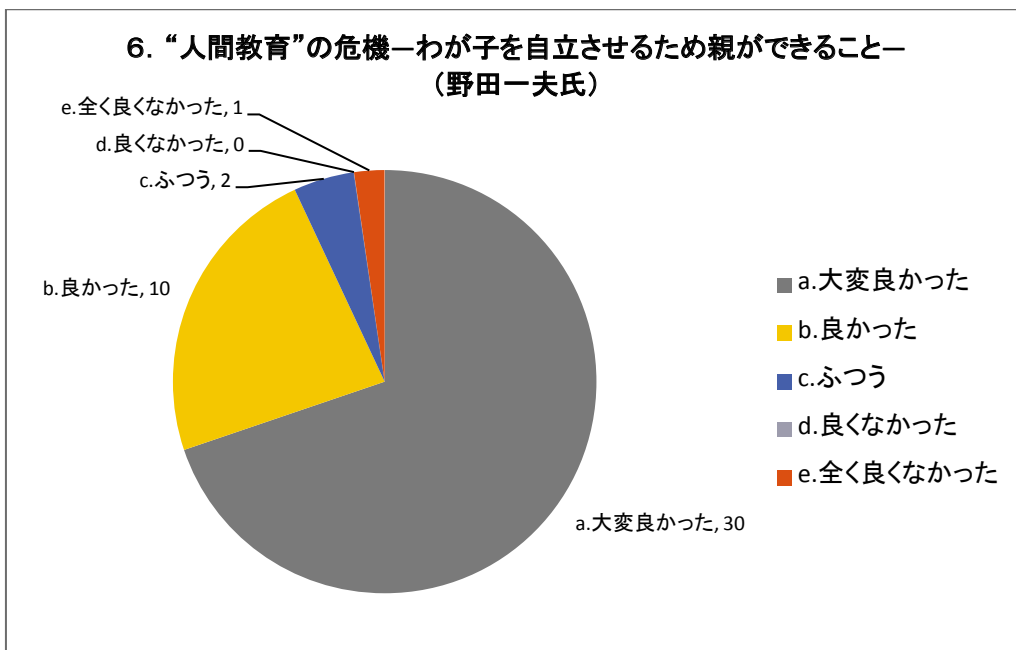
5. 「実践教育における産学連携—経営者が求める人材とは—」 (西脇宏氏)

a.大変良かった	b.良かった	c.ふつう	d.良くなかった	e.全く良くなかった
14	17	13	4	3



6. “人間教育”の危機—わが子を自立させるため親ができること— (野田一夫氏)

a.大変良かった	b.良かった	c.ふつう	d.良くなかった	e.全く良くなかった
30	10	2	0	1



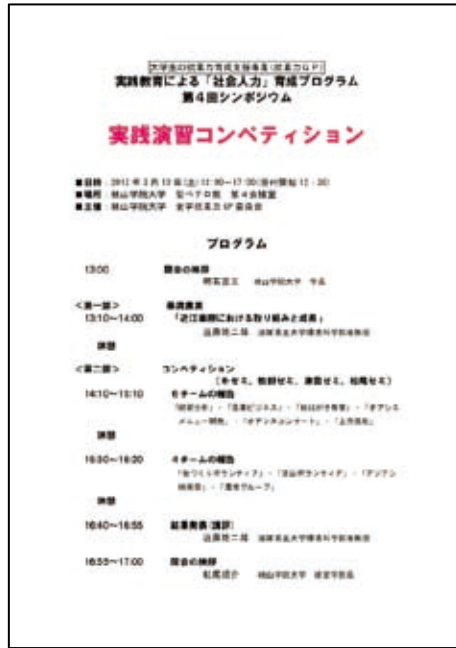
<自由記述>

- ・ 今回の講演会は本当に素晴らしかったです。生涯学習ということを確認しました。自分へのエールに思えたこの講演をもっと大きい教室で多くの学生・保護者にも聞かせてあげたいと思いました。自分のエール立場で（年齢関係なく）心に響き経営学部で新しいエネルギーを感じました。学ぶということの楽しさを思い、感動しました。次回広報の仕方に一考して頂けたらと思います。
- ・ 創業力をつけた学生を育てて下さい。
- ・ 信夫先生、松尾先生の実践させる授業はすてきでした。学生が自信を持って、社会に出て行って欲しい。
- ・ 先日のエクステンションセンター主催のビジネスコンテストで発表した 7 組の学生のアイデアを実現するゼミがあってもいいのかと。
- ・ 桃大の知的財産を～増やして欲しい。
- ・ 今日のような講演には、学内あげて参加者を出して欲しい。
- ・ 学生のボランティア発表会、ビジネスコンテスト、等頑張ってる姿を全学で共有して欲しい。
- ・ 素晴らしい会を与えていただき、感謝しております。
- ・ 桃大で 1 番広い教室が一杯になった状態で本日のような講座が行われる日々を期待します。
- ・ 大変勉強になり楽しかったです。参加して良かったです。
- ・ 就職する、仕事をすると考える機会になりました。
- ・ 就業力 GP において実践教育を取り込み、社会の即戦力として学生を育成させることに非常に感動しました。大学は講義中心で本の中の世界でしか教育を受けない大学も多くあるとおもいますが、実践を積んだ学生のほうが面接時も他校の生徒と比べて力を発揮できると思う。
- ・ 学生が社会に出るにあたって、個人が考えるという動機付けをしっかりと四年間実施されているのは非常に素晴らしいことだと思います。
- ・ 元気ができました
- ・ 実践力をつけるカリキュラムをたくさんされていて取り組みの内容がよくわかりました。もっと多くの場面に発信していかれることを希望します。
- ・ テクノロジーの企業にも求人票をだして下さい。
- ・ 本日の休講を掲示板にかいてほしい。家を出るのが早い為、パソコンで朝確認が出来ず、学園に着いてからスマホでない為確認が取れず困った事がある。
- ・ 野田一夫氏の講演はもっと大勢の学生たちにも、そして親にもきかせてもいい内容だった。百人あまりでは、人をもっと集める努力がもっと必要だと感じた。

5-4 第4回シンポジウム「実践演習コンペティション」

日時	2012年3月10日(土) 13:00~17:00
場所	桃山学院大学 聖ペテロ館 第4会議室
主催	桃山学院大学 全学就業力GP委員会
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 開会の挨拶 桃山学院大学学長 明石 吉三 <第1部> 基調講演 ◆ 「近江楽座における取り組みと成長」 滋賀県立大学環境科学部准教授 近藤 隆二郎氏 <第2部> コンペティション (朴ゼミ・牧野ゼミ・津田ゼミ・松尾ゼミ) ◆ 6チームの報告 「経営分析」、「農業ビジネス」、「絵はがき教室」、 「オアシスメニュー開発」、「オアシスコンサート」、「上方芸能」 ◆ 休憩 ◆ 4チームの報告 「街づくりボランティア」、「里山ボランティア」、「アジア映画祭」、「環境グループ」 ◆ 休憩 ◆ 結果発表(講評) 滋賀県立大学環境科学部准教授 近藤 隆二郎氏 ◆ 閉会の挨拶 桃山学院大学経営学部長 松尾 順介
司会	大久保 文乃(桃山学院大学経営学部3年次生)

図 67 第 4 回シンポジウム 実践演習コンペティション チラシ



◆司会

大久保 文乃(桃山学院大学経営学部3年次生)



◆会場の様子



◆開会の挨拶

今木 秀和(桃山学院大学学長室長)



◆「近江楽座における取り組みと成長」

近藤 隆二郎氏（滋賀県立大学環境科学部准教授）



◆学生による発表（全10チーム）





◆結果発表（講評）



◆閉会の挨拶

松尾 順介（桃山学院大学経営学部長）



◆記念撮影



◆報告で使用された資料

スチューデントファーム
「近江楽座」
 まち・むら・暮らし ふれあい工舎



スチューデントファーム「近江楽座」まち・むら・暮らしふれあい工舎は、2004年より滋賀県立大学で行われている、学生が主体となって地域活性化に貢献する活動の総称です。キャンパスを飛び出し、地域で活動する学生たちの試みと、それを支えるシステムをご紹介します。

プロジェクトの始まり
「学生主体による地域貢献活動」がキーワード。

滋賀県立大学で取り組んでいる、

- 地域と関わる演習
- フィールドワーク
- 研究室活動
- 学生活動
- など



において、みなさんが感じ課題に自ら取り組みたいと思ったとき、近江楽座のプロジェクトへの道のりがスタートします！

近江楽座とは

スチューデントファーム「近江楽座」とは

- ・学生主体の活動を大学が支援
- ・地域貢献活動を行うプロジェクトを学内で募集
- ・平成16年度(2004)から開始

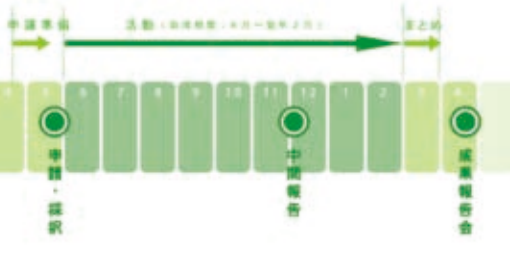


近江楽座イメージキャラクター「おんこ」

近江楽座のプロジェクト
募集テーマと選定基準

募集テーマ	選定基準
<ul style="list-style-type: none"> ■ まちづくり、地域おこし ■ 地域文化の継承、再生 ■ 産業振興、地域産業 ■ 地域医療、福祉 ■ 小・中・高大連携 ■ 行政・企業・市民ネットワーク ■ その他地域活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 持続性 学生主体の地域貢献を目的とし、毎年継続した継続的なプロジェクトを実施しているか ■ 獨創性 地域が唯一の学生主体がリーダーであり、地域から課題へ課題を果敢とっているか ■ 高視性 県民性、県産品など学業として活用可能な活動を行っているか、地域で広く認知され活用されているか ■ 協働性 協働を目的として、地域で活動の場を提供する民間企業があるか、また、地域で広く認知され活用されているか

近江楽座の1年



申請・採択 (3月) → 活動 (4月～10月) → 採択 (11月) → 成果報告会 (12月)

募集区分

Aプロジェクト	Bプロジェクト
<p>学生自らが課題設定し活動する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新規プロジェクト ●継続プロジェクト ●Sプロジェクト (活動開始の地域が限られる) 	<p>外部からの要望にこたえ活動する</p> <p>例) ・「近江地域の伝統工芸品をPRするための活動」 ・「高齢者における認知症予防のための活動」 など。</p>

プロジェクト選定の流れ

プロジェクトの募集

申請
規定の申請書等にて募集期にプロジェクトが申請されます

公開プレゼン
学生のプレゼンター一人ひとりが能力向上を目的とともに、公益活動を行うことを目的としています



学生募集と実行しプロジェクトの紹介

審査
選定基準（目的性・実現性・実現性）に基づき、学内所から選定された審査員により審査が行われます

プロジェクトの決定

プロジェクトの進路

継続・リメイクそれぞれの進路へ

一年間の活動を経て、プロジェクトがたどる道はさまざま。しかし、学生たちは成長の中で学び、かけがえのない経験という財産を得るのです。



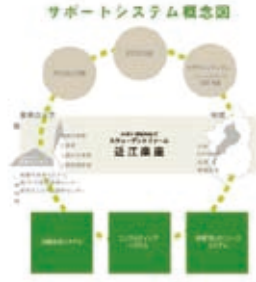
活動支援

近江楽座のプロジェクトに採択されると、以下のような独自の支援を受けることができます。

3つのサポートシステム

- 1. 活動費の補助
- 2. 活動場所の提供
- 3. 活動の宣伝・広報

サポートシステム概念図




プロジェクトの成果報告

中間報告会
活動の中間報告と相談会をかねて毎年夏祭形式で行われます。プロジェクトの活動状況を多岐での質問応答により、情報交換・課題共有・アドバイスを受けることを目的としています。また、チームごとに個別相談も随時実施しプロジェクトが抱えるさまざまな課題や悩みを解決できるようにしています。



中間報告会の様子

成果発表会
すべてのチームが活動成果を報告します。発表に対して会場関係者のコメント、質疑応答が行われ、プロジェクトの一年間の成長と課題を再認識します。



成果発表会の様子

楽座のいま

2011年度採択プロジェクト



※※※ 採択プロジェクト

23 プロジェクトが活動中!

楽座のいま 活動フィールド

活動のフィールドは彦根市や近隣地域だけでなく、県内全域や県外にも広がっています。

- ☆ 2011年度新規プロジェクト
- 2011年度継続プロジェクト
- 2004-2010年度採択プロジェクト

活動紹介 3

知ってほしい 資源循環の和 菜の花エネルギー

□工学部の専門知識を活かした活動
□小学校の学習を対象とした授業は今年で3年目。定着した学びがたいで、楽しくエネルギーのことを学べる機会に。

卒業生もはまなびエネルギーについて知ってもらおう
小学校出前授業

家で作業の時から手を動かす
菜の花農場

学校の環境中の活動の様子
(2011.10.14 写真: 丸山アキラさん)

活動紹介 1

学生しが気付けないまちの魅力を発信 Tage-Town-Project

地域の魅力を発信する人
多賀暮らし組織

地域の魅力を発信する人
一人一人が活躍
八百善アパート改修

□多賀らしい暮らしが動いていくように、まちの魅力を発信していく活動。
□建築、アザ、地域、人間などのメンバーがそれぞれの専門をプロジェクト化しています。

活動紹介 4

相手の立場になれるプロになるために 社会貢献活動

人助けの子供たちと交流
彦根市立病院 小児科病棟

輝きのある子供たちと楽しい日々を
NPO ほほハウスとの連携

□近い将来に就職する学生が、現場の経験となる人たちと時間を共有することで、その人の生き方を学べられるような経験を考えるきっかけに。
□地位、職業や組織の境目に立っている人の声を聞き、社会のニーズを捉えてみる。

活動紹介 2

地域と一体になって、地域のための場所づくり Sens "森" 家でつながる人の"森"

□週末の夜にある集居「石巻」の活性化を目標に活動するプロジェクト。
□地域のプロに協力しながら「エコ建築3号館」を改修、集居の再生と学生が気軽に集えるコミュニティスペースをつくりたい。

地域のコミュニティスペースを創り出す
エコ民家改修・活用

写真提供: 丸山アキラさん
(2011.10.14 写真: 丸山アキラさん)

事務局での活動サポート

職務の内容

「近江楽座」一まち・むら・くらしふれあい工舎の運営サポートと、学生プロジェクトが円滑に進められるよう活動のアドバイスや種別支援業務を行っています。

① 運営・推進補助

- ・ プロジェクト事業、活動助成、成果発表等の実務補助
- ・ 学生チームに対する指導助言、活動推進コーディネート
- ・ 外部からの取材・視察や協力要請依頼に対する対応窓口
- ・ 活動成果のとりまとめ 等

事務局での活動サポート

② 学生委員会のサポート

近江産産をさらに推進するための組織、近江産産チームに所属する有志の学生によって構成される。学部や学科、プロジェクトの枠を超えて地域活性化に貢献するためのネットワークを形成することを目的とする。

<2011年度の学生委員会の活動>

- 近江産産チーム交流会の企画・開催
- プロジェクトの取材



近江産産学生委員会主催の交流会「プロパロ」2011年7月

事務局での活動サポート

③ スキルアップのサポート

活動していく上で必要な知識や技術を学べる講座を開催しています。2011年度のスキルアップ講座は、「伝える技術」をテーマに3回の講座を開きました。

- 第1回「広報活動の基礎」- 近江産産事務局 事務局員
- 第2回「活動の集約と発信」- 近江産産事務局 事務局員
- 第3回「プロジェクトの進捗」- 近江産産事務局 事務局員



第1回スキルアップ講座「伝える技術の磨き方」2011年9月

事務局での活動サポート

④ 広報プロモーション

近江産産 HP の管理

プロジェクトレポート作成

チラシ等の作成





交流会・イベントの告知やレポートチームの活動をホームページで

<http://okmuraoka.net/>

チームの活動内容を多岐にわたる。活動の記録を把握するのみに、HPやチラシの作成に活用。

公開プレゼン・成果報告会などのチラシを作成

地域づくり教育研究センター

地域に開かれた、大学をめざして

The UNIVERSITY OF SHIGA with COMMUNITY

地域と大学をつなぐ、大学と学生をつなぐ、大学と社会をつなぐ。地域づくり教育研究センターは、地域と大学をつなぐ、大学と学生をつなぐ、大学と社会をつなぐ。地域づくり教育研究センターは、地域と大学をつなぐ、大学と学生をつなぐ、大学と社会をつなぐ。

〒525-8511 滋賀県彦根市川原町 200
TEL: 0749-26-0210 FAX: 0749-26-9421
E-mail: info@shiga-u.ac.jp
HP: http://uobn.shiga-u.ac.jp

センターへの相談「新しい人、学生さんに地域に関わってほしい」

社会的期待

たとえば、

- ★ 伝統的なまつりの新しい手になってほしい
- ★ 地域の資源を発掘し、発信してほしい
- ★ 地域の暮らし、イベントに協力してほしい 等々

事務局での活動サポート

⑤ 京都新聞連載記事作成の事例

西民家再生 創人 柳

京都新聞「@キャンパス」

- 毎週水曜日から土曜日の夜
- 近江や滋賀の大学生が、自分たちで連載の作成を行う。
- 3回分を近江産産チームが数チームずつ執筆。

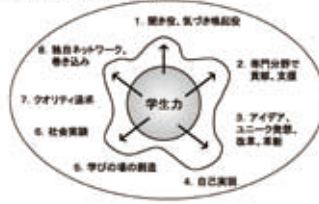
2011/6/15 掲載
読者人・とよさと快楽プロジェクト



2011/7/27 掲載
近大地域教育推進部「一社・とよさと」

学生力の可能性

■ 地域への学生力の働きかけ



1. 働きかけ、気づき喚起

2. 専門分野で貢献、支援

3. アイデア、ユニーク情報、提案、実践

4. 自己実現

5. 学びの場の創出

6. 社会実践

7. ネットワーク構築

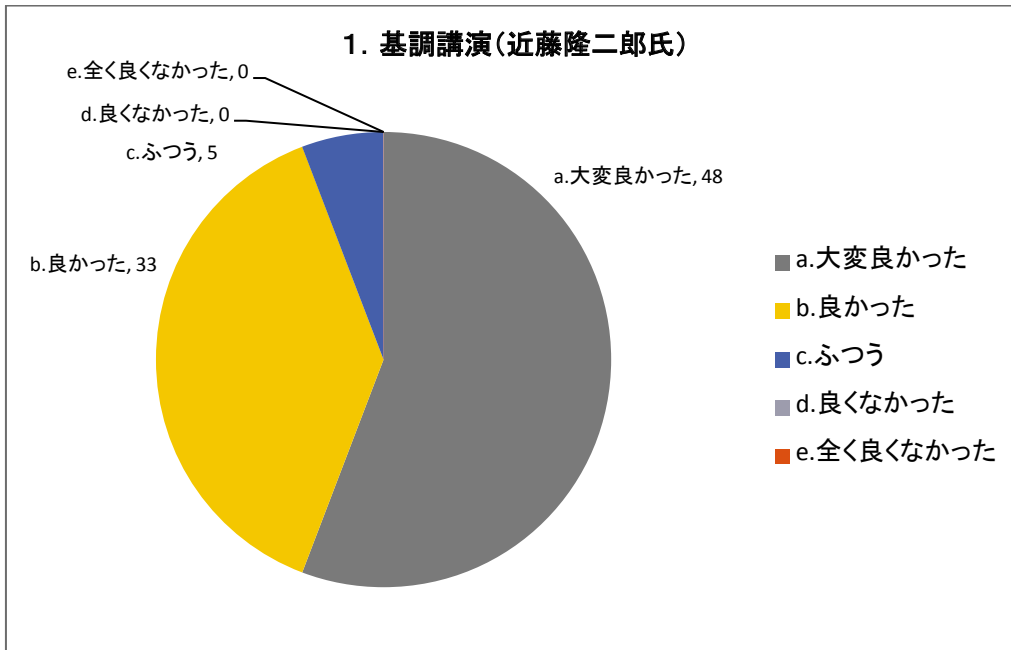
8. 独自ネットワーク、巻き込み

学生力

アンケート集計（回答者数名 87名）

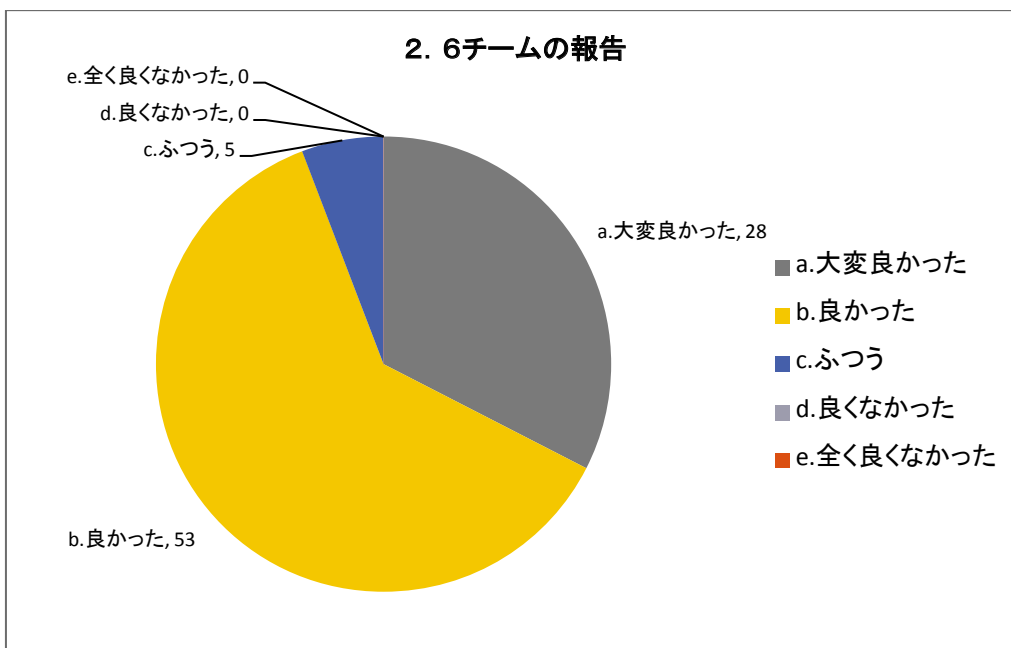
1. 基調講演（近藤隆二郎氏）

a.大変良かった	b.良かった	c.ふつう	d.良くなかった	e.全く良くなかった
48	33	5	0	0



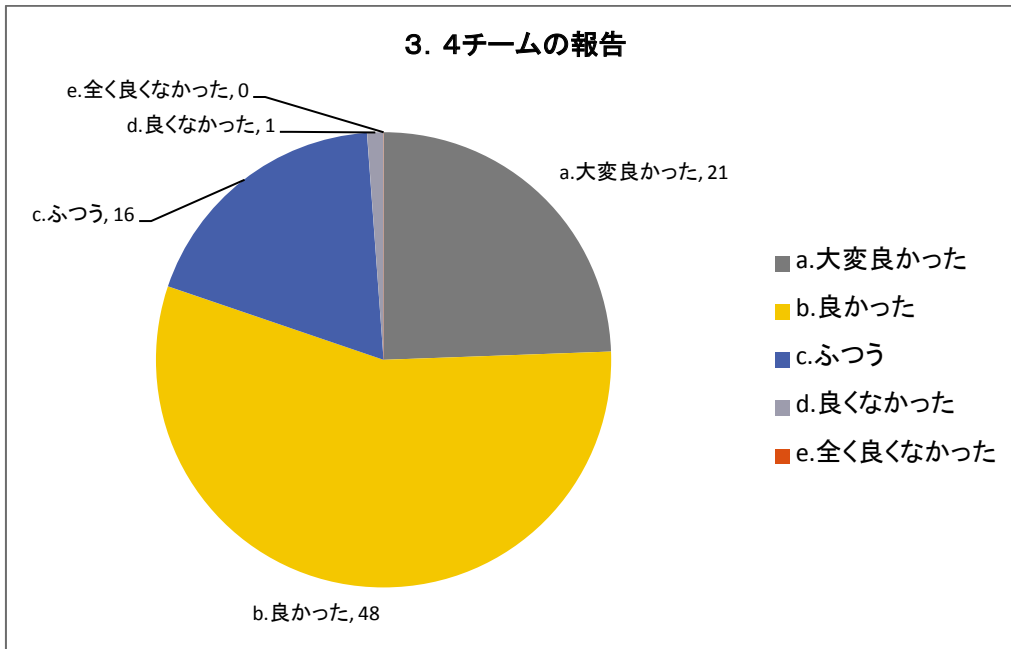
2. 6チームの報告

a.大変良かった	b.良かった	c.ふつう	d.良くなかった	e.全く良くなかった
28	53	5	0	0



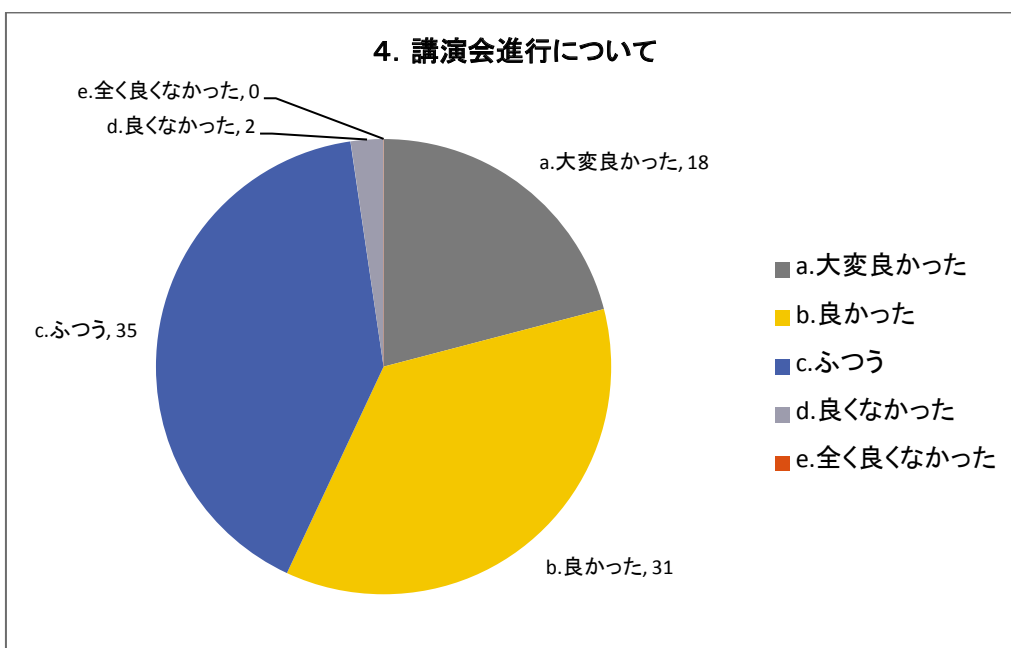
3. 4チームの報告

a.大変良かった	b.良かった	c.ふつう	d.良くなかった	e.全く良くなかった
21	48	16	1	0



4. 講演会進行について

a.大変良かった	b.良かった	c.ふつう	d.良くなかった	e.全く良くなかった
18	31	35	2	0



<自由記述>

- ・ 基調講演は、とてもわかりやすく何をすれば良いのか伝わった。だが、ゼミの発表では何とも言えない発表もありゼミの雰囲気を感じられた。
- ・ 就活の時期と重なって大変でしたが、良い経験になりました。もう少し、しっかり用意をしてのぞめばよかったかな？と思いました。
- ・ パワーポイントなど、見やすい資料をたくさん提供していただいたので、わかりやすく、とても聞きやすかったです。もっとゼミ生の方を知りたかったので、みんな出たり、立って発表してもらいたかったです。私たちも来年は今の先輩方と同じ立場で発表させてもらえると思います。その為にも、この一年頑張りたいと思います。ありがとうございました。
- ・ それぞれのゼミの活動がよく分かりました。先生から聞くのとは違い、体験した学生本人からの発表は、今後同じゼミに参加する私達にはすごく意味のあることでした。ゼミ生にとっても、プレゼンをするということは、仲間内だけでなく、他のゼミ生や、二回生からの質問に答えたり、どういう印象を与えるかなど、普段とは違う緊張感を感じることができると思ったので、社会に出た時に役立つ練習の場にもなると思いました。
- ・ 近藤隆三郎先生の話は、他の学生の人達がどのようなことをしているかよく分かったのですが、時間が短いので少しとぼしとぼしだったので残念だった。今後もこのような活動を継続すれば良いと思いました。
- ・ 近藤さんの講評がとてもおもしろくて、的確で、とてもよかったと思うので、こういったことは続けてもらえたらと思いました。また、すぐに評価がもらえて、ゼミ生にとってもモチベーションを高められることの一つなると思うので、そういったことでも、こういったことを続けてほしいと思いました。
- ・ 実践演習はとてもいいと思うので、今後も続けて行ってほしいです。
- ・ この機会は、成長できるよい機会だと思いました。
- ・ もっと他のゼミ生もたくさん参加して、地域に貢献できるような活動をもっとやってほしいです。
- ・ 環境グループチームについて、原発問題は今現在だけでなく、今後必ず主張されていく事項だと思います。今日の発表だけでなく、将来の松尾ゼミでも実施を継続してほしいと思いました。
- ・ 活動内容の素晴らしさに対して、少し発表が惜しいと感じました。心に響く発表を考える必要があると思いました。
- ・ 報告会があり良かったと思います。今後も続けてほしいと思います。
- ・ 他の大学ではどのような実践演習が行われているか知りたくなりました。
- ・ 今後の発展のために、成果目標を明確にして、頑張してほしい。

- ・ 発表チームへの質問の際にマイクをあらかじめ準備しており、素早く手渡していたのがとてもよかったです。ただ、マイクトラブルが途中にあったので、予備のマイクを用意しておくなどの対処をしておくと思いしました。また、最後に総評だけでなくチームへ個別の改善点やよかった点を話してくれたのは、参考になるのでとても良いと思いました。
- ・ テーマが様々でしたが、勉強になりました。
- ・ もう少しつっこんだ内容だとおもしろいと思いました。
- ・ 経営学部のみなさんによる本格的な発表は面白かったし、勉強にもなりました。こうした機会にお呼びしてもらって嬉しく思います。今後もこういった報告会をしてほしいと感じました。
- ・ 今回発表をした経験をいかして、先生方の意見や注意点、改善点をいかして、就職活動などにいかしていきたいです。
- ・ 今回のシンポジウムの全体の流れ、時間等もほぼ予定通りですごくよかったと思います。報告に関しての意見を述べると、7分間という短い報告時間と1分間で言う報告者の準備で、レジメに目を通す間もなく、次々と報告が行われていました。その結果、レジメを見て、PPを見て、さらに話を聞く、というような状態になり、話に集中できない場面が目立ちました。今回来て下さっている新三回生の方たちが来年もするならば、このような点に気をつけ、PPはできるだけ文字は入れない、レジメに目を通しながら話を進められるようなレジメを作る等、今回の反省点を改善して頑張してほしいと思います。あっとは入念なりハーサルをし、司会もスムーズに話せるともっといいシンポジウムになると思います。
- ・ 一般の人も気軽に参加できるようにしてほしい。(はり紙に参加自由ですって書いて)
- ・ どのチームも興味深い取組みを行っていたので、とてもおもしろかったです。
- ・ 朴ゼミのプレゼンはすごく見やすかった。全体的にみなさん上手に喋るなあ、と思った。先輩方の真剣な姿がすごく印象に残った。人前で喋るのは、すごく緊張するんだろうなあ、と思ったけど、もうすぐ自分もそういった立場に立つと思ったら、不安だったけど、すごく勉強になった。私が一番気になったのは、やはりコミュニケーション力は何事においてもすごく必要だと思った。些細な事でも話し合えないと、伝わっているかどうかわからなくなるというのは、普段から気をつけなければならぬと思った。また積極的に発言する事も大切だと思った。
- ・ 今後も何一回発表の機会を作っていただきたい。成果発表が重要です。提携先もご招待することによってさらに連携が深まると思います。
- ・ 毎年、何らかの方法で活動報告会を続けていくのがよい。
- ・ 今後の活動が楽しみです。

- ・ 「知行合一」素晴らしいことだと思います。まさに「実践教育」だと思います。今後共継続されることを期待しています。本日はありがとうございました。
- ・ 地域住民の方たちとの交流を深め、よりいっそう地域貢献・未来発展していただけるよう今後も活動を行って行って下さい。
- ・ 全体的にまとまっていて、有意義な時間を過ごせました。ただ、パワーポイントが明かりで見えにくかったです。各チームに意見を書く用紙があった方が良いと考えます。そこから反省できる点があると思うので。
- ・ 参加者(学生)の成長記録が残るような活動記録が欲しい。
- ・ 現在、就職活動をしていて、“社会人力”の大切さを感じています。このプログラムで得られた社会力は、就職活動をしていて、話せるいいネタだけでなく、本当に自分に必要な社会力がついたので良かったです。今後の活動としては、せっかく夏休みや、講義時間を利用するので、自分の目標を立て、身につけたい具体的な社会人力を考えてから進めるともっと良くなると思います。
- ・ このシンポジウムは、学校始まってからでもよかったのではないのでしょうか。ここまで来る交通費とかも高いので、定期を買ってからにして欲しかった。あと、パソコンに書いてる教室と違うかった。

6. 視察報告

<平成 22 年度大学教育改革プログラム合同フォーラム>

日時	2010 年 12 月 10 日 (金)
場所	秋葉原コンベンションホール他周辺会場
出張者	横田 千尋 (学長事務課・就業力 G P 事務局) 森田 政恒 (学部事務課)
主催	独立行政法人日本学生支援機構

平成22年度
新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム
大学教育・学生支援推進事業
(学生/就職支援推進プログラム)
意見交換会 就職にめぐる諸課題等について考えよう。

参加費 無料

校名	開催日時	会場	出席者	(事務局担当校)
慶応義塾大学	12月15日(水) 12月16日(木)	【東京】	【東京】	慶応義塾大学 慶応義塾大学国際キャリアセンター
早稲田大学	12月15日(水) 12月16日(木)	【東京】	【東京】	早稲田大学 早稲田大学国際キャリアセンター
立教大学	12月15日(水) 12月16日(木)	【東京】	【東京】	立教大学 立教大学国際キャリアセンター
法政大学	12月15日(水) 12月16日(木)	【東京】	【東京】	法政大学 法政大学国際キャリアセンター
明治大学	12月15日(水) 12月16日(木)	【東京】	【東京】	明治大学 明治大学国際キャリアセンター
中央大学	12月15日(水) 12月16日(木)	【東京】	【東京】	中央大学 中央大学国際キャリアセンター
日本学生支援機構	12月15日(水) 12月16日(木)	【東京】	【東京】	独立行政法人 日本学生支援機構

<平成 22 年度大学教育改革プログラム合同フォーラム>

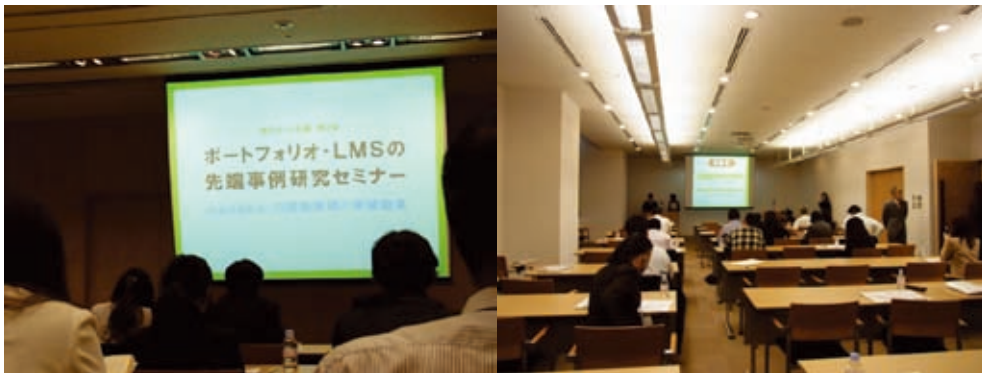
日時	2011 年 1 月 24 日 (月)、25 日 (火)
場所	秋葉原コンベンションホール他周辺会場
出張者	松尾 順介 (経営学部学部長) 小山 克年 (学長事務課長) 横田 千尋 (学長事務課・就業力 G P 事務局)
主催	文部科学省

<京都文教大学>

日時	2011年2月25日(金)
場所	京都文教大学
出張者	<p><桃山学院大学></p> <p>西村 達也(教務課長)、金澤 太郎(学生支援課長)、堀 亜樹(教務課長補佐)、延 康之(学生支援課長補佐)</p> <p>森田 政恒(学部事務課)</p> <p><富士通株式会社 文教ソリューション事業本部></p> <p>寺島 兼司</p> <p>(ビジネス推進部 兼) ソリューション推進部 担当部長)</p>
対応者	<p><京都文教大学></p> <p>杉原 秀明(事務局長兼キャリアサポート課長)</p> <p>西本 勝己(教務部教務課係長)</p> <p>村山 孝道(教務部教務課係長)</p> <p>押領司 哲也(様学生部キャリアサポート課係長)</p> <p>山中 耕(教務部研究支援課)</p>

<ポートフォリオ・LMSの先端事例研究セミナー>

日時	2011年6月3日(金)
場所	丸ビルホール&コンファレンススクエア 8F(東京)
出張者	<p>横田 千尋(学長事務課・就業力GP事務局)</p> <p>森田 洋(情報センター事務課)</p> <p>相島 淳子(学長事務課・就業力GP事務局)</p>
主催	株式会社朝日ネット



<就業力育成支援事業近畿地域会議>

日時	2011年6月8日(水)
場所	キャンパスプラザ京都2階ホール
出張者	横田 千尋(学長事務課参事) 相島 淳子(学長事務課就業力GP事務局)
主催	文部科学省



<明治大学>

日時	2011年7月5日(火)
場所	明治大学
出張者	松尾 順介(経営学部長)

<国土館大学>

日時	2011年7月26日(火)
場所	国土館大学
出張者	松尾 順介(経営学部長)

7. 外部・内部評価（平成 22 年度、平成 23 年度）

7-1 外部評価

7-1-1 外部評価委員会

委員

家永 豊

丸紅株式会社大阪支社長

評価点・改善提案

<評価できる点>

- ・実践教育による「社会人力」育成プログラムについて 2010 年度は 4 科目（環境ビジネス実践、地域ビジネス実践、福祉ビジネス実践、図書館経営論）、2011 年度は 7 科目（経営分析実践、農業ビジネス実践、博物館ビジネス実践、映像ビジネス実践、伝統芸能ビジネス実践、法務・税務ビジネス実践、地域ビジネス論）など、積極的かつ意欲的な取り組みが行われた。
- ・それぞれの取り組みは、地域の特性やビジネスの課題に則した個性的かつ魅力的なものであり、学生に対する教育的効果が期待できるとともに、大学の社会に対する貢献という観点からも評価できるものである。
- ・本取組の情報公開について、①大学ホームページトップ画面に「就業力 G P」を掲載したこと、②「アンデレクロス」に実践教育科目の活動状況をビジュアルで掲載したこと、③「大学案内」や「学部案内」に経営学部の実践教育科目を具体的に掲載したこと、④ G P 活動を周知・広報するため「G P - L I N K」を発行したこと、⑤本 G P 事業の概要を説明するパンフレットを作成し、他大学及び近畿の各高校に送付したことなど、積極的かつわかりやすい情報公開が行われた。
- ・履修学生の成長について、その成長を確認するためのきめ細やかな工夫がなされた。具体的には、各取り組みにおいて、取り組み終了後、履修学生からレポートを提出させるとともに、履修学生と教員による反省会を開催し、意見交換を行うことで担当教員は履修学生の成長を確認するとともに、それぞれのもつ課題も確認された。また、manaba folio を利用することでも成長過程が確認されている。

<今後の課題点など>

- ・今後もこういった実践型の取り組みを導入・拡充する必要がある。その際、学生の意見をより積極的に吸収する仕組みを構築することが求められる。大学や教員側からの一方的な押し付けではなく、学生が主体的に実践教育の内容を企画・設計し、実行するような仕組み作りを構築していただきたい。そ

れによって学生のモチベーションの向上も図られるものと思われる。

- ・ 2年間のG Pでの取り組みによって蓄積された、教員および学生の経験を次の学年に的確かつ十分に伝達する必要がある。2年間のG Pでの取り組みは、多岐多様であり、成功も失敗も含めて、次の学年が様々な実践的な取り組みを行う上で大きな糧となるものである。また、このような経験を伝達することによって履修学生の成長も促されるものと思われる。その際、学年を超えた交流機会を提供することも有効であろう。
- ・ 多様な国からの交換留学生を実践教育に参加させることも重要である。このような実践教育においては、日本人同士だけでなく、海外の留学生とも交流することでコミュニケーション能力の向上が期待される。また、外国語習得に対するインセンティブにもつながるものと考えられる。
- ・ 連携先の企業・機関との協力関係をベースに、今後はこの関係を学生の就職活動に発展させることが求められる。昨今、就職活動はインターネット中心のあり方が一般化しているが、連携機関との協力関係をベースとした実践教育によって、連携機関は履修学生の素顔に接することができる。これは、採用側からすれば、重要な採用情報であり、採用活動にも活用できるものと思われる。

7-2 内部評価

7-2-1 内部評価委員会

委員	本間	法之	副学長、全学自己点検・評価室長
委員	宮本	孝二	教務委員長、社会学部教授
委員	坂手	恭介	キャリアセンター長、経営学部教授
委員	荒木	英一	情報センター長、経済学部教授

評価点・改善提案

<評価できる点>

- ・ 実践教育による「社会人力」育成プログラムについて 2010年度は4科目（環境ビジネス実践、地域ビジネス実践、福祉ビジネス実践、図書館経営論）、2011年度は7科目（経営分析実践、農業ビジネス実践、博物館ビジネス実践、映像ビジネス実践、伝統芸能ビジネス実践、法務・税務ビジネス実践、地域ビジネス論）を追加し、経営学部以外の学部との協力体制がなされている。
- ・ 取組の実施体制について、本G Pは学長のマネジメントが重要な位置を占め

るものであり、各委員会規程が整備されている。実働部隊である就業力G P推進委員会は定期的に委員会の開催がなされている。

- ・本取組の情報公開について、本学ホームページトップ画面に「就業力G P」を掲載したこと、「アンデレクロス」に実践教育科目の活動状況をビジュアルで掲載したこと、入試広報誌「大学案内」に経営学部の実践教育科目を具体的に掲載したこと、大学構成員にG P活動を周知するため「G P - L I N K」を発行したこと、本G P事業の概要を説明するパンフレットが他大学及び近畿の各高校に送付されていることが挙げられる。
- ・e-ポートフォリオの導入について、manaba folio（朝日ネット社）は操作が簡単で、学生から好評であり、経営学部ではe-ポートフォリオを使った学生への指導がなされている。具体的には履修学生の情報交換や教材などのグループ作業や相互評価に活用されている。その際、履修学生の主体的かつ意欲的な利用もみられた。
- ・シンポジウムの開催について、2010年度は2回、2011年度は2回の計4回が開催された。特に第3回シンポジウムはステークホルダーを意識したものであった。
- ・教職協働の取組について、「就業力G P事務局」のスタッフは各部局・各所管の職員から構成され、教員と連携して学生の指導がなされている。
- ・履修学生の成長について、各取組みにおいて、取組み終了後、履修学生からレポートを提出させるとともに、履修学生と教員による反省会を開催し、意見交換を行うことで担当教員は履修学生の成長を確認している。また、manaba folio を利用することでも成長過程が確認されている。
- ・地域貢献について、NPO法人、自治体、企業、近隣の農家との連携がなされている。

<今後の課題点など>

- ・卒業後の実践教育履修学生に対する「就職満足度」調査を具体的にどう測るのか、ポートフォリオの利用も含めて検討すべきであろう。
- ・本事業は最終的に学部を超えて全学連携の実践教育の実現と教職協働を目指したものであったが、2年間の活動だけではその目的を達成できたとは言い難く、強化に向けての対策が必要であろう。特に、このような全学的な取組みにおいては、学長の強力なリーダーシップが重要な鍵となるが、2年間の取組みを遂行する過程において、学長によるリーダーシップが十分に発揮できるような体制が構築できなかった。この点は、今後このような取組みを遂行する上で重要な課題である。
- ・平成23年度で就業力G P事業は廃止となり、財政支援期間終了後の本取組

の展開について、文部科学省が新たに募集した「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」への申請を見送ったのは残念であるが、大学として継続的に推進する体制を構築すべきであろう。

- ・2年間の本取組の成果について、大学内・外に情報公開すべきであろう。

8. 巻末資料

8-1 実践教育による「社会人力」育成プログラム推進に関する規程

(2011年(平成23年)3月9日 大学評議会)

(趣旨)

第1条 この規程は、平成22年度大学生の就業力育成支援(以下「就業力GP」という)選定事業・実践教育による「社会人力」育成プログラムの推進にあたり、本学における実施体制等について定める。

(就業力GP事業組織)

第2条 本学における就業力GP事業を円滑に実施するために、以下の委員会を置く。

1. 全学就業力GP委員会
2. 就業力GP推進委員会
3. 内部評価委員会
4. 外部評価委員会

2 委員会は、委員会の活動を遂行するにあたり、必要に応じて作業部会を設置することができる。

(全学就業力GP委員会の職務)

第3条 全学就業力GP委員会の職務は、次のとおりとする。

1. 実践教育による「社会人力」育成プログラムの事業計画の承認
2. 事業計画が遅滞なく推進されるための連絡・調整
3. 自己点検・評価報告書の承認
4. 事業推進に係るその他事項

(全学就業力GP委員会の構成)

第4条 全学就業力GP委員会は次の各号に掲げる者をもって組織する。

1. 学長
2. 学長室長
3. 経営学部長(就業力GP推進委員会委員長)
4. 大学統括部長
5. 教務事務部長
6. 学生事務部長
7. 研究情報事務部長
8. その他委員長が必要と認めた者

2 全学就業力GP委員会の委員長は、学長が務める。

3 委員長に事故ある時は、学長室長がその職務を代行する。

4 全学就業力G P委員会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(就業力G P推進委員会の職務)

第5条 就業力G P推進委員会の職務は、次のとおりとする。

1. 実践教育による「社会人力」育成プログラムの事業計画の策定
2. 全学就業力G P委員会との連携
3. 経営学部教授会との連絡・調整
4. 文部科学省関係書類の作成
5. 事業計画にある授業に関わる外部団体との折衝
6. 実践教育科目の実習およびインターンシップの支援
7. 自己点検・評価と活動報告書の作成
8. 事業推進に係るその他事項

(就業力G P推進委員会の構成)

第6条 就業力G P推進委員会は次の各号に掲げる者をもって組織する。

1. 経営学部長
2. 経営学部教務委員
3. 経営学部長の指名による教員
4. 職員委員(就業力G P事務局担当者) 2名
5. 就業力G P推進委員会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。
- 2 就業力G P推進委員会の委員長は、経営学部長がこれを務める。

(内部評価委員会の組織)

第7条 全学就業力G P委員会は、就業力G P事業に関して、自ら点検・評価検証を行う組織として、内部評価委員会を置く。

(内部評価委員会の職務)

第8条 内部評価委員会の職務は、次のとおりとする。

1. 事業評価指標の策定
2. 点検と評価
3. 事業評価に基づいた改善に係る指摘事項の策定および改善要求
4. 評価に係るその他の事項

(内部評価委員会の構成)

第9条 内部評価委員会は次の各号に掲げる者をもって組織する。

1. 全学自己点検・評価室長
2. 教務委員長
3. キャリアセンター長

4. 情報センター長

5. その他委員長が必要と認めた者

2 内部評価委員会の委員長は、全学自己点検・評価室長が務める。

(外部評価委員会の組織)

第 10 条 就業力 G P 事業について、事業成果や社会的ニーズや地域貢献などについて客観的な評価を求めるために外部評価委員会を置く。

(外部評価委員会の職務)

第 11 条 外部評価委員会の職務は、次のとおりとする。

1. 事業評価の実施

2. 事業評価に基づいた評価および提言の策定

(外部評価委員会の構成)

第 12 条 外部評価委員会は次の各号に掲げる者をもって組織する。

1. 他地域で就業力 G P 事業を行っている他大学の教員 若干名

2. 本学就業 G P 事業協力外部機関 若干名

2 外部評価委員会の委員長は、委員の互選により選出する。

(事務所管)

第 13 条 就業力 G P 事業組織の事務は、就業力 G P 事務局がこれを所管とする。

2 就業力 G P 事務局は、学長事務課と学部事務課で構成する。

(規程の改廃)

第 14 条 この規程の改廃は、全学就業力 G P 委員会の発議により、大学評議会の議を経て学長が行う。

付 則

委員会の設置期間は、就業力 G P 事業終了年度までとする。

この規程は、2011 年（平成 23 年）2 月 16 日から施行する。

8-2 実践教育による「社会人力」育成プログラム パンフレット

文部科学省平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」認定
実践教育による「社会人力」育成プログラム

ご挨拶

桃山学院大学 学長 藤原 孝司 様
自ら考え、積極的に行動する「世界の市民」の育成を目指して
 実践教育を通じて、社会人力を身につける

桃山学院大学 経営学部長 就業力GP事務局 藤原 孝司 様
実践教育を通じて、社会人力を身につける

取組概要

本取組は、実践教育を積極的に行うための就業力GP推進プロジェクトを推進することで、学生の社会力向上を図り、就業力の一層向上を目指すものである。本取組は、最先端のIT技術を活用し、実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。

社会人力 3つの要素

実践教育を通じて、社会人力を身につける

実践教育科目

地域ビジネス実践 地域ビジネス実践は、実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。	地域ビジネス実践 地域ビジネス実践は、実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。	地域ビジネス実践 地域ビジネス実践は、実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。
地域ビジネス実践 地域ビジネス実践は、実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。	地域ビジネス実践 地域ビジネス実践は、実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。	地域ビジネス実践 地域ビジネス実践は、実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。
地域ビジネス実践 地域ビジネス実践は、実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。	地域ビジネス実践 地域ビジネス実践は、実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。	地域ビジネス実践 地域ビジネス実践は、実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。
地域ビジネス実践 地域ビジネス実践は、実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。	地域ビジネス実践 地域ビジネス実践は、実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。	地域ビジネス実践 地域ビジネス実践は、実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。

マイポータル

実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。

マイポータル

実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。

マイコース

実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。実践教育の推進を図る。

8-3 就業力G Pホームページ画面 (http://www.andrew.ac.jp/gp2010/)

文部科学省 平成22年度 大学生の就業力育成支援事業採択



文部科学省 平成22年度 大学生の就業力育成支援事業採択
実践教育による「社会人力」育成プログラム

TOPICS

取組概要 | 達成目標 | 取組イメージ | 実践教育科目【特色】 | 取組体制

Contents

- ① 環境ビジネス実践
- ② 地域ビジネス実践
- ③ 福祉ビジネス実践

Link

- ① 就業力育成支援事業 (文部科学省)
- ② 大学ホームページ (経営学部)

実践教育による「社会人力」育成プログラムについて

このプログラムでは、学生が社会での実践体験を通して「働く」ことについて考え、必要な力を身につけることを目標としています。実践体験については、2010年度は「環境」「地域」「福祉」をキーワードに、ビジネスの観点から以下のようなテーマで学びました。

【環境ビジネス実践】**環境**
- 環境NPOでのインターンシップを通じて、環境NPOの運営実態を学ぶ

【地域ビジネス実践】**地域**
- 地域経済の活性化を目標に店舗運営について学び、アパレルshop経営を実践

【福祉ビジネス実践】**福祉**
- 福祉喫茶店を、地域住民が集うコミュニティカフェにすることを目標に、調査やイベントを実施

実践教育による
「社会人力」育成プログラム



取組概要 | 達成目標 | 取組イメージ | 実践教育科目【特色】 | 取組体制

Contents

- ① 環境ビジネス実践
- ② 地域ビジネス実践
- ③ 福祉ビジネス実践

Link

- ① 就業力育成支援事業 (文部科学省)
- ② 大学ホームページ



取組概要

本取組は、実践教育を積極的に取り入れた教職協働プログラムを構築・実施することで、学生の「社会人力」を育成し、就業力の一層の向上を目指します。

本学では、変化の激しい時代に柔軟かつ的確に対応できる能力を「社会人力」と捉え、①問題発見および思考力、②協力・コミュニケーション力、③改善・実行力を、その要素と考えます。そして、この「社会人力」育成には、実践教育が極めて有効であると考えています。

以上より、本取組においては、この「社会人力」を育成するために、①地元自治体や企業、NPO法人等との地域ネットワークを活かした実践教育に取り組み、②学生ポータルシステム(e-ポートフォリオ)の導入により、教職協働で個々の学生の実情に即したよりきめ細かい助言・指導ができる体制を構築し、③取組をビジュアルコンテンツ化することにより、学生の取組を全学的に継承・発展させ、④ひろく学内外に情報を発信していく予定です。



8-4 就業力GP facebook ページ (<https://www.facebook.com/andrew.gp2010>)

facebook 友達、スポット等を検索

桃山学院大学【就業力GP】実践... 12/10

管理者用パネル Facebookページを編集 ファン数を拡大 ヘルプ 表示

桃山学院大学
St. Andrew's University

文部科学省 平成 22 年度 大学生の就業力育成支援事業採択
実践教育による「社会人力」育成プログラム

就業力 GP

桃山学院大学
St. Andrew's University

桃山学院大学【就業力GP】実践教育による「社会人力」育成プログラム

いいね! 42人

大学
桃山学院大学【就業力GP】の公式Facebookページです

基本データ 写真 いいね! welcome 動画

就業力 GP 桃山学院大学【就業力GP】実践教育による「社会人力」育成プログラム
2011年12月16日

第3回シンポジウム「これから生きる就業力」が開催されました

第3回シンポジウム「これから生きる就業力」が2011年12月10日（土）に藍田ホールにおいて開催されました。今回のシンポジウムでは各界でご活躍中の財団法人日本総合研究所会長で多摩大学名誉学長の野田一夫氏を基調講演にお招きし、「人間教育の危機—わが子を自立させるための親ができること—」というテーマでお話をいただきました。豊かなご経験を踏まえた宗壇に富むお話に大変感銘を受けました。なお、85席のご高参にもかかわらず、エネルギーなお話ぶりに参加者は圧倒されました。また...

続きを読む ...

いいね!を取り消す・コメントする・シェア 3

就業力 GP 桃山学院大学【就業力GP】実践教育による「社会人力」育成プログラム
2011年12月12日

地域の主婦たちとロールプレイ!

学生のアプリレルショップ「MODE ME」の開幕前。11月15日には、地域の主婦たち5名が接客練習の応援に駆けつけてくださいました。主婦の方々が「お客様」となり、学生が「店員役」となって、接客を練習しました。あとは本番を待つばかりです！（このお店は「地域ビジネス実践」の授業の一環です。）

続きを読む ...

いいね!・コメントする・シェア 1 1

就業力 GP 桃山学院大学【就業力GP】実践教育による「社会人力」育成プログラム
2011年12月12日

来年3月の第4回シンポジウムの打ち合わせ。

2012年3月10日（土）にGPの第4回シンポジウム「実践実習コンペティション」が開催されます。実践的な内容を行っている4つのゼミ（松尾ゼミ、杉澤ゼミ、津田ゼミ、牧野ゼミ）が活動内容を報告しあって、近藤准二部准教授に講評していただきます。このシンポジウムは学生がすべて準備します。その第1回の打ち合わせが、11月29日に行われました。4つのゼミの代表者たちが意見を交換し合って、プログラム案を決めていきました。

続きを読む ...

いいね!・コメントする・シェア 1

就業力 GP 桃山学院大学【就業力GP】実践教育による「社会人力」育成プログラム
2011年12月12日

洋服の仕入れにGO!（第3弾）

学生が経営するアプリレルショップ「MODE ME」のバイヤーたちが、11月11日に株式会社玉屋のファミリーセールに、洋服を仕入れに行ってきました。今はやうものを安く大量にゲット!!当日、どうご期待!!（このお店は「地域ビジネス実践」の授業の一環です。）

続きを読む ...

いいね!・コメントする・シェア 1 1

就業力 GP



ノートを読む

- Facebookページのノート
- 私のノート
- 下書き
- 私についてのノート

ページへ進む

タグを追加

私が書いたノート

第3回シンポジウム「これから生きる就業力」が開催されました

作成: 桃山学院大学【就業力GP】実践教育による「社会力」育成プログラム 日時: 2011年12月16日 9:12

第3回シンポジウム「これから生きる就業力」が2011年12月10日（土）に聖ヨハネホールにおいて開催されました。

今回のシンポジウムでは各界でご活躍中の財団法人日本総合研究所会長で多摩大学名誉学長の野田一夫氏を基調講演にお招きし「人間教育の危機－わが子を自立させるため親ができること－」というテーマでお話をいただきました。豊かなご経験を踏まえた示唆に富むお話に大変感銘を受けました。なお、85歳のご高齢にもかかわらず、エネルギッシュなお話ぶりに参加者は圧倒されました。また、第1部で、松尾経営学部長から就業力GPの取組について、篠夫教授から就職と経営学部教育の現状について、卒業生の山根氏と横井氏からキャリアの現場について、そしてテクノロジー株式会社取締役会長西脇氏からは起業家からみた就業力について、お話しいただきました。

第3部の情報交換会では報告者の方々に対する質疑応答が行われました。また、経営学学生の保護者と教員との個人面談も行われ、盛況裏にシンポジウムを終えることができました。参加された皆様は、お疲れ様でした。

なお、コーヒータイト時に和泉スイーツが紹介され、大学と地域連携の実践もご紹介することができました。

2011年12月12日
全学就業力GP委員会



8-5 「GP-LINK」(GP事業の学内広報誌)

図68 GP-LINK Vol.1



4～5月の活動報告

- 1.1.1 産経ビジネス実習
◆ 日本最大企業チャリティーコンサートにオアシスを開催
- 1.1.2 産経ビジネス実習
◆ 企業見学会・説明会を実施

5月の活動報告

- 1.2.1 産経ビジネス実習
◆ 産経ビジネス実習
- 1.2.2 産経ビジネス実習
◆ 産経ビジネス実習

今後のスケジュール

産経ビジネス実習	産経ビジネス実習	産経ビジネス実習	産経ビジネス実習	産経ビジネス実習
6.18	6.23	6.29	7.1	7.2

マナフォリオ (manaba folio) とは

図69 GP-LINK Vol.2



4～7月の活動報告

- 1.1.1 産経ビジネス実習
◆ 産経ビジネス実習
- 1.1.2 産経ビジネス実習
◆ 産経ビジネス実習
- 1.1.3 産経ビジネス実習
◆ 産経ビジネス実習
- 1.1.4 産経ビジネス実習
◆ 産経ビジネス実習

今後のスケジュール

産経ビジネス実習	産経ビジネス実習	産経ビジネス実習	産経ビジネス実習	産経ビジネス実習
8.6	8.24	8~9	8~9	9.17

産経ビジネス実習

8-6 学内広報誌「アンデレクロス」

図 72 アンデレクロス - No.142 2010 Winter -



図 73 アンデレクロス - No.146 2011 Winter -



Case 03

**密着プロデュースの現場で
真骨から運営までを体験!**

松林 俊輔社長 実務




「密着プロデュース」の現場で、真骨から運営までを体験し、実践教育の重要性を学ぶ。現場での実践教育は、学生が社会人としてのスキルを身につけるのに非常に効果的である。

Case 02

**地場産業活性化の現場で
コンサルディレクティブの面白さを知れ!**

経営者 実務




地場産業活性化の現場で、コンサルディレクティブの面白さを知り、実践教育の重要性を学ぶ。現場での実践教育は、学生が社会人としてのスキルを身につけるのに非常に効果的である。



学生の意見を聞いてくれるか、最初は不安でした。

「最初は不安でしたが、先生のサポートのおかげで、安心して実践教育に参加することができました。先生は学生の意見をしっかりと聞いてくれるので、安心して参加することができました。」



熱のこもった呼びかけが、人々を惹きつけてくれました。

「先生の熱い呼びかけが、人々を惹きつけてくれました。先生は学生の意見をしっかりと聞いてくれるので、安心して参加することができました。」



実践教育を通じて、社会人としてのスキルを身につけることができました。

「実践教育を通じて、社会人としてのスキルを身につけることができました。先生は学生の意見をしっかりと聞いてくれるので、安心して参加することができました。」

Case 05

**映像ビジネスの現場で
実践の可能性を体験!**

映像ビジネス 実務




映像ビジネスの現場で、実践の可能性を体験し、実践教育の重要性を学ぶ。現場での実践教育は、学生が社会人としてのスキルを身につけるのに非常に効果的である。

Case 04

**農業活性化の現場で
日本の農業の活路を探る!**

農業ビジネス 実務




農業活性化の現場で、日本の農業の活路を探る。現場での実践教育は、学生が社会人としてのスキルを身につけるのに非常に効果的である。



プロの現場を、直に受け、勉強になりました。

「プロの現場を、直に受け、勉強になりました。先生は学生の意見をしっかりと聞いてくれるので、安心して参加することができました。」



実践教育を通じて、社会人としてのスキルを身につけることができました。

「実践教育を通じて、社会人としてのスキルを身につけることができました。先生は学生の意見をしっかりと聞いてくれるので、安心して参加することができました。」



継続して利益がないと農業は衰退してしまうんです。

「継続して利益がないと農業は衰退してしまうんです。先生は学生の意見をしっかりと聞いてくれるので、安心して参加することができました。」

8-7 各種情報媒体掲載記事

図 74 朝日新聞 2011年5月26日 21面

21 | 朝日新聞 | 2011年(平成23年)5月26日 木曜日 | 第10版 | 読者サービス | 広告特集

多彩な体験で就業力を伸ばす

ビジネスプラン企画やショップ経営など

専門学校から半世紀も経たず発展してきた桃山学院大学。理法、国際教育・社会・法・経済・経営の5学部と大学院4研究科を擁する文化系総合大学として、社会のリーダーとなる人材を数多く輩出する。その取り組みを聞いた。



「法学」 すべての仕事に求められる超業家精神を養う

法学部では、独自の「キャリア」を身につけることを目指している。その中でも、就職活動で求められる「超業家精神」を養うのが目的だ。法学部では、ビジネスプランコンテストや、学生起業家育成プログラムなど、実践的な取り組みを行っている。また、学生が自ら企画・運営する「学生起業家」も増加している。法学部では、就職活動で求められる「超業家精神」を養うのが目的だ。法学部では、ビジネスプランコンテストや、学生起業家育成プログラムなど、実践的な取り組みを行っている。また、学生が自ら企画・運営する「学生起業家」も増加している。

「経済」 体験学習を重ね「社会人力」を伸ばす

経済学部では、実践的な体験学習を通じて、学生の就業力を伸ばしている。その中でも、就職活動で求められる「超業家精神」を養うのが目的だ。経済学部では、ビジネスプランコンテストや、学生起業家育成プログラムなど、実践的な取り組みを行っている。また、学生が自ら企画・運営する「学生起業家」も増加している。経済学部では、就職活動で求められる「超業家精神」を養うのが目的だ。経済学部では、ビジネスプランコンテストや、学生起業家育成プログラムなど、実践的な取り組みを行っている。また、学生が自ら企画・運営する「学生起業家」も増加している。

「国際」 異文化に触れ視野を広げる国際体験プログラム

国際学部では、異文化に触れ視野を広げる国際体験プログラムを実施している。その中でも、就職活動で求められる「超業家精神」を養うのが目的だ。国際学部では、ビジネスプランコンテストや、学生起業家育成プログラムなど、実践的な取り組みを行っている。また、学生が自ら企画・運営する「学生起業家」も増加している。国際学部では、就職活動で求められる「超業家精神」を養うのが目的だ。国際学部では、ビジネスプランコンテストや、学生起業家育成プログラムなど、実践的な取り組みを行っている。また、学生が自ら企画・運営する「学生起業家」も増加している。

キャンパスを訪れて、桃学大を体験しよう!

OPEN CAMPUS 2011

オープンキャンパスでは、あなたの疑問に答えよう
 卒業試験対策や入試情報、進学先選びまでと幅広くサポート。
 先輩生もみんな、高校1・2年生や保護者の方の参加も大歓迎です。
 参加費は無料。入場自由。詳しくはホームページをご覧ください。

OPEN CAMPUS 2011 開催日程

5.29	7.17	8.26	8.27	10.2	12.23
10:00-16:00	10:00-15:00	13:00-18:00	10:00-16:00	10:00-15:00	10:00-15:00

世界が変わる体験がある。

〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1-1 桃山学院大学入試課
 Phone: 0725-543245 (受付生線) E-mail: zyu@andrew.ac.jp URL: http://www.andrew.ac.jp

桃山学院大学

図 75 日刊工業新聞 2011年5月13日 31面

決算報告学生が分析 近隣中小2社と連携 桃山学院大

【南近畿】桃山学院大の「実践教育」が、学生が企業の経営分析を学ぶ実践型プログラムをスタートした。大阪府和泉市の大学は、近隣の中小企業と連携し、決算報告の分析を通じて、学生が経営分析のスキルを身につける。学生が企業の経営分析のスキルを身につける。学生が企業の経営分析のスキルを身につける。学生が企業の経営分析のスキルを身につける。

桃山学院大は、近隣の中小企業と連携し、決算報告の分析を通じて、学生が経営分析のスキルを身につける。学生が企業の経営分析のスキルを身につける。学生が企業の経営分析のスキルを身につける。学生が企業の経営分析のスキルを身につける。

図 76 読売新聞 2011年4月24日

餅りやワゴンセール 桃山大生ら支援 桃山学院大和泉市の学

餅りやワゴンセール、学生が企業の経営分析のスキルを身につける。学生が企業の経営分析のスキルを身につける。学生が企業の経営分析のスキルを身につける。学生が企業の経営分析のスキルを身につける。

餅りやワゴンセール、学生が企業の経営分析のスキルを身につける。学生が企業の経営分析のスキルを身につける。学生が企業の経営分析のスキルを身につける。学生が企業の経営分析のスキルを身につける。

図 77 産経新聞 2011年7月30日 27面

多彩な体験型カリキュラム

大学の挑戦

4月、泉北高速鉄道・和泉中央駅近くの喫茶店「オアシス」で東日本大震災チャリティーコンサートが開かれた。企画したのは桃山学院大（和泉市）経営学部の牧野ゼミ。障害者の就業訓練の場でもある「オアシス」を地域住民の憩いの場にすることを目標に「福祉ビジネス実践」という位置づけでさまざまな試みに挑戦している。

コンサートは一年間のゼミ活動の集大成だった。出演交渉した学内のキターサークルなどが会場を盛り上げ、寄せられた募金は被災地に贈られた。牧野丹彦子教授は「答えのない課題をどう乗り越えるか。演習を通して前に踏み出す力を育ててほしい」と語る。

ゼミの活動は昨年4月、オアシスとの連携で始まった。アンケートで集まった「あまり知られていない」「入店しにくい」などの声をもち、学生が店の新たなコンセプトづくりから着手。広告宣伝やイベント企画と活動の幅を広げ、収益をアップさせた。4年生の立花直也さん(21)は「一人一人の力が大きな原動力になった」と語り、就職活動ではゼミをアピールし製菓会社に内定した。

社会体験型カリキュラムは他にも大学祭でアパレルショップを出店するなど多彩な取り組みを進め、文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業」にも選ばれている。

グローバル化のなか、国際感覚を磨くのもキャリア形成支援の重要な課題だ。桃山学院大では多彩な国際体験プログラムがあり、そのひとつが25年にわたって続く「国際ワークキャンプ」。インドネシアのバリ島で現地学生と一緒に子供たちを支える活動を行っている。また「インド異文化・ボランティア体験セミナー」はマザー・テレサの活動拠点になった「マザーハウス」などで高齢者や障害者をサポートする。他にも、内モンゴルで砂漠緑化のための植林を行ったり、欧州の環境を学んだりするプログラムがある。

牧野教授は「学生の成長にはさまざまな体験が不可欠」と断言した。

桃山学院大 就業力育成を支援

喫茶店「オアシス」で主婦らにアンケート調査を行う学生たち

桃山学院大 昭和34年に開学。国際は「キリスト教精神に基づいて人格を陶冶(とうや)し、世界の市民として広く国際的に活躍し得る人材の養成」。所在地は大阪府和泉市。

図 78 商工ナビいずみ 第 1 4 号 平成 2 3 年 2 月 1 5 日 発行

桃山学院大学

実践教育で「社会人力」を育てる！！

桃山学院大学では、「社会人力」の養成を重視した教育を実施しています。従来の大学とは、一歩違います。社会の変化に柔軟に対応できる力であり、その養成のために、知識や技能の習得のみならず、実践教育が必要です。さまざまな環境を体験し実際にこのような取り組みを行っているかを体験し、さらに実践に参加することを求めています。

このよう取り組みによって経営学部は、高度実践型大学の「大学生の就業力養成実践事業（国際化対応）」に選定されました。これによって、地域に連携した実践教育を実施します。ここでは、例として、経営学部が取り組んでいる実践教育をご紹介します。

店舗経営を実践する <科目名>地域ビジネス実践I

この授業では、店舗経営のノウハウを体験的に学び、学生が実際に大学で店舗を経営します。10人程度の少人数クラスの実践です。

■プロフェッショナルな講師陣から、業界知識、店舗計画、市場調査、仕入れ、在庫、会計、労務、接客などの幅広い知識を学ぶことができます。

■100名以上の学生が、大学内で実際に店舗を運営・接客を行います。また、プロフェッショナルな講師陣から、店舗計画、市場調査、仕入れ、在庫、接客などの幅広い知識を学ぶことができます。

■経営の現場を、経営の現場に直接参加し、実践的に学びます！！

■この実践教育を通して、学生は自ら主体的に「キャリア」を設計し、自己実現の道に進むことができます。

★最新のトレンド

近年では、店舗経営のノウハウを体験的に学ぶだけでなく、店舗の運営も実践的に学びます。店舗の運営は、プロフェッショナルな講師陣から、店舗計画、市場調査、仕入れ、在庫、接客などの幅広い知識を学ぶことができます。また、プロフェッショナルな講師陣から、店舗計画、市場調査、仕入れ、在庫、接客などの幅広い知識を学ぶことができます。

環境NPOの現場に学ぶ <科目名>環境ビジネス実践II

この授業では、環境NPOの現場に学び、環境NPOの現場に学びます。環境NPOの現場に学び、環境NPOの現場に学びます。環境NPOの現場に学び、環境NPOの現場に学びます。

■この授業では、環境NPOの現場に学び、環境NPOの現場に学びます。環境NPOの現場に学び、環境NPOの現場に学びます。環境NPOの現場に学び、環境NPOの現場に学びます。

■この授業では、環境NPOの現場に学び、環境NPOの現場に学びます。環境NPOの現場に学び、環境NPOの現場に学びます。環境NPOの現場に学び、環境NPOの現場に学びます。

■この授業では、環境NPOの現場に学び、環境NPOの現場に学びます。環境NPOの現場に学び、環境NPOの現場に学びます。環境NPOの現場に学び、環境NPOの現場に学びます。

図 79 いずみ会議所だより 2011年6月号 Vol.194 3頁

桃山学院大学で新たな地域連携・産学官連携授業 ～中小企業経営分析と農業ビジネス実践～

桃山学院大学 経営学部教授 朴 大栄

大阪南部で唯一の社会科学系総合大学である桃山学院大学は、和泉・泉南地域に位置する大学として、和泉市・地元各産業界との連携を重視してきました。昨年も地域連携・産学官連携の一環として一般市民にも公開したテクノステージ和泉寄附講座「経営学特講—地域ビジネス塾」（経営学部朴大栄教授担当）を開講し、和泉市長をはじめ、地元各界経営者を招いての講義が好評を博しました。

引き続き、今年度も実践教育として、地域連携による中小企業経営分析ならびに農業ビジネス実践授業（演習形式）を3年次ゼミ生（朴大栄担当）20名の参加を得て開始しております。この授業は、本年度文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業（現代GP）」に採択された桃山学院大学経営学部「実践教育による『社会人力』育成プログラム」の一環として開講されたものです。



～工業団地：テクノステージ和泉・トリヴェール和泉西部地区各企業との連携～

中小企業経営分析講座の目的は、大学近隣に所在する中小企業2社と連携して3年次演習受講学生2チーム（各6名）が経営分析、事業分析を実施し、学生の視点から事業内容、財務内容に関する諸提案を行うとともに、企業経営者から提供された課題に答えることにより、地域に根ざした実践教育を進めることにあります。

初年度にあたる今年は、和泉市2工業団地に所在する中小企業、テクノロール株式会社（和泉市テクノステージ3丁目4番5号）および株式会社共成（和泉市あゆみ野2丁目3番5号）と連携することとなり、4月25日と5月16日の2日にわたってそれぞれの企業見学ならびに経営者による企業概況説明を受けました。今後、大手監査法人で活躍する公認会計士の経営分析指導を受けるとともに、2社から提供された決算報告書の分析を進め、最終的には、企業側に対する分析結果のプレゼンテーションを行う予定です。

農業生産者・農産物加工販売業者との連携による農業ビジネス実践

演習所属学生8名によって構成される農業ビジネスチームは和泉農業活性化のための農業ビジネスを実践します。農業の重要性が叫ばれながら、農業従事者は減少の一途です。農業を補助金行政から独立させ、若者を呼び込む有望産業として育てるためには農業をビジネスとしてとらえる必要があります。農業生産と加工、販売をどのように結び付けるか、昨今言われるように、農業の第6次産業化をどのように達成させるか、地元農業生産者、加工販売業者との連携を図りながら学生の若い頭脳を働かせます。

地域企業・地元農家等との連携授業を通じて、まさしく活きた実践教育を進めるとともに、地元への愛着、さらには地域地場産業への就職などにも結び付けたいと考えています。



【本件に関する問合せ】 桃山学院大学 学長室事務局 TEL 0725-54-3131 FAX 0725-54-3203 e-mail gaku-ji@andrew.ac.jp

図80 泉北コミュニティ 1680号 14頁

◆和泉中央駅前や23日
チャリティーコンサート
和泉中央駅前のいづみ障
害者ふれあいプラザオアシ
スで23日12時〜4時半、「東
日本大震災チャリティーコ
ンサートinオアシス」が開
かれる。
同店の企画をサポートす
る桃山学院大経営学部牧野
ゼミや和泉市青少年リーダ
ー会、和泉市北池田中吹奏
楽部などが演奏や講演など
を催し、被災者を支援する。

図81 泉北コミュニティ 1683号 6頁



障害者ふれあいプラザ・オアシスでコンサート

エコール・いづみ2階の
いづみ障害者ふれあいブラ
ザ・オアシスで4月23日、
「東日本大震災チャリティ
ーコンサート」が開かれた。
コンサートでは、桃山学院
大のアカコースティクギタ
ーサークルによるライブや、
ビンゴ大会などが行われ、
家族連れや若者など大勢の
人が詰め掛けた。寄せられ
た募金8万1083円は日
本赤十字社を通して被災地
に届けられる。
コンサートは、オアシス
の経営コンサルティングを
担っている桃山学院大経営
学部の牧野ゼミが企画。和
泉市青少年リーダー会など
の協力で開催された。
同ゼミは、10年度から5
年続く文部科学省の大学生
の就業力育成支援事業採択
実践教育「社会人力」育成
プログラムに選ばれ、学生
らは福祉ビジネスの実践に
取り組んでいる。
オアシスの経営コンサル
ティングもその実践の一つ
だが今回は、大震災を受け
て、チャリティーコンサ

桃大のゼミ生がコンサートを企画

当日はあいにくの雨だっ
たが、満席に。ゼミ代表の
小池啓貴（ひろき）さんは
「地域とのネットワーク作
りが難しいと思ってました
が、多くの人が声をかけて
くれ、うれしいことがいっ
ぱいでした」と。（横山）

トを企画。地域とのネット
ワーク作りから、募金協力
者に手作りワッペンブレ
ゼント、チャリティーコー
ヒー販売など、コンセプト
作りから企画まですべて牧
野ゼミの学生35人が担当し
た。

図 82 泉北コミュニティ 1698号 3頁



絵はがき教室が大盛況

桃大生らが企画運営で活躍

「この夏の思い出を絵はがきに残しませんか?」と、いずみ障害者ふれあいプラザの絵はがき教室が開かれ、

ザ・オアシス（エコールいがき）で8月24日、1日だ

大勢の参加者が絵はがき製作を楽しんだ。主催したのは同店と、同店を支援する桃山学院大経営学部・牧野ゼミの学生ら。若い人らの情熱が伝わる企画で参加者を喜ばせた。

同学部の牧野丹奈子教授のゼミでは昨年からおアシスの運営をサポート。今回も企画から講師選定、参加者動員まで18人のゼミ生が奔走、教室を成功させた。

講師依頼担当の学生は和泉シテイプラザで絵の教室を開いている講師に直接交渉。学内の美術部OBなどにもボランティアで指導を頼んだ。

また、参加者を募る担当の東亮次君と橋本茂治君（共に3回生）は、知的障害者作業所・フレンズ（和泉市）に行き、会議の場でプレゼンテーションを行った。

当日は、フレンズの参加者一人ひとりにサポートの学生がつき、おしゃべりしながら絵を描いた。（横山）

手描きの絵はがきを手に、参加者ら

図 83 泉北コミュニティ 1698号 15頁

17日にコンサート

和泉中央の桃大ゼミ生ら運営

和泉中央の桃大ゼミ生ら運営

地域に役立ち、愛されるメニューの3班に分かれ活動。8月には、メニュー班の藤大輝君が中心になり和泉市の地場産野菜を使った夏野菜カレーを考案し販売、好評を博した。

当日のコンサートは、同大のアカコースティクギターサークルの演奏や、北池田中学吹奏楽部による宮崎駿メドレー演奏などのほか、和泉子ども会リーダークラブがゲームで楽しませる。

経営コンサルティングは、福祉ビジネス実践の一端として昨年4月からスタート。障害を持つ人らが働き、ふれあいを大切にしていておアシスをより地域に密着した店にし販売促進も、と取り組んでいる。

学生はイベント、教室、

9. 連携機関一覧

飯坂農園・泉大津商工会議所・和泉市環境産業部商工労働室商工観光担当・和泉市北池田中学校吹奏楽部・和泉市久保惣記念美術館・和泉市こども会リーダークラブ・和泉シティプラザ・和泉市青少年リーダー会・大阪アジア映画祭実行委員会・大阪いずみ生活協同組合・大阪府環境農林総合研究所・大阪管区気象台・大阪府水産技術センター・大阪府立図書館・大阪府立南大阪高等職業技術専門学校・カフェ WITH・株式会社朝日ネット・株式会社ウィル・株式会社海遊館・株式会社共成・株式会社喜六・株式会社グリップインターナショナル・株式会社桜プリント・株式会社玉屋・株式会社日立製作所・株式会社マドック・株式会社ワオ・コーポレーション・上方芸能資料館・関西トランスウェイ株式会社・旭堂南青（講師）・経済産業省立地環境整備課・公益財団法人大阪府文化財センター・コープ自然派・財団法人日本総合研究所・堺市立中央図書館・さをりの森・滋賀県立大学・シネ・ヌーヴォ・泉州羊毛工業株式会社・タプルーツオフィス・テクノロール株式会社・特定非営利活動法人 地球環境と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)・特定非営利法人女性と仕事研究所・トリイホール・内閣官房地域活性化統合事務局・西日本電信電話株式会社・日本コンベンションサービス・日本人造真珠硝子細貨工業組合・農園「槇ノ泉」・農業生産法人株式会社いずみエコロジーファーム・林家染左（落語家）・弁護士法人淀屋橋・山上合同・明治大学・有限会社いずみの里・りそな銀行 和泉中央支店・HAYA English Academy・NPO 法人コミュニティシネマ大阪・NPO 法人チャレンジド・ネットいずみ（喫茶オアシス）・TRC（和泉市立図書館の指定管理者受託企業）

※順不同・敬称略

実践教育による「社会人カ」育成プログラム

平成 22 年度 文部科学省 大学生の就業力育成支援事業（就業力 G P）採択
【平成 22 年度～平成 23 年度】 中間報告書

平成 25 年 3 月発行

編集／桃山学院大学 全学就業力 G P 委員会

発行／桃山学院大学


〒594-1198

大阪府和泉市まなび野 1-1

TEL 0725-54-3131（代表）

<http://www.andrew.ac.jp/>

印刷・製本／株式会社 桜プリント



世界が変わる
体験がある。

桃山学院大学
<http://www.andrew.ac.jp>